

メ勅裁ヲ待ツコトヲ得(内閣制第三條)

右ハ各省大臣ニ對シ内閣總理大臣ガ上級官廳ノ如キ觀アルモ然ラズ。内閣總理大臣ハ直接ニ指揮監督スルニアラズシテ、勅裁ヲ仰グニ過ギザルナリ。故ニ各省大臣ガ最上級官廳タル地位ト、毫モ矛盾セザルモノナリ。(三)總テノ法律勅令條約及ビ其ノ他ノ國務ニ關スル詔勅ニハ内閣總理大臣副署スルヲ要ス。(公式令規定)

副タル權限

第二、内閣總理大臣ノ副權限

- 副タル權限トハ各省大臣ノ主管ニ屬セザル事務ニシテ、特ニ内閣總理大臣ノ主管事務ト規定セラレタル事務ヲ執行スルノ權限ヲ云フ。其ノ主ナルモノ左ノ如シ。
- (一)官吏ノ恩給遺族扶助料審査……………(恩給局)：上記受領資格及權利ノ審査裁決支給
- (二)官吏任用資格ノ査定……………(文官試驗委員)：高等普通文官試驗、委任官銜
- (三)勳位勳章記褒章年金等ノ授與……………(賞勳局)：上記事項及外國勳章受領及佩用
- (四)詔勅及ビ法律命令ノ發布……………(印刷局)：官報、法令全書、印紙、郵便切手、證券
- (五)法律命令ノ起草審議……………(法制局)：上記及法令ノ制定廢止改正ノ意見案

各省大臣ノ地位

三、各省大臣 (Minister of Department)

第一、各省大臣地位

- (六) 拓殖ニ關スル事務……………(拓殖局)：臺灣・樺太・朝鮮・關東州
- (七) 行政ニ關スル統計事務……………(統計局)：行政各部統計・報告刊行
- (八) 鐵道軌道ニ關スル事務……………(鐵道院)：上記事務掌理(鐵道院總裁、親任官)
- (九) 其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ閣令ヲ發スルコト(内閣官制第四條)……………
- (一〇) 閣令ニ署名スルコト(公式令第十條)……………
- (二) 其所管ノ事務ニツキ警視總監、北海道廳長官及府縣知事ヲ指揮監督ス。若シ其ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ之ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得(内閣官制第四條)……………

各省大臣ハ特別ノ中央官廳ニ委任セラレザル一切ノ行政事務ヲ分擔シ、其ノ各部ノ最上級ニ位シ、全國ニ通ズル職權ヲ有スル獨任制ノ行政官廳ナリ。行政ノ各部ハ現行各省官制通則ニヨレバ、外務、内務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ九省ニ分ル。從テ各省大臣ハ是等九省ノ各長官ナリ。各省大臣ハ右ノ如ク一面各省長官、内閣總理大臣ヲ除クトシテ行政機關

ルト共ニ他面ニ於テハ國務大臣トシテ憲法上ノ輔弼機關タルモノナリ。此ノ兩地位ヲ大臣ガ占ムルハ是レ便宜ニ基ヅク制度ニシテ行政長官タル地位ト國務大臣タル地位トノ全然異ナルモノナルコトハ第二編第四章第三節ニ之レヲ述ベタリ。又此ノ外大臣ハ内閣ノ一員トシテ閣議ニ參與スル職務ヲ有スルコトハ前項ニ説明セルガ如シ。

第二、各省大臣ノ權限

各省大臣ハ最上級ノ行政官廳直接天皇ニ隸屬ストシテ天皇ヨリ委任セラレタル範圍内ニ於テ行政事務ヲ行フノ權限ヲ有ス。而シテ其ノ權限内ノ事務ニツキテハ内閣及ビ内閣總理大臣ノ指揮監督ヲ受クルモノニアラザルガ故ニ最上級ノ行政官廳タルモノナリ。即チ天皇ト各省大臣トノ間ニ上級ノ官廳ノ介在スルモノナシ。從テ其ノ主任事務ニ付テハ自ラ絶對ニ之レガ責任ヲ負フモノナリ。其ノ權限ハ法律勅令ノ範圍内ニ於テ行フモノナルコトハ勿論ナリトス。左ニ各省大臣ニ共通スル權限ヲ述ブベシ。(各省官制通則ヲ參照スベシ)

(一) 省令

主任ノ事務ニツキ其職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコト。(各省官制通則四條)此ノ省令ニハ百圓以内ノ罰金若クハ料料又ハ三月以下ノ懲役禁錮若クハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得四十一年勅令二四五號是ハ閣令ニ付テモ同様ナリ。

(二) 指令及訓令

主任ノ事務ニツキ下級官廳タル警視總監北海道廳長官府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ發スルコト。(各省官制通則五條)コレ下級官廳ヲ指揮シ且其ノ權限ノ行使ニ付テ法律命令ノ解釋ヲ一定センガタメナリ。訓令トハ下級官廳ニ對スル命令ニシテ指令トハ伺ニ對シテ與フル答辯ヲ云フ。

(三) 下級官廳ノ監督

主任ノ事務ニ付キ警視總監北海道廳長官府縣知事ヲ監督ス。若シ警視總監北海道廳長官府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得。(各省官制通則六條)

(四) 部下ノ官吏監督

第二編 第六章 行政法 第二節 行政機關

所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ内閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以上ハ之ヲ專行ス。(各省官制通則七條)

右ハ各省ノ長官トシテ、其ノ省及ビ其ノ下級官應ニ屬スル官吏ノ職務上及職務外ノ行狀ニ對シテ、監督權(命令懲戒處分懲戒申請)ヲ行フモノナリ。
(五) 國家行爲ノ立案準備

主任事務ニ關シテ天皇ノ大權ニ依リテ行ハルベキ、凡テノ國家行爲ニ付テ其ノ立案準備ヲ爲スモノナリ。例ハ法律案議案勅令詔書詔書ノ草案ハ、主任大臣ニテ立案シ之レヲ閣議ニ提出スルナリ。又官吏ノ任命叙位叙勳ニ付テモ、主任大臣ヨリ閣議ニ提出シ、或ハ内閣總理大臣ヲ經テ上奏スルモノナリ。

閣議ノ請求

(六) 閣議ノ請求

主任大臣ハ其ノ所見ニ由リ何等ノ件ヲ問ハズ内閣總理大臣ニ提出シ閣議ヲ求ムルコトヲ得。(内閣官制六條)
以上ハ各省大臣共通ノ權限ナリ。此ノ外特別ノ法律勅令ニヨリテ特種ノ權限ヲ有スルモノアリ。

特種ノ權限

國家行爲ノ立案準備

各省大臣ノ補助官

第三、各省大臣ノ補助官

例ハ外務大臣ガ關東都督ヲ監督シ、或ハ遞信大臣ガ郵便電信電話ニツキ大藏大臣ガ銀行關稅ニ關スル事務ニツキ、樺太廳長官ヲ監督スルガ如シ。

各省大臣ハ官制ニヨリテ定メラレタル事務ヲ分擔スル獨任制ノ行政官應ナリ。各省ヲ以テ官應ナリト誤解スベカラズ。各省ハ唯大臣ノ事務所ニ過ギズ。又補助官吏ハ官應ノ一部ヲ爲スモノニアラズ。各省大官ノ補助機關ハ省ニ依リテ多少ノ異同アレドモ、現行官制ニヨレバ次官一人局長參事官秘書官書記官及ビ屬各若干名ナリ。左ニ其ノ職務ヲ述ブ。(各省官制通則參照)
(一) 次官 大臣ヲ佐ケ省務ヲ整理シ各局部ノ事務ヲ監督ス。(一人勅任)
(二) 各局局長 大臣ノ命ヲ承ケ其主務ヲ掌理シ及局中各課ノ事務ヲ指揮監督ス。(一人勅任)

(三) 參事官 大臣ノ命ヲ承ケ審議立案ヲ掌ル。(奏任但一人勅任トナスヲ得)
(四) 秘書官 大臣ノ命ヲ承ケ機密事務ヲ掌ル。(奏任)
(五) 書記官 大臣ノ命ヲ承ケ大臣官房ノ事務ヲ掌リ又ハ各局ノ事務ヲ助ク。(奏任)

次官
局長
參事官
秘書官
書記官

法制經濟大資料 (法制編)

(六) 屬 上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス。(判任)
◎大臣官房

大臣官房トハ大臣補助ノタメニ設ケタル機關ニシテ、秘書官書記官ヲ置キ、左ノ事務ヲ掌ラシムルモノナリ。

- (1) 機密ニ屬スル事項
 - (2) 官吏ノ進退身分ニ關スル事項
 - (3) 大臣ノ官印及省印ノ管守ニ關スル事項
 - (4) 公文書類及成案文書ノ接受發送ニ關スル事項
 - (5) 統計報告ノ調製ニ關スル事項
 - (6) 公文書類ノ編纂保存ニ關スル事項
 - (7) 本省所管ノ經費及諸收入ノ豫算決算並會計ニ關スル事項
 - (8) 會計ノ監査ニ關スル事項
 - (9) 本省所管ノ官有財産及物品ニ關スル事項
 - (10) 其ノ他ノ各省官制ニ依リ特ニ大臣官房ノ所掌ニ屬セシムル事項
- 各省省務分掌ノタメ大臣官房及ビ局ヲ置ク。局ノ配置ハ各省差異ナリ。

第四、外務行政

(一) 外務大臣

外務大臣ハ外國ニ關スル政務ノ施行外國ニ於ケル帝國商事ノ保護及外國在留帝國臣民ニ關スル事務ヲ管理シ、外交官及領事官ヲ指揮監督ス。外務省ニ左ノ三局ヲ置ク。(3) 取調局 法律事項ニ關スル涉外事務

(1) 政務局 外交政務政治上條約在帝國外國人外國艦船事項

(2) 通商局 通商航海移民ノ事務旅券及戶籍事務

(二) 外交官

外交官トハ外國ニ派遣セラレ、駐在國ニ於テ本國ヲ代表シテ外交事務ヲ掌ル官吏ニシテ、特命全權大使、特命全權公使、大使官、參事官、辦理公使、大使館一等二等三等書記官、公使館一等二等三等書記官、外交官補トス。以上大使公使等ノ説明ハ後章國際法ノ部ニ説明スルヲ以テ茲ニ之ヲ略ス。

(三) 領事官

領事官ハ外國ニ駐在シテ專ラ帝國臣民ノ貿易通商及航海ノ利益ヲ保護獎勵シ、併セテ在留國民ノ保護取締ヲナスモノニシテ、總領事、領事、副領事、領

事官補ニ分タル。領事ノ説明ハ後章國際法ノ部ニ之ヲ述ベシ。領事官

條約國ハ合衆國大不列顛國露西亞和蘭佛蘭西葡萄牙獨逸瑞西白耳義伊
太利丁抹瑞典諾威西班牙埃太利匈牙利清國秘魯哥倫比亞暹羅墨西哥伯刺
西亞爾丁希臘智利ノ二十四箇國ニシテ内大使館ヲ設置スルハ英米佛獨伊
埃露ノ七箇國ニシテ公使館ヲ設置スルハ清和墨暹伯智白西瑞典ノ九箇國
ナリ。條約ニ關スル説明ハ後章國際法ノ部ニ之ヲ述ベシ。

第五内務行政

(一) 内務大臣

内務行政

内務大臣

内務大臣ハ神社地方行政議員選舉警察土木衛生地理宗教出版著作權版
恤及救濟ニ關スル事務ヲ管理シ警視總監北海道廳長官及府縣知事ヲ監督
ス。内務省ニ左ノ六局ヲ置ク。
(1) 神社局：神社官國幣社府縣鄉村社招魂社神官神職
(2) 地方局：議員選舉府縣郡市町村會及其行政賑恤救濟徵兵徵發等
(3) 警保局：行政警察高等警察圖書出版及著作權新聞紙雜誌ノ檢閱

内務行政特
設機關

(二) 内務行政ノ特設機關

(1) 神宮司廳

神宮司廳ハ伊勢ノ神宮ニ置キ祭主ハ親任官トシ皇族ヲ以テ之レニ任
ズ。大御手代トシテ奉齋シ祭事ヲ管理ス。大宮司ハ祭主ノ命ヲ承ケテ
祭祀ニ奉仕シ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケテ所部ノ職員ヲ統督ス。

(2) 衛生上機關

中央衛生會ハ内務大臣ノ監督ニ屬シ公衆衛生獸畜衛生ニ關スル事項
ニ付各省大臣ノ諮詢ニ應ジ意見ヲ開申シ或ハ建議スルコトヲ得ベシ。
衛生試驗所ハ内務大臣ノ管轄ニ屬シ衛生上試驗ニ關スル事項ヲ取扱
フ所トス。東京大阪横濱ノ三箇所ニ設置ス。

内務行政作用

傳染病研究所ハ内務大臣ノ管理ニ屬シ、傳染病其ノ他病原ノ檢索豫防治療方法ノ研究、痘苗血清等ノ製造等ニ關スル研究ニ從事ス。右ノ外日本藥局方調査會アリ。以上ノ外、古社寺保存會、港灣調査會等アリ。

(三) 内務行政作用

左ニ内務行政作用中、主ナル地方行政、議員選舉、警察作用ニツキテ述ブベシ。

(1) 地方行政

市町村府縣郡其ノ他公共組合ノ自治作用ニテ行ハル、地方行政ハ、内務大臣之レヲ監督ス。其ノ監督ハ自治制ノ本旨ヲ全フセシムルニアリ。即チ住民、公民ノ權利行使、負擔義務ノ履行、團體ノ職員及議員ノ選舉等ヲシテ自治ノ精神ニ適セシメ、自治制ノ美果ヲ收メシメントスルナリ。

議員選舉

(2) 議員選舉

衆議院議員、府縣會郡會市町村會議員等ヲ選舉スルハ、人民ノ參政權ナレドモ、其ノ適當ニ行使セラル、ト否トハ憲政ノ美果ヲ收ムルニ付キ至

地方行政

警察作用

(3) 警察作用

大ノ關係ヲ有ス。故ニ行政官廳ハ敢テ選舉ノ自由ヲ妨グザルト同時ニ選舉ノ監督ヲ勵行セザルベカラズ。

警察トハ國家及ビ個人ノ安寧秩序ヲ妨グル危害ヲ除去スル爲メニ、直接ニ個人ノ自由ヲ制限スル行政區域内ノ權力作用ヲ云フ。例ヘバ一定ノ生業ヲ有セザル者ニ對シ生業ニ從事スルコトヲ命ジ、或ハ集會ニ立入り之レヲ妨グベカラザルコトヲ命ズルガ如シ。而シテ警察命令ハ強行性質ヲ有シ、拘引、拘留、差止物件ノ差押、家宅ノ搜索ヲ爲ス。

警察作用ノ大部分ハ内務行政ノ範圍ニ屬スト雖モ、行政各部ハ又其ノ所管ノ事務ニツキテ警察權ヲ行フモノナルコト左ノ如シ。

保安警察(内務大臣所管)

〔一名一般警察〕
高等警察：國家ノ危害ニ關ス
尋常警察：私人ノ安寧ニ關ス

行政警察

各部警察

〔狭義行政警察〕
内務大臣所管：衛生、銃砲、火藥、取締、營業等
外務大臣所管：外國人取締、移民保護等
遞信大臣所管：電氣、船舶等

警察

(農商務大臣所管)：鑛業、獸疫、狩獵等

(司法警察(司法大臣所管)：裁判所ノ指揮、犯罪人捜査逮捕等

行政警察
司法警察

警察ヲ分チテ行政警察、司法警察トス。司法警察ハ司法裁判所ノ指揮監督ニ屬シ刑事訴訟法ノ定ムル所ニシテ行政法ノ關スル所ニアラズ。行政警察ハ更ニ分チテ保安警察各部警察トス。各部警察ハ通常行政警察ト稱スルモノニシテ、行政各部ニ亙ル個々ノ利益ヲ保護スル警察作用ニシテ、特別ノ行政目的ヲ達スルガ爲メニ、之レニ伴フテ行ハル、モノナリ。(前表參照)

保安警察

保安警察ハ一般警察ト稱スルモノニシテ、特別利益ニ關スルコトナク個人及ビ公共ニ對スル危害ヲ一般ニ保護スル警察作用ニシテ、自己獨立ノ目的ヲ有スルモノナリ。例ヘバ集會結社ノ自由ヲ制限スル、單ニ社會ニ有害ナル影響ヲ防止スルコトヲ目的トスルノ外何等ノ目的ヲ有セザルモノナリ。

高等警察

保安警察ハ之レヲ分チテ高等警察、尋常警察トス。高等警察トシテ

尋常警察

公安警察ト稱スルモノニシテ、警察權ノ豫防スル危害ノ性質ガ廣ク國家其モノニ關スルモノヲ云フ。例ヘバ集會結社出版ニ關スル取締、及ビ戰時又ハ事變ニ對スル非常警察權行使ハ高等警察ノ作用ニ屬ス。尋常警察トハ一ニ私安警察ト稱スルモノニシテ、危害ガ國家其ノモノニ關セズ主トシテ私人ノ安寧ニ關スルモノヲ云フ。即チ各個人ニ對スル保護監督、又ハ懲戒ヲ以テ直接目的トスルモノニシテ、例之乞丐及ビ浮浪人ノ懲戒、或ハ粗暴行爲者ノ行動制限等コレナリ。保安警察ハ内務大臣之レヲ主管シ、其ノ下ニ北海道廳長官知事、警視總監、臺灣總督等アリ。其ノ下ニ警視警部巡查等アリテ其ノ事務ヲ執行ス。此ノ以外ニ憲兵アリ。陸軍大臣ノ管轄ニ屬シテ保安警察ノ補助ヲナスモノナリ。(治安警察法、行政警察規則、行政執行法、豫戒令、新聞紙條例、出版法、著作權法等參照)

第六 財務行政

(一) 大藏大臣

大藏大臣ハ政府ノ財務ヲ總轄シ、會計出納、租稅、國債、貨幣、預金、保管物、信託及銀行ニ關スル事務ヲ管理シ、府縣郡市町村及公共組合ノ財務ヲ監督ス。

財務行政
大藏大臣

大藏省ニ左ノ五局ヲ置ク。

- (1) 主計局：總豫算總決算特別會計ノ豫算及決算府縣郡市町村等ノ歲計
 - (2) 主稅局：國稅ノ賦課徵收稅務ノ管理監督民有地目變換土地臺帳等
 - (3) 關稅局：關稅噸稅ノ賦課徵收稅關諸收入外國貿易船舶輸出入品監督
 - (4) 理財局：國資運用出納國庫出納管理貨幣銀行ノ監督信託事項等
 - (5) 國債局：國債募集借入償還整理利拂國債證券大藏省借入證書年金恩給
- 此ノ他造幣局ヲ大阪ニ置キ貨幣ノ鑄造舊貨幣ノ鑄潰賞牌ノ製造地金銀ノ精製分析等ヲナサシメ專賣局ヲ東京ニ置キテ煙草鹽樟腦樟腦油ノ製造販賣等ニ關スル事項ヲ掌ラシム。又稅關ヲ橫濱神戸大阪長崎函館ノ五港ニ置キ關稅噸稅及稅關諸收入等ニ關スル一切ノ事項ヲ掌ラシメ全國ニ稅務監督局ヲ置キテ內國稅ニ關スル事務ヲ監督セシム。現在十八局アリテ、其ノ管轄區域ハ府縣全部ヲ分合シ全國ニ亘ラシム。
- (二) 財務行政作用
- 財務行政作用ニ關シテハ、本書經濟編第六編財政論ニ述ブルヲ以テ茲ニ之レヲ省略シ、唯其ノ主ナル項目ヲ舉グルニ止ム。

第七、軍務行政

(一) 陸軍大臣

- (1) 租稅 國費支辨ノ爲メ國家ガ權力ヲ以テ、無價ニテ個人ノ財產ヨリ強制的ニ徵收スル收入ヲ云フ。其ノ主ナルモノハ地租所得稅營業稅酒稅膏油稅砂糖消費稅取引所稅兌換銀行券發行稅關稅印紙稅等ノ國稅、及ビ府縣稅市町村稅等ノ地方稅等ナリ。
- (2) 手数料 官廳ガ一個人ノ爲メニスル手數ニ對シ、此ノ人ヨリ徵收スル金額ヲ稱シテ手数料ト云フ。例ヘバ登記料免許料鑑札料受驗料等ナリ。
- (3) 官業 國家ガ其ノ營業トシテ執行スル、一切ノ事業ヲ稱シテ官業ト云フ。例ヘバ貨幣鑄造郵便電信電話煙草專賣等ナリ。
- (4) 官有財產 國家ニ屬スル財產ヲ官有財產ト云フ。
- (5) 國債 國家カ其ノ信用ヲ以テ一定ノ原因ノタメニ、特ニ負擔スル債務ヲ云フ。例ヘバ軍事公債鐵道公債等コレナリ。

陸軍大臣ハ陸軍軍政ヲ管理シ陸軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄諸部ヲ監督ス。
陸軍省ニ左ノ七局ヲ置ク。

- (1) 人事局：陸軍武官及文官ノ進退任免補職恩給叙位叙勳休暇廢兵院等
 - (2) 軍務局：陸軍建制編制動員計畫戒嚴演習檢閱軍紀風紀教育等
 - (3) 兵器局：兵器ノ制式支給交換検査兵器廠砲兵工廠工兵器具鐵道氣球等
 - (4) 經理局：軍資運用動員豫算諸給與被服糧秣馬匹諸建築調度規定等
 - (5) 醫務局：衛生病院轉地療養所身體検査等
 - (6) 法務局：軍事司法監獄特赦罪人引渡等
 - (7) 馬政局：馬匹改良繁殖馬政
- (二) 陸軍關係ノ事項
- (1) 陸軍常備團隊配備

陸軍常備團隊ハ步兵騎兵野砲兵山砲兵工兵輜重兵重砲兵交通兵警備隊軍樂隊ヨリ成ル。師團ハ近衛師團ヲ東京ニ置キ、其ノ他ノ師團ハ之レヲ全國各地ニ置ク。第一東京 第二仙臺 第三名古屋 第四大阪 第五廣島 第六熊本 第七旭川 第八弘前 第九金澤 第十姫路 第十一善通寺 第十二小倉 第十三高田 第十四宇都宮 第十五豊橋 第十六京都 第十七岡山 第十八久留米 ノ十八箇師團ナリ。此ノ他常備諸團隊ハ臺灣守備混成旅團基隆要塞重砲兵大隊澎湖島要塞重砲兵大

隊清國駐屯軍韓國駐屯軍憲兵隊アリ。上述ノ如ク陸軍軍隊ノ永久一地ニ配備駐屯スルヲ衛戍ト稱シ、其ノ駐屯地ヲ衛戍地ト云フ。

陸軍管區 陸軍ノ國防用兵及ビ軍事行政上ノ便宜ノ爲メニ全國ヲ區劃ス。師管旅管聯隊區警備隊區ノ四アリ。左ノ如シ

各師管：師團 師團司令部 師團長中將軍令及軍政

各旅管：旅團 旅團司令部 旅團長少將聯隊統率訓練

各聯隊區：聯隊 聯隊區司令部 司令官 徵兵召集在郷軍人管轄

各警備隊區：司令部 徵兵召集警備等 沖繩及對島ノ二箇所

要塞 永久ノ目的ヲ以テ國防ノ爲メニ海岸ニ建設シタル諸般ノ陸上防禦營造物即チ砲臺ヲ要塞ト云フ。各要塞ニハ重砲兵ヲ配布ス。現今要塞ヲ十二箇所ニ置ク。東京灣由良藝豫廣島灣下關舞鶴函館佐世保長崎對島基隆澎湖島之レナリ。

(2) 陸軍軍人種類

大中少將將官(大中少佐(上長官)大中少尉(士官)特務曹長(准士官)曹長軍曹伍長(下士)上等兵一二等卒アリ。上長官以下ハ各步兵騎兵砲兵工兵輜重

兵憲兵等ニ分ル。其ノ他軍醫官藥劑官獸醫官軍吏等ノ相當官アリ。

(3) 陸軍教育

陸軍ニハ教育總監部アリテ東京ニ置キ陸軍全般教育ノ齊一進歩ヲ規畫スル所トス。而シテ其ノ統督ノ下ニ砲工學校・戶山學校・士官學校・中央幼年學校・地方幼年學校・騎兵實施學校・野戰砲兵射擊學校等アリ。又別ニ陸軍大學校アリテ高等用兵ニ關スルコトヲ修メシメ、軍醫學校・獸醫學校アリテ軍隊軍馬ノ衛生ニ關スル教育ヲ施ス。

(三) 海軍大臣

海軍大臣ハ海軍軍政ヲ管理シ海軍軍人軍屬ヲ統督シ所轄所部ヲ監督ス。海軍省ニハ左ノ五局ヲ置ク。

- (1) 軍務局：建制編制役務軍紀風紀戒嚴徵發水路望樓海上保安艦政演習
- (2) 人事局：高等武官候補生准士官及文官ノ進退任免軍人軍屬ノ叙位叙勳
- (3) 醫務局：醫務衛生恩給診斷軍人體格病院治療品軍醫官及藥劑官ノ教育
- (4) 經理局：豫算決算出納給與被服糧食通常物品主計官ノ教育
- (5) 司法局：軍事司法徵罰監獄

(四) 海軍關係ノ事項

(1) 海軍區

海防ノ爲メニ帝國ノ海岸及海面ヲ分チテ四海軍區トシ、關東州ノ海面ヲ一海軍區トシ、合計五海軍區ナリ。各海軍區ニ鎮守府ヲ置ク。

第一海軍區 羽後ヨリ東海南海岸ニ沿ヒ紀伊迄及北海道樺太小笠原島

第二海軍區 紀伊ヨリ長門筑前ヨリ大隅迄四國海岸面並ニ内海

第三海軍區 筑前ヨリ西海岸大隅迄壹岐對島沖繩臺灣澎湖列島海岸面

第四海軍區 長門ヨリ西海岸羽後迄隱岐佐渡ノ海岸面

關東州海軍區 關東洲ノ海岸海面

右海軍區ノ第一橫須賀第二吳第三佐世保第四舞鶴關東州旅順ニ鎮守府ヲ置キ、出師ノ準備防禦ノ計畫軍港警備並ニ所轄諸部ノ事務ヲ監督ス。鎮守府ニ司令長官ヲ置キ麾下ノ艦隊艦船團隊ヲ統率セシメ兼ネテ軍政ヲ掌ラシム。(朝鮮ノ鎮海灣モ軍港トスル爲設備中ナリ)

要港 要港ハ軍港ニ次グ海軍根據地ナリ。大湊港・竹敷港・馬公港ノ三要港部及ビ朝鮮ノ永興灣是ナリ。

(2) 海軍軍人種類

大中少將(將官)大中少佐上長官(大)中少尉兵曹長(士官)上等兵曹(准士官)一
二三等兵曹(下士)等アリ。又機關官軍醫官藥劑官及主計官造船官造兵官
等ノ相當官アリ。

(3) 海軍教育

海軍教育本部アリ其ノ下ニ海軍大學校兵學校機關學校砲術學校水雷
學校工機學校經理學校等アリ。又別ニ海軍醫學學校アリ。

(五) 兵役

兵役ノ義務ハ徵兵令ニヨリテ定マル。日本臣民タル男子ニシテ滿十七
歳ヨリ滿四十歳迄ノモノハ、スベテ兵役ニ服スル義務ヲ有ス。但シ重罪ノ
刑ニ處セラレタルモノハ、兵役ニ服スルコトヲ許サズ。

兵役ハ常備兵役(現役)豫備兵役(後備兵役)補充兵役及ビ國民兵役ノ四種ニ分
ツ。現役ハ滿二十歳ニ至リタルモノ之レニ服ス。左ノ如シ。

現役	陸軍三年	滿二十歳之ニ服ス
	海軍四年	

常備兵役

豫備役

陸軍四年四月
海軍三年

現役終リタル者之ニ服ス

後備兵役

陸軍十年
海軍五年

常備兵役終リタル者之ニ服ス

兵役

補充兵役

陸軍十二年四月
海軍一年

其年所要ノ現役兵員ニ超過
スル者ノ中ヨリ之ニ服ス

國民兵役

第一國民兵役
第二國民兵役

後備及補充役ヲ終リタル者之ニ服ス
常備後備補充及ビ第一國民兵役
ニ在ラザル者之ニ服ス(四十歳迄)

◎志願兵 二十歳ニ至ラザルモ滿十七歳以上ノ者ハ志願ニヨリ現役
ニ服スルコトヲ得。

第八 司法行政

(一) 司法大臣

司法大臣ハ裁判所及檢事局ヲ監督シ、檢察事務ヲ指揮シ、民事刑事非訟事

件・戶籍・監獄及出獄人保護ニ關スル事項、其ノ他諸般ノ司法行政事務ヲ管理ス。司法省ニ次ノ三局ヲ置ク。(1)民事局：裁判所ノ設立廢止・民事・非訟事(2)刑事局：刑事事件・裁判・檢察・恩赦・復權等。(3)監獄局：監獄・假出獄・免幽閉・假免出獄人保護等

右ノ外法律取調委員會ヲ司法省内ニ置キ、司法大臣之レヲ監督シ、其ノ指定シタル民事刑事ニ關スル法律ヲ調査審議ス。

(二)司法行政作用

司法行政ハ司法作用ト異ナリ、訴訟ノ裁斷又ハ刑罰ノ附科ヲ其ノ目的トナスモノニアラズシテ、司法作用ノ目的ヲ達セシムルタメ監督設備又ハ補助ヲナスモノナリ。例ヘバ裁判所ノ廢置又ハ管轄ヲ定メ、司法官ノ任免進退ヲ決シ、裁判ノ準備又ハ執行ヲナスガ如キコレナリ。茲ニハ司法行政作用中主ナル戶籍・身分登記・監獄ニツキテ述ブベシ。

戶籍及身分登記

戶籍及身分登記ニ關スル事務ハ、戶籍法ノ規定ニヨリ市町村長若クハ區長之レヲ管掌ス。然レドモコレ區裁判所判事監督ノ下ニ於テ行フモ

ノナリ。戶籍トハ一家ノ屬籍ニシテ、其ノ家ガ市町村ノ一定行政區劃ノ下ニ屬スルコトヲ明カニシ、併セテ各人ノ身分ニ關スル事項ヲ登錄シテ之レヲ公證スルモノナリ。戶籍簿ハ各人ガ本籍ヲ定屬セシメタル土地ノ番號ノ順序ニ從ヒ、戶籍ヲ編綴シタル帳簿ナリ。此ノ戶籍ハ家族組織ヲ基礎トセル國ニ於テ必要ナルモノナリ。

身分登記トハ各人ノ身分ニ關スル事項ヲ登錄シテ之レヲ公證スルモノニシテ、各人ノ權利義務ヲ定ムルニ必要ナル條件ナリ。戶籍ハ本籍人ニ付テノミ編制セラル、ニ反シ、身分登記ハ本籍人及ビ非本籍人ニ付テ行ハル、モノナリ。身分登記ノ取扱ハ戶籍吏ノ職務ニ屬ス。身分トハ人ノ法律的關係ニ於ケル人事上ノ地位ヲ指稱スルモノニシテ、華士族・平民・戶主・家族・夫妻・親子・原籍・其ノ他親族等コレナリ。而シテ身分登記トハ戶籍法ニヨリ戶主ノ變更・隱居・婚姻・養子・縁組・離婚・離縁・廢絶・家再興・分家等ノ届出ヲ登記スルヲ云フリ。

監獄

監獄ハ犯罪人ニ對シ刑罰ノ執行ヲナスノ場所ニシテ司法大臣ノ管理

ニ屬シ、典獄看守長、技手、通譯、監獄醫、教誨師、教師、藥劑師、看守女監取締ノ職員ヲ置ク。監獄ノ目的ハ囚徒ヲ留置シテ犯罪ヲ防遏シ、且犯人ヲ懲戒シテ遷善悔悟セシムルニ在リ。故ニ監獄ニ於テハ囚人ヲ遇スルニ絶對的ニ苦痛ヲ以テ責ムルコトヲ爲サズ、多少教育スルノ主義ヲ採用シ、或ハ僧侶教師等ヲシテ說教ヲナサシメ、或ハ品行善良ナルモノニハ假出獄特赦ノ途ヲ得セシムルナリ。監獄ノ種類ハ五種アリ。懲役監禁、錮監、拘留場、拘留監、勞役場コレナリ。拘留場ハ一日以上三十日未滿ノ拘留ニ處セラレタルモノヲ拘禁スル所トス。拘留監ハ刑事被告人ヲ一時留置スル所トス。勞役場ハ罰金又ハ科料ヲ完納スルコト能ハザル者ヲ留置スル所トス。以上五種ノ監獄ハ普通各監獄ニ於テ相兼スルモノトス。

第九、教育行政

教育行政
文部大臣

(一) 文部大臣

- 文部大臣ハ教育學藝ニ關スル事務ヲ管理ス。文部省ニ左ノ三局ヲ置ク。
- (1) 専門學務局：大學、高等及専門學校、留學生、圖書館、博物館、學術、技藝、開業醫
 - (2) 普通學務局：師範、中學、高女、小學、幼稚園、盲啞學校、通俗教育、教育會、就學等

教育及學校

文部省直轄學校

(3) 實業學務局：工業、農業、商業學校、商船學校、徒弟學校、實業教育、實業教員等又文部大臣監督ノ下ニ高等教育會議アリ。文部大臣ノ諮詢ニ應ジテ教育上重要ナル事項ヲ審議スル所トス。此ノ他帝國學士院アリ、文部大臣ノ管理ニ屬シ、碩學ヲ以テ組織シ、學術ノ發達ヲ圖リ、教化ヲ裨補スルヲ以テ目的トス。(外ニ圖書館ヲ置ク)

(二) 教育及學校

(1) 普通教育

凡ソ兒童滿六歲ニ至レバ其ノ保護者ハ小學校ニ就學セシムルノ義務ヲ有ス。小學校ハ尋常六箇年、高等二箇年、三箇年ヲ以テ卒業セシム。尋常小學校ノ上ニ中學校アリ。五箇年ヲ以テ卒ル。中學校ヲ卒業セシモノハ各種ノ専門學校ニ入學スルコトヲ得セシム。又女子ノタメニ尋常小學校ノ上ニ高等女學校アリ。四箇年ヲ以テ卒業セシム。

(2) 文部省直轄學校

文部省直轄學校ニハ東京、京都、東北ノ三帝國大學、高等師範學校、高等農林學校、高等商業學校、高等學校、醫學專門學校、高等工業學校、外國語學校、美

術學校・音樂學校・盲啞學校等アリ。

農商務行政
農商務大臣

第十、農商務行政

(一) 農商務大臣

農商務大臣ハ農商工水産林野鑛山及地質ニ關スル事務ヲ管理ス。
農商務省ニ左ノ六局ヲ置ク。

- (1) 農務局：農事蠶茶畜産家畜衛生及狩獵
- (2) 商務局：商事商品陳列館
- (3) 工務局：工業及度量衡
- (4) 山林局：森林原野
- (5) 鑛山局：鑛業
- (6) 水産局：水産

右ノ外別ニ特許局アリ。農商務大臣ノ管理ニ屬シ發明實用新案意匠及商標ニ關スル事務ヲ掌ルモノナリ。其ノ他鑛山監督署五箇所ヲ置キテ鑛業ニ關スル事務ヲ掌ラシメ製鐵所ヲ福岡縣八幡町ニ置キテ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ラシメ又全國ヲ區劃シテ拾箇所ニ大林區署ヲ置キ其ノ下ニ數多ノ小

農商務行政
作用

農業

牧畜

森林

(二) 農商務行政作用

林區署ヲ置キ以テ國有林野及部分林ニ關スル事務ヲ掌ラシム。以上ノ外農商務行政ニ屬スルモノ農事試驗場工業試驗所生絲検査所種畜牧場蠶業講習所水産講習所鑛毒調査會等アリ。

農商務行政作用中主ナルモノニツキテ其ノ要ヲ左ニ説明スベシ。

- (1) 農業：農業トハ有用ナル植物ノ生育(森林業ヲ除ク)ヲ目的トスル人類ノ働キヲ云フ。農業行政ハ農業ニ對スル不法侵害天然妨害ヲ除キ且農業ノ發達ヲ助長セシムルヲ主トス。此ノ法ニ害蟲驅除法肥料取締法アリ。
- (2) 牧畜：牧畜トハ家畜ノ生育ヲ目的トスル人ノ働作ナリ。之レニ對シ積極的助長ト消極的保護トアリ。此ノ法ニ種牡馬検査法馬匹去勢法獸疫豫防法アリ。
- (3) 森林：森林ハ木材ノ生育水源ノ保護風致ノ保存暴風ノ防禦等ノ點ニ於テ重大ナルモノナルヲ以テ放任スルトキハ森林ヲ荒廢スル虞アルガ故ニ行政權ハ之レニ干涉シ其ノ保全ヲ助長ス。此ノ法ニ森林法國有林野法アリ。

狩獵

(4) 狩獵 狩獵トハ天然ノ自由狀態ニ在ル禽獸ヲ先占スル人類ノ働ナリ。

此ノ法ニ狩獵法アリ。鳥獸ノ保護等ハ狩獵法中ニ規定ス。

漁業

(5) 漁業 漁業トハ魚類及ビ他ノ水産獸ノ捕獲ヲ目的トスル行為ナリ。此

ノ法ニ漁業法アリ。漁業權・漁業取締・漁業組合等ハ漁業法中ニ規定ス。

鑛業

(6) 鑛業 鑛業トハ有用ナル鑛物ノ採取ヲ目的トスル地下ノ働作ヲ云フ。

此ノ法ニ鑛業法・砂鑛法アリ。

工業

(7) 工業 工業ニ關シテハ特許法・意匠法・實用新案法・商標法アリ。(四二年四

特許發明

月)特許法ニ曰ク新規ナル工業的發明ヲ爲シタル者ハ其ノ發明ニ付キ本

法ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得。發明トハ自然ニ新方面ヲ開キ、自然力

ヲ利用シテ、人類ノ需要ヲ滿タスコトヲ目的トスル、人類思想ノ創造物ヲ

云フ。特許權ノ存續期間ハ十五年トス。

意匠

意匠法ニ曰ク物品ニ應用スベキ形狀・模様・色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新

規ナル工業的意匠ヲ案出シタル者ハ、本法ニ依リ意匠ノ登録ヲ受クルコ

トヲ得。意匠權ノ存續期間ハ十年トス。

實用新案

實用新案法ニ曰ク物品ニ關シ其ノ形狀・構造又ハ組合ハセニ係リ、實用

商標

アル新規ノ工業的考案ヲ爲シタル者ハ、本法ニ依リ實用新案ノ登録ヲ受

クルコトヲ得。實用新案權ノ存續期間ハ三年トス。

商標法ニ曰ク自己ノ生産・製造加工・選擇・證明・取扱又ハ販賣ノ營業ニ係

ル商品ナルコトヲ表彰スル爲メ、商標ヲ專用セムトスル者ハ本法ニ依リ

商標ノ登録ヲ受クルコトヲ得。登録ヲ受クルコトヲ得ベキ商標ハ、文字・

圖形・記號又ハ其ノ結合ニシテ特別顯著ナルモノナルコトヲ要ス。商標

權ノ存續期間ハ二十年トス。

度量衡原器

(8) 度量衡原器 度量衡ノ原器ハ農商務大臣之レヲ保管ス。原器ハ白金イ

リヂウムノ合金製ノ棒及ビ分銅ナリ。尺ト稱スルハ其ノ棒ノ面ニ記シ

タル標線間ノ攝氏〇・一五度ニ於ケル長サ三十三分ノ十ヲ云ヒ、貫ト稱ス

ルハ其ノ分銅ノ質量四十分ノ十五ヲ云フ。

第十一、遞信行政

遞信行政

(一) 遞信大臣

遞信大臣ハ郵便・小包郵便・電信・電話及航路標識ヲ管理シ發電水力ニ關ス

ル事務ヲ掌リ、電氣造船・水陸運輸ニ關スル事業及航路船舶海員ヲ監督ス。

遞信省ニ左ノ五局ヲ置ク。

- (1) 通信局：郵便小包郵便電信電話陸運監督
- (2) 管船局：航路標識航路船舶海員水運及保護海事會社監督
- (3) 管理局：本省所管ノ經費諸收入ノ豫算決算並會計
- (4) 郵便貯金局：郵便貯金郵便爲替
- (5) 電氣局：電氣ノ取締電氣測定器ノ檢定發電水力

又電信燈臺用品製造所ヲ置キ電信燈臺用品ノ作業ニ關スル事務ヲ掌ラシメ、海事局ヲ置キテ船舶職員及水先人ノ試験船舶ノ測度検査、其ノ他法令ノ定ムル所ニ從ヒ管海官廳ノ事務ヲ掌ラシム。此ノ他通信官署官制ノ規定ニヨリ、全國ニ郵便局電信局電話局ヲ置キテ通信ノ便ヲ計ラシム。尙以上ノ外海員審判所航路標識管理所等アリ。商船學校ハ遞信省ノ管理ニ屬ス。

(二) 遞信行政作用

- (1) 遞信行政作用中主ナルモノニツキテ左ニ述ブベシ。
- (1) 郵便電信電話

(2) 船舶

郵便電信電話ハ交通ノ目的ニ供用セラル、公ノ營造物ナリ。郵便法ハ郵便強制ヲ定メ、各人ガ信書ヲ發送セントセバ必ズ郵便ノ方法ニ依ルベシトシテ、私人ガ營業トシテ信書ノ送達ヲ爲スコトヲ禁ゼリ。尤モ小包爲替貯金ニツキテハ私人ノ營業ヲ禁ゼズ。郵便ノ利用ハ各人自由ニ之レヲ爲スコトヲ得。若シ法定ノ手續ヲ踐ンデ郵便ヲ托スルモノアルトキハ、郵便局ハ之レヲ拒ムコトヲ得ザルモノトス。

水上ノ交通運輸ハ専ラ船舶ニ依ル。船舶ニ關シテハ船舶法アリ。

此ノ他鐵道ニ關スル行政モ從前ハ遞信行政ノ中ナリシガ、現今ハ内閣ニ關スル鐵道院之レヲ掌ルコト、ナレリ。鐵道院ハ鐵道及軌道ニ關スル事項、並南滿洲鐵道株式會社ニ關スル事項ヲ統理ス。軌道トハ公共道路上ニレールヲ敷クコトヲ得ル馬車鐵道ノ如キヲ云フ。鐵道ハ之レニ反シ公共道路上ニ敷設スルコトヲ許サルモノトス。

備考

宮内大臣及内大臣

宮内大臣ハ國務大臣ニアラズ。又各省大臣ニモアラザル特別官廳ナリ。而シテ行政大臣ニアラズ。何トナレバ皇室ノ事ハ一般行政事務ノ外ニアレバナリ。宮内大臣ハ親任官ニシテ皇室一切ノ事務ニ付キ輔弼ノ責ニ任ジ且所部ノ職員ヲ統督シ兼テ華族ヲ監督ス。宮内大臣ハ主管ノ事務ニ關シ省令ヲ發シ又警視總監及地方長官ニ指令又ハ訓令ヲ發スルコトヲ得。宮内省ニ待從職式部職内藏寮圖書寮宗秩寮侍醫寮大膳寮諸陵寮主殿寮内匠寮内苑寮主馬寮主獵寮調度寮ヲ置キ省務ヲ分掌セシム。又宮内大臣ノ管理ニ屬スル帝室會計審査局帝室林野管理局帝室博物館御歌所學習院等アリ。

内大臣ハ宮内大臣ト同ジク國務大臣ニアラザル特別官廳ナリ。内大臣ハ親任官ニシテ常侍輔弼シ内大臣府ヲ統轄ス。内大臣府ニ於テハ御璽國璽ヲ尙藏シ及詔書勅書其ノ他内廷ノ文書ニ關スル事務ヲ掌ル。御璽ハ天皇ノ御印章ニシテ明治七年新製ニ係リ、金材ニシテ方曲尺三寸、天皇御璽ノ四字ヲ刻セリ。御璽ハ法律勅令勅任官ノ官記及辭令書符記等ニ鈐スルモノナリ。國璽ハ日本帝國ノ印ニシテ大日本國璽ノ五字ヲ刻セリ。國書條

約批准外國派遣官吏委任狀等ニ之レヲ鈐ス。

第三款 地方官廳 (Local Government)

一 府縣知事 (Local Governor)

府縣行政ハ一部分ハ國家直接ノ行政トシテ行ハレ、一部分ハ府縣團體ノ自己ノ事務トシテ行ハル。而シテ府縣ハ國ノ最上級ノ地方行政區劃ナリ。府モ縣モ其ノ法律上ニ於ケル地位ハ全ク同一ナリ。此ノ行政區劃ヲ管轄區域トシテ行政上最高ノ地位ヲ有スルモノハ府縣知事ナリ。知事ハ一方ニ於テ國ノ行政官廳トシテ府縣ニ於ケル國ノ行政ヲ擔任スルト共ニ、一方ニ於テ府縣團體トシテ府縣ノ行政ヲ行フモノナリ。茲ニハ國ノ行政官廳トシテノ知事ヲ説明スベシ。知事ハ獨任制ノ地方最上級官廳ナリ。

第一 府縣知事ノ權限

現行地方官制ニヨリ左ニ權限ヲ述ブベシ。

(一) 部内行政管理

知事ハ内務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮

監督ヲ承ケ、法律命令ヲ執行シ、部内ノ行政事務ヲ管理ス。

國ノ行政事務ニシテ各省大臣ノ權限ニ留保セラレ、又ハ特別ノ地方官廳ノ職權ニ任ゼラレタルモノ、外ハ、スベテ知事之レヲ擔任シ、又法律勅令閣令、省令等ニ依リテ、特ニ知事ニ委任セラレタル事項ヲ擔任ス。即チ國稅徵收、通信運輸、鑛山、山林、司法行政等ニ付テハ、特別地方官廳ノ設アレドモ、是レ等ヲ除キテハ、國會議員選舉執行、教育學藝、社寺、宗教、治安、警察、衛生、農工商、徵兵、徵發等諸般ノ行政事務ハ、凡テ知事ノ權限ニ屬スルモノニシテ、是レ等ノ事務執行ニツキテハ、各主任大臣ノ指揮監督ヲ受ク。其ノ事務中多クハ、內務大臣ノ主管事務ニ屬スルヲ以テ、原則トシテ知事ハ、內務大臣ノ指揮監督ヲ受クルモノトス。然レドモ知事ハ、單ニ大臣ノ命令ニ依リテ之ヲ處理スルニ止ラズ、又法律命令ノ範圍内ニ於テ自己ノ適當ト認ムル所ニ依リテ之レヲ行フノ權アルモノナリ。

府縣令發布

(二) 府縣令發布

知事ハ部内ノ行政事務ニ付、其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ、管内一般又ハ其ノ一部ニ府縣令ヲ發スルコトヲ得。府縣令ニハ五十圓以内ノ罰金若

出兵請求權

(三) 出兵請求權

クハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ許サル(四一一年勅令三四五號) 知事ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ兵力ヲ要シ、又ハ警護ノ爲兵備ヲ要スルトキハ師團長又ハ旅團長ニ移牒シテ出兵ヲ請フコトヲ得。

下級地方廳ノ監督

(四) 下級地方廳ノ監督

團長若クハ旅團長ハ出兵ヲナスベキ義務ヲ有スルモノトス。 知事ハ郡長、島司ノ處分又ハ命令ノ成規ニ違ヒ、公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ、其處分又ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得。此ノ他市長、警察署長、分署長ヲ指揮監督シ、處分ニツキテハ郡長、島司ノ例ニヨル。

(五) 部下ノ官吏監督

知事ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ、奏任官ノ功過及ビ懲戒ハ內務大臣ニ具狀シ、判任官以下ノ進退及ビ懲戒ハ之ヲ行フ。

第二 府縣知事ノ補助機關

府縣知事ノ補助機關

部下ノ官吏監督

府縣知事ハ獨任制ノ官廳ニシテ勅任官ナリ。而シテ其ノ職務ヲ補助スル機關トシテ事務官事務官補警視技師(以上奏任官)屬・視學・警部技手通譯警部補(以上判任官)等ヲ置ク。是レ等ノ補助官ハ皆國家ノ官吏ニシテ其ノ俸給ハ國庫ヨリ支辨スルモノナルガ此ノ外府縣行政ノ補助機關トシテハ又府縣吏員ヲ置クコトヲ得。是ハ府縣費ヨリ其ノ給料ヲ支辨スルモノナリ。

- (一) 事務官 部長・知事承命部下官吏監督所部事務掌理・審議立案ヲ掌ル事アリ
 - (二) 事務官補 上官ノ指揮ヲ承ケ事務ヲ分掌ス
 - (三) 警視 內務大臣指定警察署長トナリ上官ノ指揮ヲ承ケ其部署事務ヲ掌ル
 - (四) 技師 農業・林業・土木・衛生等特別ノ知識技能ヲ要スル事務ヲ掌ル
 - (五) 屬 上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス
 - (六) 視學 上官ノ指揮ヲ承ケ學事ノ視察其他學事ニ關スル庶務ニ從事ス
 - (七) 警部 上官ノ指揮ヲ承ケ警察事務ヲ分掌シ部下ノ巡查ヲ指揮監督ス
 - (八) 通譯 上官ノ指揮ヲ承ケ翻譯通辯ニ從事ス
- 右事務官ハ一府縣ノ定員三人ナルガ特ニ內務大臣ノ指定シタル府縣ハ四人ヲ置クコトヲ得。東京府ノミハ二人トス。又事務官補ハ一府縣二人トス。

府縣知事ノ事務分掌

內務部

警察部

知事官房

第三 府縣知事ノ事務分掌

各府縣ニ左ノ二部ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

(一) 內務部

議員選舉 府縣行政及郡市町村其他公共團體ノ行政監督 賑恤救濟
土木 會計 教育 社寺及宗教 農工商森林水産 兵事 他ノ主掌ニ屬セザル事項 (東京府ニ於テハ右ノ外衛生事項)

(二) 警察部

警察事項 衛生事項 (東京府ノ警察事項ハ警視廳之レヲ掌ル)

◎各府縣知事官房

官吏ノ進退及身分事項 文書ノ往復及記錄編纂 官印府縣印ノ管守
褒賞事項

右部長ハ事務官中ノ二人ヲ以テ之レニ充ツ。警察部長ハ府縣ニ於ケル最高警察官タルモノニシテ此ノ地位ニ於テハ特ニ之レヲ警務長ト謂ヒ知事ノ命ヲ承ケテ府縣ノ各警察官即チ警視警部及ビ巡查ヲ指揮監督ス。知事故障アルトキハ內務部長タル事務官其ノ職務ヲ代理ス。

府縣知事ハ原則トシテ一般行政事務ヲ管掌スルモノナレドモ、東京府知事ノミハ警察ニ關スル事項ノ權限ヲ有セズ。故ニ東京府ニハ知事ノ外警視總監ヲ置キテ警察及ビ消防ノ事務ヲ管掌セシムルナリ。

二、北海道廳長官及支廳長

北海道廳官制ニ依レバ北海道ニ於ケル最上級ノ地方官廳ハ北海道廳長官ナリ。即チ北海道ヲ區域トセル獨任制ノ行政官廳ニシテ、其ノ下ニ補助官トシテ事務官支廳長警視技師屬視學警部技手通譯等ノ職員アリ。

北海道廳長官ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、各省ノ主務ニ付テハ各省大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、法律命令ヲ執行シ、北海道ノ拓地殖民ノ事務及部内ノ行政事務ヲ總理ス。其ノ他北海道廳長官ノ地位權限ハ府縣知事ト略同一ナリ。道廳ノ事務分掌ニツキテハ、府縣ヨリモ稍複雑ニシテ、長官官房ノ外第一、第二、第三、第四、第五、第六部ニ分タル。

道廳ノ下位第二級ノ地方區劃ハ、支廳及ビ區ナリ。區ハ純然タル自治組織ニシテ、府縣ニ於ケル市ニ相當スベキモノナリ。支廳ハ純然タル行政區劃ニシテ、支廳長之レガ長官タリ。其ノ地位權限ハ略府縣ニ於ケル郡長ト同一ナリ。故ニ北海

支廳長

道ニハ郡長ナルモノナシ。郡ノ名稱ハ地理上ノ名稱ニシテ行政上ノ區劃ニアラズ。支廳長ハ通常數郡ヲ合シテ其ノ管轄區域トナス。支廳長ハ後項ニ説明スル郡長ト同ジク、長官ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ、部内ノ行政事務ヲ掌理シ、部下ノ官吏ヲ指揮監督ス。又行政事務ニツキ其ノ部内ノ町村長及ビ戶長ヲ指揮監督スルノ權限ヲ有シ、且法律命令ニ依リ又ハ長官ヨリ委任セラレタル事件ニツキ支廳令ヲ發スルヲ得ルナリ。

區長町村長

北海道ニ於ケル區及ビ町村ハ最下級ノ行政區劃ニシテ、或程度ニ於テ自治團體ノ性質ヲ有ス。從テ區長及ビ町村長(一級及ビ二級町村制)ハ自治團體ノ事務ヲ執行スルト同時ニ、國ノ行政事務ヲ掌理スルコト府縣ニ於ケル市町村長ト同一ナリ。

三、警視總監

東京府ノ警察事務ハ他ノ府縣ニ比シテ、其ノ事務殊ニ繁雜ニ其ノ關係スル所、特ニ重大ナルヲ以テ、府廳ノ外ニ警視廳ヲ置キテ之レヲ掌理セシム。警視廳ノ長官ヲ警視總監トス。警視總監ノ權限ハ專ラ東京府下ニノミ限ラル、モノナリ。

警視總監ハ內務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、東京府下ノ警察消防及特ニ內務大臣ノ指定スル衛生事務ヲ管理シ、各省ノ主務ニ關スル警察事務ニ付テハ、各省大臣ノ指

揮監督ヲ受ク。又總監ハ部内ノ行政事務ニ付キ警視廳令ヲ發スルノ權限ヲ有シ且其ノ主務ニ付テハ東京府下ノ郡長島司市長區長及町村長ヲ指揮監督ス。部下ノ官吏監督其ノ進退等ニツキテハ府縣知事ト同一ノ權限ヲ有セリ。

警視總監ハ獨任制ノ特別地方行政官廳ニシテ其ノ下ニ警視警察醫長技師警部警視屬技手消防士警察醫消防機關士通譯等ノ補助官ヲ置ク。警視廳ノ事務ハ總監官房ノ外三部及ビ消防本部ノ各部ニ分タルコト左ノ如シ。

第一部：警務及刑事ニ關スル事項

第二部：建築警察風俗警察及危險物取締營業警察及交通警察ニ關スル事項

第三部：衛生警察及衛生ニ關スル事項

消防本部：水火消防ニ關スル事項

四、郡長及島司

第一郡長

郡長ハ府縣知事ト町村長トノ間ニ位スル獨任制ノ地方普通行政官廳ニシテ郡ノ區域ニ於ケル一般ノ國ノ行政ヲ行ヒ兼テ自治體タル郡ノ執行機關ナリ。郡長ノ地位權限其ノ他左ノ如シ。

(一) 郡長ハ奏任トス。知事ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス。

(二) 郡長ハ行政事務ニ付其ノ部内ノ町村長ヲ指揮監督ス。

(三) 郡長ハ町村長ノ處分成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得。

(四) 郡長ハ法律命令ニ依リ又ハ知事ヨリ委任セラレタル事件ニ付郡令ヲ發スルコトヲ得。

(五) 郡長ハ部下ノ判任官ノ進退ヲ知事ニ具申スルコトヲ得。

(六) 郡長事故アルトキハ上席書記其ノ職務ヲ代理ス。又郡ノ官吏ヲシテ其ノ事務ノ一部ヲ臨時代理セシムルコトヲ得。

郡長ノ補助機關トシテ郡書記郡視學ヲ置ク。共ニ判任官ナリ。郡書記ハ郡長ノ命ヲ承ケ庶務ニ從事シ郡視學ハ郡長ノ命ヲ承ケ學事ノ視察其ノ他學事ニ關スル庶務ニ從事ス。郡長ハ郡内一切ノ行政事務ヲ管掌スルヲ原則トスト雖モ警察ニ關スル權限ヲ有セズ。故ニ郡長ノ外ニ各郡ニ警察署ヲ置キ警察署長ヲシテ警察事務ヲ行ハシム。(備考參照)

第二、島司

勅令ヲ以テ指定セラレタル島地ニ島廳ヲ置キ、島司ヲ以テ其ノ長官トス。現行制ニ於テ島廳ヲ置カル、ノ地ハ東京府ノ小笠原島、八丈島、及大島、長崎縣ノ對馬、島根縣ノ隱岐、鹿兒島縣ノ大島、沖繩縣ノ宮古島、八重山島之シナリ。(四十二年三月勅令五四號)

島司ノ地位、權限ハ略郡長ニ同シ。唯島司ヲ置ク島地ニハ郡制ヲ施行セズ、從テ自治體ニアラザルヲ以テ、島司ハ單ニ國ノ地方行政官廳タルノ地位、權限ヲ有スルノミ。郡長ノ如ク自治體ノ機關タル地位ヲ兼テ有セザルノ點ニ於テ異ルモノナリ。島司ノ補助機關トシテ、島廳書記、島廳視學ヲ置ク。コレ郡書記、郡視學ニ同シ。

備考

警察署長

(1) 警察署長

警察署長ハ專ラ警察事務ヲ行フタメニ置カル、特別地方行政官廳ニシテ、警視又ハ警部ヲ以テ之レニ充テラル、モノナリ。而シテ警察署長ハ府縣ノ下ニナリテ知事及警務長又ハ東京府ニ在ルニテ、警視總監及ヒ各部長

市町村長

ノ指揮監督ヲ承ケテ其ノ管轄區域ニ於ケル警察事務ヲ執行ス。警察署管轄區域ハ一般ニ郡市ノ區域ニ依ルヲ原則トスレドモ、地方ノ必要ニ應ジ内務大臣ハ別ニ其ノ管轄區域ヲ定ムルコトヲ得ルモノナリ。警察署長ハ郡長ト異ナリ法規命令ヲ定ムルノ權ナキモノトス。

(2) 市町村長

市町村ハ最下級ノ國ノ行政區劃ニシテ、其ノ行政事務ハ自治團體ノ吏員タル市町村長ニ委任シテ之レヲ行ハシム。即チ市町村長ハ自治團體ノ重員トシテ市町村ノ自治ヲ行ラト同時ニ、法律ニ依テ委任セラレタル國ノ行政事務ヲ行ラモノナリ。而シテ自治行政ノ執行ニ付テハ法律ノ範圍内ニ限リ、監督官廳ノ監督ヲ承クルノミナレドモ、國ノ行政事務執行ニ付テハ、限官廳トシテ、郡長府縣知事及ヒ各省大臣ノ指揮監督ヲ受クルモノトス。

五、臺灣總督及廳長

臺灣及ビ澎湖列島ハ明治二十八年四月十七日ノ下ノ關係約ニ依リテ、清國ヨリ割讓ヲ受ケタル新領土ナリ。此ノ新領土ハ本國ト其ノ形勢ヲ異ニスルヲ以テ、憲法ノ條規ヲ適用セズ。立法上政治上特別ナル政治ヲ施行セリ。今臺灣總督府官制ニヨリ左ニ之レヲ述ブベシ。

第一、臺灣總督ノ地位權限

臺灣總督ハ臺灣及ビ澎湖列島ヲ其ノ管轄區域トスル委任制ノ地方行政官應ナリ。而シテ又軍隊ノ統帥權ヲ與ヘラル、ガ故ニ、司令官タルノ地位ヲ兼ネ有スルモノナリ。コレ總督ガ陸海軍大將又ハ中將ヲ以テ之レニ充テラルル所以ナリ。行政官應トシテノ總督ノ權限モ亦一般地方官應ヨリハ廣ク且大ナルモノニシテ、内地ニ於テハ或ハ大權直接ノ行動トシテ行ハレ、或ハ各省大臣ノ權限ニ留保セララル、事項ト雖モ、多クハ總督ニ一任セララル、ナリ。總督ハ親任官ナリ。

- (一) 總督ハ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ、總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス。
- (二) 總督ハ勅裁ヲ經テ又ハ緊急ノ場合ニハ勅裁ヲ經ズシテ、律令ヲ發スルノ權

ヲ有ス。律令トハ法律ヲ要スル事項ヲ規定スル命令ニシテ、臺灣ニノミ其ノ效力ヲ有スルモノナリ。而シテ法律ト實質ヲ同ジウスルニ係ラズ、帝國議會ノ議ヲ經ザル所ノ法ナリ。明治三十九年法律第三十一號ノ規定ニシテ、此ノ法律ハ明治四十四年十二月三十一日迄其ノ效力ヲ有スルモノトス。

- (三) 總督ハ其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ總督府令ヲ發シ、之レニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得。
- (四) 總督ハ其ノ管轄區域内ノ防備ノ事ヲ掌リ、又其ノ區域内ノ安寧秩序ヲ保持スル爲ニ必要ト認ムルトキハ、兵力ヲ使用スルコトヲ得。
- (五) 總督ハ必要ト認ムル地域内ニ於テ、其ノ地ノ守備隊長若クハ駐在武官ヲシテ、民政事務ヲ兼掌セシムルコトヲ得。
- (六) 總督ハ廳長ノ命令又ハ處分ニシテ、成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ、其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得。
- (七) 總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ、部下ノ官吏ノ身分上ノ監督ヲ行フモノトス。
- (八) 總督ハ管内一切ノ行政ヲ擔任スルガ故ニ、總督ヨリ獨立セル特別ノ官廳ナシ。故ニ府縣ニ於テ特別官廳ヲ知事ノ權限外ニ置キ掌ラシムル、關稅、國稅

第二、總督府ノ事務分掌

專賣、鐵道、郵便、電信、監獄等ノ事務モ一切總督ノ權限ニ屬ス。

總督府ノ事務ヲ分掌スル爲ニ總督官房ノ外民政部、陸軍部、海軍幕僚ヲ置ク。此ノ中民政部ハ行政、司法ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ルモノニシテ、民政長官ヲ以テ其ノ部長トナシ、其ノ下ニ警察本署及ビ總務局、財務局、通信局、殖産局、土木局ノ五局ヲ置ク。警察本署ハ警視總長ヲ以テ之レガ長トシ、各局ニハ各局長ヲ置ク。其ノ他參事官、事務官、警視、稅務官、技師、海軍官、翻譯官、屬警部、技手等ノ補助官ヲ置ク。陸軍部ハ參謀部、副官部以上ヲ合シ幕僚ト稱ス。法官部、經理部、軍醫部、獸醫部ニ分タレ陸軍一般ノ事ヲ掌ル所トス。海軍幕僚ハ海軍ニ關スルコトヲ掌ル所トス。

第三、廳長

臺灣ハ全管内ヲ十二ノ廳ニ分チテ廳長ヲ置ク。廳長ハ總督府ノ下ニ於ケル獨任制ノ下級地方行政官廳ナリ。廳ハ府縣ヨリ小ニ郡ヨリ大ニシテ、廳長ノ權限ハ稍府縣知事ニ相當ス。廳長ハ總督ノ指揮監督ヲ承ケテ、管内ノ行政事務ヲ執行シ、且廳令ヲ發スルノ權ヲ有ス。廳長ノ下ニ更ニ必要アルトキハ

第四、臺灣ノ司法裁判

總督ノ認可ヲ經テ支廳ヲ置クコトヲ得。臺灣ニハ自治制ヲ施行セズ。從テ廳長ハ國ノ行政機關タル權限ヲ有スルニ過ギザルモノナリ。

臺灣ニ於ケル司法裁判ハ總督府法院條例ノ規定スル所ニシテ、民事刑事ノ裁判ヲ爲スコトヲ掌ル所ハ總督ノ管理ニ屬スル臺灣總督府法院コレナリ。臺灣總督府法院ハ地方法院及ビ覆審法院ノ二階級ニ分タル。地方法院ハ民事刑事ノ一切ノ事件ニ付テ第一審ノ裁判所ニシテ單獨裁判トシ、覆審法院ハ地方法院ノ判決ニ對スル第二審ノ裁判所ニシテ三人ノ合議裁判トス。法院ヲ組織スル裁判官ハ之レヲ判官ト謂ヒ、裁判所構成法ニヨリ判事タル資格アルモノタルコトヲ要シ、又刑法ノ宣告又ハ懲戒處分ニアラザレバ免官、轉官セラル、コトナキノ保障ヲ有ス。各法院ニ檢察局ヲ附置シ、檢察官ヲ置キテ内地ニ於ケル檢事ノ職務ヲ行ハシム。

總督府法院ハ律令ヲ以テ定メラレタルモノニシテ、裁判所構成法ニ依テ定メラレタルモノニ非ズト雖モ、國法上正當ナル裁判機關ナリ。故ニ法院ノ判決ハ内地ニ於テモ、之レヲ有效ノ判決トシテ取扱ハル、モノトス。即チ法院

ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケタルモノガ内地ニ於テ更ニ犯罪ヲ犯ストキハ、再犯ヲ以テ論ゼラルベク、法院ニ於ケル破産宣告、禁治産宣告ノ如キ、凡テ内地ノ裁判所ニ於ケルト同一ノ效力ヲ有スルモノナリトス。

六、樺太廳長官及支廳長

樺太ハ明治三十八年十月十六日、ポーツマス媾和條約ニヨリ、北緯五十度ヲ境界トシテ其ノ南部ヲ露國ヨリ割讓セシ領土ナリ。明治四十年三月樺太廳官制ニヨリ、樺太廳長官ヲ置キテ管轄スル所ナリ。樺太廳長官ハ樺太ニ於ケル最高ノ獨任制地方行政官廳ナリ。而シテ長官ハ勅任官ナリ。長官ハ場合ニヨリ、樺太守備司令官タル陸軍將官ヲ以テ之レニ充ツルコトヲ得。其ノ權限ハ概シテ北海道廳長官又ハ府縣知事ニ同ジ。

長官ノ權限

第一、樺太廳長官ノ權限

- (一) 長官ハ總理大臣ノ指揮監督ヲ承ケ、法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス。但シ郵便、電信、電話ニ付テハ遞信大臣、銀行關稅ニ付テハ大藏大臣ノ監督ヲ承ク。
- (二) 長官ハ非常急變ノ場合ニ臨ミ、兵力ヲ要シ又ハ警護ノ爲メ兵備ヲ要スルト

キハ、樺太守備隊司令官ニ移牒シ出兵ヲ請フコトヲ得。

- (三) 長官ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ廳令ヲ發スルコトヲ得。
- (四) 長官ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ、奏判任官ノ進退懲戒ノ事務ヲ掌ル。
- (五) 長官ハ所轄官廳ノ處分又ハ命令ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ、又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ、其ノ處分又ハ命令ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得。

一長官ノ下ニ事務官、警視、支廳長、技師、通譯官、屬警部等ノ補助官ヲ置ク。

第二、支廳長

支廳長ハ長官ノ指揮監督ヲ承ケ、法律命令ヲ部内ニ執行シ部内ノ行政事務ヲ掌理シ部下ノ官吏ヲ指揮監督ス。又支廳令ヲ發スルコトヲ得。

次ニ樺太ニ於ケル司法裁判ハ樺太地方裁判所ヲ置キテ之レヲ掌ラシムルコト内地ニ同ジ。其ノ他樺太ニハ一般法律、勅令等ハ原則トシテ行ハレズ。若シ法律ノ全部又ハ一部ヲ樺太ニ施行スルヲ要スルモノハ、勅令ヲ以テ之レヲ定ムルコトナレリ。

七、朝鮮總督及地方官

朝鮮ハ元韓國ト稱シ明治三十八年十一月ノ日韓協約ニヨリ我が國ノ保護國トシテ統監政治ヲ行ヒ來リシガ明治四十三年八月二十二日併合條約ニヨリ韓國ハ我が領土ニ歸セリ。同條約第一條ニ曰ク韓國皇帝陛下ハ韓國全部ニ關スル一切ノ統治權ヲ完全且永久ニ日本國皇帝陛下ニ讓與ス。第二條ニ曰ク日本國皇帝陛下ハ前條ニ掲ゲタル讓與ヲ受諾シ且全然韓國ヲ日本帝國ニ併合スルコトヲ承諾ス。茲ニ於テ國號ヲ改メテ朝鮮トシ、朝鮮總督府ヲ置キテ之レヲ統治スルニ至レリ。左ニ總督府官制及ビ地方官ニ關スルコトヲ述ブベシ。

第一、朝鮮總督ノ地位權限

朝鮮總督府ニ置ク單獨ノ行政官廳ニシテ朝鮮ヲ管轄ス。

- (一) 總督ハ陸海軍大將之レニ親任セラレ、天皇ニ直隸シ委任ノ範圍内ニ於テ陸海軍ヲ統率シ及ビ朝鮮防備ノ事ヲ掌ル。又總督ハ諸般ノ政務ヲ統轄シ、内閣總理大臣ヲ經テ上奏ヲ爲シ及ビ裁可ヲ受ク。
- (二) 總督ハ勅裁ヲ經テ又ハ臨時緊急ノ場合ニハ勅裁ヲ經ズシテ、制令ヲ發スルノ權ヲ有ス。制令ハ法律ヲ要スル事項ヲ規定スル命令ニシテ、法律ノ委任

總督ノ權限

政務總監及中樞院

ニ基キ發シ、朝鮮ノミニ其ノ效力ヲ有スルモノナリ。

- (三) 總督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニヨリ朝鮮總督府令ヲ發シ、之レニ一年以下ノ懲役若クハ禁錮拘留、二百圓以下ノ罰金又ハ科料ノ罰則ヲ附スルヲ得。
- (四) 總督ハ所轄官廳ノ命令處分ニシテ制規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムル時ハ其ノ命令又ハ處分ヲ取消シ又ハ停止スルコトヲ得。
- (五) 總督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ、部下官吏ノ身分上ノ監督ヲ行フ。

〔附〕政務總監・中樞院

政務總監ハ親任トシ、總督ヲ補佐シ府務ヲ統理シ、各部局ノ事務ヲ監督ス、又中樞院議長タラシメ院務ヲ總管シ、中樞院ヨリ發スル一切ノ公文ニ署名ス。中樞院ハ朝鮮總督ニ隸シ朝鮮總督ノ諮詢ニ應ズル所トス。中樞院ニ議長、副議長、顧問、贊議、副贊議等ノ職員ヲ置キ顧問ヲシテ院議ヲ審定セシム。贊議、副贊議ハ院議ニ參與スルノミニシテ決議ニ加ハルコトヲ得ズ。

第二、總督府事務分掌

總督府ノ事務ヲ分掌スル爲ニ、總督官房ノ外、總務部、人事局、外事局、會計局、內務部、(地方)學務局、度支部、(司)稅局、(司)計局、農商工部、殖產局、商工局、(司)法部ノ五部

總督府事務分掌

ヲ置キ、長官ヲ部長トシ、部務ヲ統理セシム。總督府ニ長官局長參事官秘書官書記官事務官技師通譯官屬等ノ補助官ヲ置ク。以上ノ外、總督附武官陸海軍少將又ハ佐官及ビ專屬副官陸海軍佐尉官ヲ置キ、參謀其ノ他事務ニ服セシム。又總督府ニ取調局警察官署鐵道局通信官署稅關專賣局印刷局營林廠醫院等ヲ置キ、各官制ニヨリ其ノ事務ヲ掌理セシム。

第三、地方官

朝鮮十三道(京畿道、忠清北道、忠清南道、全羅北道、全羅南道、慶尙北道、慶尙南道、黃海道、平安南道、平安北道、江原道、咸鏡南道、咸鏡北道)ニ道長官ヲ置ク。道長官ハ朝鮮總督ニ隸シ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ管理シ、所屬官吏ヲ指揮監督ス。道長官ハ管内ノ行政事務ニ關シ道令ヲ發スルコトヲ得。

朝鮮各道ニ府及ビ郡ヲ置ク。而シテ府ニ府尹、郡ニ郡守ヲ置キ、道長官ノ指揮監督ヲ承ケ法令ヲ執行シ管内ノ行政事務ヲ掌理セシム。

各府郡ニ面ヲ置キ、面長ヲシテ面内ノ行政事務ヲ補助執行セシム。面ハ内地ノ村ニ同ジキモノナリ。

第四朝鮮ノ司法裁判

朝鮮ノ司法

面長

府尹・郡守

道長官

地方官

朝鮮人階級

王族

公族

朝鮮貴族

朝鮮總督府裁判所ハ總督ニ直屬シ、朝鮮ニ於ケル民事刑事ノ裁判及ビ非訟事件ニ關スル事務ヲ掌ル。總督府裁判所ハ分チテ四階級トス。區裁判所、地方裁判所、控訴院、高等法院トス。是等ノ裁判所ノ權限ハ、略、我が裁判所構成法ニ定ムルモノニ同ジク三審制ナリ。

附朝鮮人民ノ特別階級

韓國併合ノ結果朝鮮人民ニハ左ノ三階級ヲ生ズルニ至レリ。

(一) 王族

明治四十三年八月二十九日李王冊立ノ詔書ニヨリ、前韓國皇帝ヲ冊シテ王トナシ、昌德宮李王ト稱シ、皇太子ヲ王世子ト稱シ、太皇帝ヲ太王ト稱シ、各其ノ儷匹ヲ王妃、太王妃、王世子妃トシ、待ツニ皇族ノ禮ヲ以テシ、特ニ殿下ノ敬稱ヲ用キシムトシテ王族ニ列セラル。

(二) 公族

李王ノ懿親タル李埏、李熹ヲ公族ニ列シ、待ツニ皇族ノ禮ヲ以テス。

(三) 朝鮮貴族

李家ノ臣ニシテ授爵セラレタルモノヲ朝鮮貴族トシ、華族ノ禮遇ヲ受ク。

第四款 特設官廳

關東都督及民政署長

關東州ハ明治三十八年十二月二十二日ノ日清條約ニ依リ露國ト同一ノ條件ニテ清國ヨリ租借シ、茲ニ關東都督府ヲ置キテ帝國ノ主權ヲ行ハシム。關東州ハ我が領土ニアラズシテ租借地ナルガ故ニ、帝國ノ法律命令ハ直ニ關東州ニ行ハル、モノニアラザレバ諸事勅令ヲ以テ施行セラル。行政及ビ司法ノ大要左ノ如シ。

都督ノ權限

第一、關東都督ノ地位權限

- (一) 關東都督ハ關東州(舊遼東半島)ヲ管轄區域トセル獨任制ノ行制官廳ナリ。
- (二) 都督ハ關東州ヲ管轄シ竝ニ南滿洲ニ於ケル鐵道線路ノ保護及ビ取締ノ事ヲ掌リ、且南滿洲鐵道株式會社ノ業務ヲ監督ス。
- (三) 都督ハ陸軍大中將ヲ以テ充ツル親任官ナリ。都督ハ部下軍隊ヲ統率シ、內閣總理大臣ノ監督ヲ承ケ諸般ノ政務ヲ統理ス。但シ外交ニ關スル事項ニ付テハ外務大臣ノ監督ヲ承クルモノトス。
- (四) 都督ハ特別ノ委任ニ依リ清國地方官憲トノ交渉事務ヲ掌理ス。

都督府ノ事務分掌

- (四) 都督ハ安寧秩序ノ保持又ハ鐵道保護ノ爲メ兵力ヲ使用スルコトヲ得。
- (五) 都督ハ其ノ職權又ハ特別ノ委任ニ依リ都督府令ヲ發シ、之レニ禁錮一年以下又ハ罰金二百圓以内ノ罰則ヲ附スルコトヲ得。
- (六) 都督ハ所轄官廳ノ命令處分ニシテ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ、又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得。
- (七) 都督ハ所部ノ官吏ヲ統督シ、奏判任官ノ進退及ビ懲戒ノ事務ヲ掌ル。

第二、都督府事務分掌

都督府ノ事務ヲ分掌スルタメ、都督官房ノ外、民政部及ビ陸軍部ヲ置ク。民政部ハ軍事行政ヲ除クノ外、一切ノ行政事務ヲ掌ルモノニシテ庶務課、警務課、財務課、土木課ノ四課ニ分タル。都督ノ下ニ民政長官、外事總長、警視總長、參事官、事務官、秘書官、技師、警視、翻譯官、屬警部等ノ補助官ヲ置ク。陸軍部ハ關東都督ノ所轄内ニ於ケル陸軍一般ニ關スル事ヲ掌ル所ニシテ、參謀部、副官部(以上ヲ幕僚ト稱ス)、法官部、經理部、軍醫部、獸醫部ノ六部ニ分タル。

第三、民政署長

民政署長ハ關東州ニ於ケル下級ノ地方行政官廳ナリ。

民政署長

- (一) 民政署長ハ事務官ヲ以テ之ニ充テ、都督ノ指揮監督ヲ承ケ法律命令ヲ執行シ部内ノ行政事務ヲ管理ス。
 - (二) 民政署長ハ部内ノ行政事務ニ付、民政署令ヲ發シ、之レニ五十圓以内ノ罰金若クハ科料又ハ拘留ノ罰則ヲ附スルコトヲ得。
 - (三) 民政署長ハ管内ノ靜謐ヲ維持スル爲、兵力ヲ要スルトキハ都督ニ具狀スベシ。但シ非常急變ノ場合ニハ直ニ附近ノ守備隊長ニ出兵ヲ要求スルヲ得。
- 現在民政署ヲ置クハ大連及ビ旅順ノ二箇所ニシテ、民政署ノ下ニ民政支署ヲ置キ民政支署長ヲシテ管内行政ヲ行ハシム。

第四、關東州司法裁判所

關東州裁判令ノ定ムル所ニシテ、關東都督府法院及ビ民政署長ヲシテ、民事刑事ノ裁判ヲ掌ラシム。法院ハ關東都督ノ直屬トシ、地方法院、高等法院ノ二トス。民政署長ハ民事刑事ノ輕微事件ニ付始審裁判ヲナス。地方法院ハ民政署長ノ權限外ニ於ケル民事刑事ニ付始審裁判ヲナス單獨裁判所ナリ。高等法院ハ終審トシテ地方法院又ハ民政署長ノ裁判上訴ニ付覆審ヲ爲ス合議裁判所ニシテ三人ノ判官ヲ置ク。各法院ニ檢察官ヲ置キ檢察事務ヲ行ハシム。

關東州ノ裁判

第五款

公共團體

(Public Body)

一、公共團體ノ意義

公共團體トハ法律命令ノ定ムル所ニ從ヒ、國ノ政務ノ一部ヲ處理スル權利ト義務トヲ有スル所ノ公法人ヲ云フ。公法人トハ一定ノ人民ノ集合體ヲ法律ノ擬制ヲ以テ一人ノ人格者ト同視シ之レニ公法上ノ意思能力ヲ認メタルモノナリ。即チ公法人ハ其ノ團體員ニ對シテ、公法上ノ權利及ビ義務ヲ有スル意思主體タルコトヲ意味ス。而シテ此ノ公法上ノ權利義務ハ、即チ命令服從ノ關係ヲ惹起スモノニテ、法令ノ規定ニ依リ國家ノ有スル固有權力ノ一部ヲ委任セラレテ始メテ生ズルモノナリ。尙ホ公共團體ノ意義ヲ明カニスルガ爲メニ、左ニ公共團體ト官廳及ビ私法人トノ關係ヲ述ブベシ。

第一、公共團體ト官廳

公共團體ト官廳トハ等シク國家ノ事務ヲ處理スル國家ノ行政機關ナリ。然レドモ公共團體ハ人格ヲ有シ官廳ハ人格ヲ有セザルノ點ニ於テ異ルモノナリ。詳言スレバ公共團體ハ法令ニ依リ與ヘラレタル人格ヲ有スルヲ以テ

公共團體ト官廳

其ノ意思ハ國家ノ意思ニシテ同時ニ公共團體其ノモノ、意思ナリ。公共團體ノ生存ノ目的トスル所ハ同時ニ國家ノ生存目的タルナリ。然ルニ官廳ハ法令ニヨリ與ヘラレタル權限ヲ有スルモ其ノ人格ヲ有セズ。官廳ノ發スル意思ハ官廳其ノ者ノ意思ニアラズシテ國家ノ意思ナリ。官廳ノ自己存在ノ目的ナシ。其ノ目的トスル所ハ國家ノ目的ニシテ官廳ハ之レヲ行フ權限ヲ有スルノミナリ。

第二、公共團體ト私法人

公共團體ト私法人トノ異ナル所ハ、加入ノ義務ノ有無ニ非ズ。又國家ノ監督ニ服スルヤ否ヤニモ非ズシテ、全ク國家ニ對スル義務ヲ異ニスルニ在リ。私ノ團體ガ其ノ事務ヲ處理スルハ、私ノ利益ノ爲メニシテ、國家ノ與ミスル所ニ非ズ。故ニ國家ハ唯消極的ニ私ノ團體ノ行動ガ公益ヲ害セザルヤ否ヤヲ監視スレバ足ルニ反シテ、公共團體ガ自己ノ事務トシテ處理スル所ノ事務ハ、同時ニ國家ノ事務ナルガ故ニ、國家ハ積極的ニ之レガ行動ヲ監視スルト同時ニ、團體ハ國家ニ對シテ必ラズ之レヲ處理スベキ公法上ノ義務ヲ負フモノナリ。

二、公共團體ノ種類

公共團體ハ之レヲ分チテ、地方自治團體及ビ公共組合ノ二種トス。

第一、地方自治團體

地方自治團體トハ土地及ビ人民ヲ以テ團體ノ基礎トスルモノニシテ、更ニ分チテ二種トス。

(一) 普通ノ地方自治團體

一定ノ地域内ニ在ル人民ノ共同生存ニ伴フ、一般ノ利益ヲ増進スルヲ以テ目的トスルモノニシテ、府縣郡市町村ノ如キ是ナリ。此ノ普通ノ地方自治團體ヲ單ニ地方團體ト稱ス。地方團體ニ付キテハ更ニ次款ニ於テ之レヲ説明スベシ。

(二) 特別ノ地方自治團體

特別ノ利益ヲ増進スルノ目的ヲ以テ設立セラレタルモノニシテ、學校組合ノ如キ是レナリ。

第二、公共組合

公共組合トハ人民ヲ以テ唯一ノ基礎トスル公共團體ナリ。總テ公ノ行政

ニシテ地方的利害ニ關スルモノハ、地方自治團體ヲシテ之レヲ處理セシムルヲ原則トス。然レドモ地方的利益ヲ有スル公共事務ハ、必ラズシモ其ノ利害區域ヲ普通ノ地方團體ノ區域ト同ウセザルモノアリ。例ヘバ水害ヲ豫防シ水利土木ヲ起スガ如キ、地方的公共事務ノ最モ著シキモノナリ。然レドモ水害豫防又ハ水利土木ヲ起スハ、必ラズシモ市町村ノ區域ト其ノ利害範圍ヲ同ウセズシテ、市町村ニ於テ之レヲ執行スルコトヲ得ザル場合尠カラズ。斯ノ如ク地方自治團體ノ區域ト利害範圍ヲ同ウセザル特別ノ公共事務ヲ處理スルガタメニハ、地方團體ノ外之レニ適當ナル特別ノ公共團體ヲ必要トス。公共組合ノ設立ハ此ノ目的ヲ達スル所以ナリ。公共組合ニシテ今日我が國法ニテ認めラル、重ナルモノハ水害豫防組合・普通水利組合・重要物産同業組合・茶業組合・商業會議所等ナリ。

公共組合ト
地方自治團體

(一) 公共組合ト地方自治團體

(1) 公共組合ハ一定ノ資格ヲ有スルモノノミヲ以テ組織ス。故ニ市町村其ノ他ノ地方自治團體ニアリテハ、無能力者ト雖モ居住ノ事實ニ依リ當然其ノ團體ヲ組織スル一分子タルニ反シテ、公共組合ニ在リテハ其ノ組合員タル者ハ、必ラズ意思能力ヲ有スル者ナルカ、然ラザレバ之レヲ代理スル者アルコトヲ要ス。

(2) 地方自治團體ニ在リテハ團體ノ住民ハ其ノ住民タル資格ニ於テ、當然團體ノ機關ニ參與スル權能ヲ有スルモノニアラズ、住民中ノ一小部分ヲ選抜シ、此ノ少數ノ住民ノミガ市町村ノ公民トシテ、機關ノ組織ニ參與スルモノナリ。公共組合ニ在リテハ其ノ組合員タル資格ニ於テハ、當然組合ノ機關ノ組織ニ參與スルノ權ヲ有ス。即チ直接ニ組合總會ノ決議ニ加ハリ、或ハ選舉ニヨリテ理事又ハ代表者ヲ選出スルノ權ヲ有ス。約言スレバ總テノ組合員ハ皆組合公民ナリ。

(二) 公共組合ノ種類

公共組合ハ公ノ行政ヲ目的トスルモノナルガ故ニ、其ノ設立ニハ必ラズ國家ノ行爲ヲ要ス。然レドモ國家ノ行爲ノ外又多少ノ度ニ於テ、其ノ組合員タルベキ者ノ其ノ設立ニ參與スルコトヲ許スヲ例トス。組合員ガ其ノ設立ニ參與スルノ程度ノ多少ニ依リテ、公共組合ニ強制的ノ公共組合ト任意的ノ公共組合トノ區別ヲ生ズルコト左ノ如シ。

公共組合ノ
種類

(1) 強制的ノ公共組合

國家ガ強制シテ其ノ組合ヲ設立セシムルモノヲ云フ。即チ國家ガ其ノ組合員タルベキ一定ノ標準ヲ定メテ組合ノ設立ヲ命ズルニ當リテハ、其ノ標準ニ該當スル者ハ當然其ノ組合員タルベキモノニシテ、組合ニ加入スルノ意思アルト否トヲ問ハザルナリ。例ヘバ水害豫防組合、茶業組合等はレナリ。

(2) 任意的ノ公共組合

組合ノ設立ヲ以テ全ク組合員タルベキ當事者ノ意思ニ一任シ、當事者ガ其隨意ノ協議ニ依リテ組合ヲ設立シタルトキハ、國家ハ之レニ對シテ、公共組合タル性質ヲ認可スルヲ云フ。例ヘバ水利組合、商業會議所、重要物産同業組合、牛馬組合等コレナリ。

第六款 地方自治團體 (Local Self-Government Body)

一、自治ノ意義

代議政治ガ近時ノ憲法上ノ原則ナルガ如ク、自治ハ地方行政ノ原則トシテ認め

ラル。此ノ代議政治ト自治行政トハ實ニ現今文明諸國ニ共通ノ二大表幟ナリ。

茲ニ自治ノ意義ヲ説明スルニ當リ、先ヅ自治制度ノ唱導ヲ述べ、次ニ自治ノ意義ヲ明カニセントス。

第一、自治制度ノ唱導

代議政治ハ最早ク英國ニ發達シ、大陸諸國ガ多ク其ノ模範ヲ爰ニ採ルニ同ジク、自治モ古來多少大陸諸國ニ痕跡アルモ、近來立法上ノ原則トナルガ如クニ至リシハ、直接間接ニ英國ノ制度ノ影響ヲ受クルモノナリ。自治ノ觀念ハ英國ニ於テ生ジタルモノニシテ、同國ニ於テハ單ニ之レヲ行政ノ範圍ニ止ムルコトナク、立法及ビ司法ノ範圍ニ於テモ亦此ノ語ヲ用ヒタリ。例ヘバ立法機關トシテ國會ヲ有スルモ自治制度ニシテ、裁判所ニ於テ民選ノ陪審官ヲ採用スルコトモ亦自治制度ノ一ナリトセリ。即チ總テ人民ガ政務ニ參與スルトキ之レヲ自治ト稱シタルナリ。然ルニ獨逸人グナイスト氏 (Guesst) 此ノ英國ニ於ケル廣義ノ自治ナル制度ヲ研究シタル結果、其ノ意義ヲ縮少シテ地方行政ノミヲ指シテ自治トセリ。而シテ今日獨逸ノ行政法ニ於テ自治ト稱スルハ、此ノ狹義ノ自治ヲ指スモノナリ。左ニグナイスト氏自治ノ意義ヲ述

ベ且ツ之レヲ批評スベシ。

自治トハ國家ノ法律ニ從ヒ地方税ノ支辨ニ依リ、名譽職ヲ以テ地方ノ行政ヲ行フコトヲ云フ。

右ノ說ニヨリ現在ニ於ケル我が國ノ自治制ヲ説明セントセバ、二箇ノ缺點ヲ生ズ。左ニ之レヲ擧グベシ。

(一)自治體ノ費用ハ地方税ヲ以テ支辨スルヲ普通トスレドモ、若シ國庫ヨリ支辨スルコトアルモ、之レヲ自治ニ非ズト云フコトヲ得ザルベシ。又官治ノ區域ニ於テモ、地方税ヲ以テ支辨スルモノ少カラズ。故ニ地方税ノ支辨ナル要件ノミヲ以テ自治制ト定ムルコトヲ得ザルナリ。

(二)自治ハ名譽職ヲ以テ行ハシムル行政ナリト稱スルモ、我が國ノ現制ニ於テハ市長ハ有給トシ又市町村ニ有給吏員ヲ置クコトヲ得ト規定シアルヲ以テ、此ノ點ニ於テ市町村ハ自治ニ非ザルノ結果ヲ來ス。コレ名譽職タル要件ヲ以テ自治制ト定ムルコトヲ得ザルナリ。

右ニ述ブル理由ニヨリグナイスト氏ノ說ハ、我が國ノ自治ヲ説明スルニ便ナラザルモノナリ。故ニ次ニ自治ノ意義ヲ述ブベシ。

第二、自治ノ意義

自治トハ文字通りニ解スレバ、國家ノ行政ニ反對シテ自ラ主權ヲ有シ、自己固有ノ事務ヲ行フガ如キノ觀アレドモ然ラズ。自治トハ被治ニ對スルノ語ニシテ左ノ意義ヲ指稱スルモノナリ。

自己以上ノ權力者ニ依リテ統治セラルベキ地位ニアル者ニ對シ、其ノ事務ヲ自ラ處理セシムルヲ自治ト云フ。

故ニ自治ノ要素トシテハ、其ノ上ニ自己以上ノ權力ヲ戴クモノアルコトヲ要ス。從テ自己ノ上ニ優者ヲ戴カザル政治團體ニハ、所謂自治ナルモノナシ。例ヘバ主權ヲ有スル國家ハ決シテ自治團體ニアラズ。何トナレバ國家ハ絶對無限ノ權力ヲ有シテ自己以上ニ優者ヲ戴カザルガ故ナリ。以上ノ説明ヨリ次ノ結果ヲ生ズ。

(一)自治行政ノ主體ハ主權ヲ有セザル政治團體ナリ。而シテ行政ノ觀念ハ公法上ノモノニ屬スルガ故ニ、私法上ノ法人ハ自治團體ニアラズ。

(二)行政ノ目的ハ行政スベキ事務ナリ。故ニ自治行政ノ目的ハ自治體ガ其ノ目的ヲ達スルガ爲メニ執ル所ノ固有ノ事務ナリ。

(三)自治體ハ自主自存ノ目的ノ主體即チ人格ナリ。自存ノ目的トハ我レノ爲メニ存在スルモノニシテ、他人ノ爲メニ存在セザルコトヲ意味スルモノナリ。

二、自治制ノ長所

行政ヲ行フニ官治ト自治トアリ。此ノ官治ト自治トヲ比較シ、茲ニ自治制ノ長所ヲ擧ゲ、以テ自治制採用ノ理ヲ明カニスベシ。

第一、人民ノ公共心ヲ養成ス

自治制ヲ布キ人民ヲシテ自ラ公共ノ事務ニ參與セシムルトキハ、自己ノ一舉一動ハ悉ク公共事務ノ舉否ニ關係ヲ有スルコトヲ悟ルニ至リ、自ラ其ノ公共心ヲ養成スルニ至ル。若シ公共ノ事業ニ參與スルノ機會ヲ與ヘザランカ、人民ハ皆國家ニ依頼シ自己ノ利益ヲ計ルニ専ラニシテ、マタ公益ヲ顧ミザルニ至ルベシ。

第二、一般人民ヲシテ政治上ノ知識ヲ得セシム

人民ヲシテ其ノ團體ノ機關ノ組織及ビ其ノ團體ノ行政ニ關係セシムルトキハ、自ラ政治上ノ知識ヲ養フニ至ル

公共心養成

政治上ノ知識

實際適切

第三、地方行政ヲシテ實際ニ適切ナラシム

地方實際ノ狀況ヲ知悉スルハ其ノ地方ノ住民ニシテ、又各自ニ影響ノアル利益ヲ計ルニ最モ適切ナルモノモ、亦其ノ地方ノ住民ナリ。故ニ一般ノ地方政治ハ成ルベク人民ヲシテ擔任セシムルハ行政ノ實際ニ適切ナルヲ來ス所以ナリ。

第四、自治制ハ國家ト社會トノ連絡ヲナスモノナリ

國家ハ各人ノ平等ヲ原則トシテ制度ヲ立ツルモノナルガ、社會ハ富者ノ壓制若クハ多數ノ壓制ノ弊ニ陥リ易キモノナルヲ以テ、其ノ間調和ヲ圖ルノ必要アリ。其ノ調和ノ任ニ當ルモノハ自治制ナリ。

第五、中央政府ノ變動ヲ地方ニ及ボサズ地方行政ヲ獨立セシム

代議政治ノ行ハル、ニ從ヒ、中央政府ノ變動ヲ速カナラシムルハ事實ナリ。而シテ其ノ結果ハ地方官廳ノ上ニ迄、其ノ影響ヲ及ボスノ虞ナキニアラズ。然ルニ自治團體ヲ設ケ之レニ自治權ヲ附與シテ、以テ自ラ行政セシムルトキハ、其ノ機關ハ中央政府ノ左右スル所ト爲ラザルヲ以テ、其ノ團體ノ行政上ニ中央政府ノ變動ノ影響ヲ及ボサシメズ。從テ地方行政ハ獨立シテ確實ニ公

國家ト社會トノ連絡

地方行政ノ獨立

三、我國自治制ノ沿革

我が國ニ於テ市町村制ヲ發布シテ自治制ヲ立テタルハ、憲法政治ノ階梯トシテ、
 ンガ爲メナリシナリ。明治維新後早クヨリ地方ニ自治ヲ許スノ方針ヲ採リ、其ノ
 始メ地方ノ舊慣ヲ破リ、主トシテ佛國ノ制度ニ倣ヒ、知事郡區長、戶長ヲ置キシモ、明
 治十三年ニ至リ區町村會法及ビ縣會規則ヲ定メ、明治二十一年ニ至リ市制町村制
 ヲ定メ、四十四年改正シテ益良制度トナレリ。又明治二十三年ニ至リ郡制府縣制
 ヲ發布シ、明治三十二年ニ至リ府縣制郡制ヲ改正シ、自治ノ制度其ノ緒ニツケリ。
 即チ府縣ノ下ニ郡及ビ市アリ。郡ノ下ニ町村アリ。各一ノ自治團體トシテ其ノ
 代議機關ヲ有スルコト、ナリタルナリ。

明治二十一年市町村制理由書ヲ見レバ、自治ノ精神ヲ知ルヲ得ベシ。左ニ同書
 中主要ノ點ヲ摘録スベシ。

現今ノ制ハ府縣ノ下ニ郡區町村アリ。區町村ハ稍自治ノ體ヲ存スト雖、未ダ完
 全ナル自治ノ制アルヲ見ズ。郡ノ如キハ全ク行政ノ區劃タルニ過ギズ。府縣ハ
 素ト行政ノ區劃ニシテ、幾分カ自治ノ制ヲ兼ネ有セルガ如シト雖モ、是レ全ク自治

市町村制理由書

ノ制アリト謂フベカラズ。今前述ノ理由ニヨリ此ノ區劃ヲ以テ、悉ク完全ナル自
 治體トナスヲ必要ナリトス。即チ府縣郡市町村ヲ以テ三階級ノ自治體トナサン
 トス。維新ノ後政務ヲ集攬シテ一ニ之レヲ中央ノ政府ニ統べ、地方官ハ各其ノ職
 權アリト雖モ、政府ノ委任ニヨリテ代テ事ヲ處スルニ過ギズ。今地方ノ制度ヲ改
 ムルハ即チ政府ノ事務ヲ地方ニ分任シ、又人民ヲシテ之レニ參與セシメ、以テ政府
 ノ煩雜ヲ省キ、併セテ人民ノ本務ヲ盡サシメントスルニ在リ。而シテ政府ハ政治
 ノ大綱ヲ握リ、方針ヲ授ケ、國家統御ノ實ヲ舉グルヲ得ベク、人民ハ自治ノ責任ヲ分
 チ、以テ專ラ地方ノ公益ヲ計ルノ心ヲ起スニ至ルベシ。蓋シ人民參政ノ思想發達
 スルニ從ヒ之レヲ利用シテ地方ノ公事ニ練習セシメ、施政ノ難易ヲ知ラシメ、漸ク
 國事ニ任ズルノ實力ヲ養成セントス。是將來立憲ノ制ニ於テ國家百世ノ基礎ヲ
 立ツルノ根源タリト。

四、自治團體

自治團體トハ國家ノ下位ニ立チ法令ノ規定スル所ニ從テ、國家統治事務ノ一部
 ヲ處理スベキ、公法上ノ權利ト義務トヲ有スル下級ノ政治團體ヲ云フ。此ノ意義
 ヲ左ニ區分シテ説明スベシ。

第一、自治團體ノ監督

第一項自治ノ意義ニ於テ説明セシガ如ク、自治ノ觀念中ニハ自己以上ノ權力ヲ戴クコトヲ要ス。即チ國家ノ下位ニアリテ國家ノ監督ヲ受クルモノナリ。而シテ國家ノ監督權ノ範圍ハ、一ニ法令ニヨリテ定マル。此ノ範圍外ニ於テハ自治團體ハ國家ニ依リテ侵サレザル意思ノ自由ヲ有ス。監督權略左ノ如シ。

- (一)自治團體ノ議決ニシテ其ノ目的ヲ超過シ、又ハ法規ニ違反シタル場合ニ其ノ議決ヲ取消スノ權アリ。
- (二)法令ニ依リ自治權ノ義務ニ屬スル事務即チ必要事務ヲ實行セザル場合ニ之レヲ強行セシムルノ權アリ。
- (三)自治事務ノ執行ヲ檢閲シ、及ビ其ノ報告ヲナサシムルノ權アリ。

第二、自治團體ノ事務

自治團體ノ目的タル事務ハ國家統治事務ノ一部ナリ。從テ其ノ事務ハ國家ノ授クル所ニ依ルモノトス。自治團體ノ事務ハ之レヲ分チテ、固有事務ト委任事務トノ二種トス。固有事務トハ自治團體ノ生存目的トシテ處理スル

コトヲ認メラレタル事務ヲ云フ。即チ市町村ノ公共事務コレナリ。此ノ固有事務ハ更ニ分チテ、必要事務ト隨意事務トノ二種トス。必要事務トハ法令ヲ以テ豫メ其ノ事務ノ種類性質ヲ規定シ、自治團體ヲシテ必ラズ其ノ事務ヲ行フノ義務ヲ負ハシムルモノヲ云フ。例ヘバ小學校令ニ依ル小學校ノ設置維持ノ如シ。隨意事務トハ自治團體ニ於テ之レヲ行フト否トノ自由ヲ有スル事務ヲ云フ。次ニ委任事務トハ元來國家ノ事務ニ屬スルモ、法令ノ委任ニ依リ自治團體之レヲ處理スルモノヲ云フ。此ノ事務ハ必ラズ之レヲ處理スベキ義務ヲ負フガ故ニ、皆必要事務ナリ。例ヘバ國稅徵收法ニ依リ、市町村ガ國稅ヲ徵收スルハ委任事務ナリ。

第三、自治團體ハ公法人ナリ

自治團體ハ公法上ノ權利ト義務トヲ有スルガ故ニ公法人ナリ。法人トハ自然ノ人類ニアラズシテ、人格ヲ有スルモノナリ。人格トハ法ニ依リテ權利ノ主體タル能力ヲ認メラル、モノヲ云フ。法人ハ之レヲ公法人ト私法人トニ區別ス。私法人トハ私ノ事務ヲ以テ、其ノ生存目的トスル法人ナリ。公法人トハ國家的事務ヲ以テ、其ノ生存目的トスル法人ナリ。

第四、自治團體ト公共團體

前五款ニ説明セシガ如ク、地方自治團體及ビ公共組合ハ公共團體ノ一種ナリ。而シテ公共組合モ亦一種ノ自治團體ナルヲ以テ、公共團體ノ自治方面ヲサシテ自治團體ナリト稱スルコトヲ得ベシ。

五、地方自治團體

地方自治團體トハ一定ノ土地ト一定ノ住民トヨリ成リ、其ノ區域内ニ於テ公共ノ事務ヲ自治スルモノヲ云フ。即チ府縣郡市町村コレナリ。

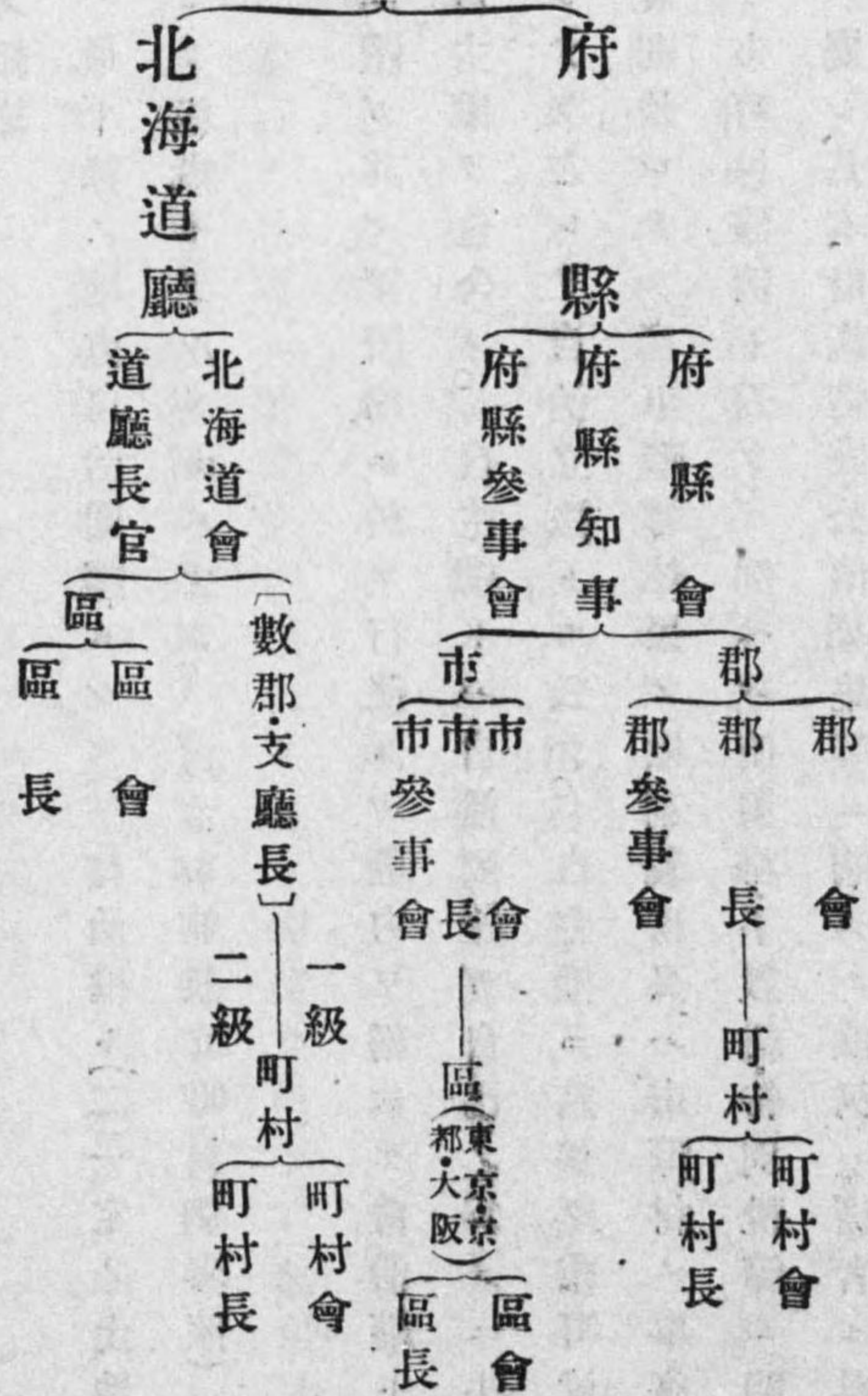
地方自治團體ハ三級ニ分タレ、市町村ハ最下級ニ位シテ其ノ根底ヲ爲シ、郡ハ町村ノ上ニ在リテ中級ニ位シ、府縣ハ又其ノ上ニ在リテ最上級ニ位ス。而シテ市町村ハ完全ナル自治權ヲ有スルモノナレドモ、府縣郡ハ完全ナル自治權ヲ有セザルモノナリ。其ノ結果トシテ左ノ如キ差異ヲ生ズ。

(一) 府縣郡ハ主トシテ中央行政ノ區劃ニシテ、同時ニ地方自治行政ノ團體タリ。之レニ反シテ市町村ハ主トシテ地方自治團體ニシテ、同時ニ中央行政ヲ行フ區劃タリ。

(二) 府縣郡ニ於テハ其ノ權力ヲ總攬スル機關ハ知事及ビ郡長ナリ。之レニ反

府縣郡ト市
町村トノ差
異

地方自治團體



シテ市町村ニ於テハ其ノ總攬機關ハ市町村會ナリ。
(三) 市町村ニ於テハ特ニ設ケタル執行機關(市ノ市長、町村長)アリト雖モ、郡及ビ府縣ニ於テハ特設ノ執行機關ナシ。國家ノ官廳タル郡長及ビ知事ガ、兼テ郡府縣行政ノ執行ヲ擔任スルモノナリ。

(括弧アルハ自治制ナシ)

市町村ノ組織

六、市町村 (明治四十四年十月一日施行)

第一、市町村ノ組織

市町村ハ最下級ノ地方自治團體ニシテ(一)自治權ト(二)一定ノ土地ノ區域ト

(三)住民トヨリ組織セラル、モノナリ。(以下市制及ビ町村制參照)

自治權

(一)自治權

自治團體ガ其ノ團體内ニ於テ行使スル權力ヲ稱シテ自治權ト云フ。自治權ハ自主權ヲ包含ス。自主權トハ自治團體ガ自己ノ爲メニ法ヲ立ツルノ權ニシテ又之レヲ自治立法トモ云フ。自主權ニ基ツク市町村ノ法ハ、條例及ビ規則是レナリ。市町村住民ノ權利義務又ハ市町村ノ事務ニ關シ設クル法ヲ市町村條例ト云フ。例ハ使用料手数料特別稅等ニ關スル條例ハ前者ニ屬シ、基本財産造成、公債募集等ニ關スル條例ハ後者ニ屬ス。市町村條例ヲ以テ規定スルノ外、市町村ノ營造物ニ關シ設クル法ヲ規則ト云フ。而シテ條例ハ内務大臣ノ許可ヲ要スルモ、規則ニハ此ノ事ナシ。

地ノ區域

(二)土地ノ區域

市町村ハ一定ノ土地ノ區域ヲ限劃シ其ノ自治權ヲ行フ。其ノ區域内ニ

住民

(三)住民

在ル者ハ其ノ住民タルト否トヲ問ハズ、總テ市町村ノ自治權ニ服從セザルベカラザルモノナリ。此ノ市町村ノ區域ハ從來ノ區域ニヨルトシ明治十一年布告郡區町村制法ニヨリテ定マリタルモノナリ。而シテ市町村ノ廢置分合及ビ境界變更ハ内務大臣ノ許可ヲ要ストセリ。

住民ノ權利及ビ義務

市町村ノ住民トハ市町村ナル團體ヲ構成スル各個人ヲ云フ。故ニ市町村内ニ住所ヲ有スル者ハ當然市町村ノ住民ナリ。住所トハ各人生活ノ本據ニシテ一アリテ二ナシ。住民ハ市町村ノ財産及ビ營造物ヲ共用スルノ權利ヲ有シ、市町村ノ負擔ヲ分任スルノ義務ヲ負フ。

住民中一定ノ資格ヲ有スル者ヲ公民ト稱ス。公民ハ普通住民ノ有スル權利及ビ義務ノ外、更ニ特段ナル權利ヲ有シ義務ヲ負フ。特段ナル權利トハ市町村機關ノ選舉ニ參與シ且其ノ名譽職ニ選舉セラル、ノ權利ヲ云ヒ、義務トハ市町村ノ名譽職ヲ擔任スルノ義務ニシテ正當ノ理由ナクシテ之レヲ拒辭シ又ハ退職スルコトヲ得ザルヲ云フ。

公民タルノ資格左ノ如シ

- (1) 帝國臣民ニシテ獨立ノ生計ヲ營ム年齡二十五年以上ノ男子タルコト
帝國臣民トハ外國人ニ非ザルコトニシテ國籍法ニヨリテ資格ヲ有スル者タルヲ云フ。獨立ノ生計ヲ營ムトハ自己ノ經濟ニテ其ノ生計ヲ維持スルノ義ナリ。次ニ男子ト限リタルヲ以テ女子ハ公民ニアラズ。
 - (2) 二年以來其ノ市町村ノ住民タルコト
 - (3) 二年以來其ノ市町村ノ負擔市町村稅・夫役現品ヲ分任スルコト
 - (4) 二年以來其ノ市町村內ニ於テ地租ヲ納メ若クハ直接國稅年額二圓以上ヲ納ムルコト
- 但シ貧困ノ爲メ公費ノ救助ヲ受ケタル後二年ヲ經ザル者、禁治產者、禁治產者及ビ六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者ハ此ノ限リニアラズ。
- 以上公民資格要件中(2)(3)(4)ノ二年ノ制限ハ特免スルコトヲ得。又家督相續ニ依リタル財產取得者ハ其ノ財產ニ付被相續人ノ爲シタル納稅ヲ以テ其ノ者ノ納稅シタルモノト看做ス。

第二市町村ノ議事機關

市町村ノ議事機關

議員數

市町村ノ議事機關ハ市町村會及ビ市ノミニ於ケル市參事會トス。先ヅ市町村會ニツキ左ニ之レヲ述べ、附說トシテ後ニ市參事會ニツキ述べシ。

(一) 市町村會ノ議員數

- (1) 市會議員 人口五萬未滿ノ市ハ三十人、五萬以上十五萬未滿ノ市ハ三十六人、十五萬以上二十萬未滿ノ市ハ三十九人、二十萬以上三十萬未滿ノ市ハ四十二人トシ、人口増加スル毎ニ漸次議員數ヲ増加ス。

(2) 町村會議員 定員ハ八人以上三十人迄トシテ人口ニ準ズ。左ノ如シ。

- 一、人口千五百未滿ノ町村——議員八人
- 二、人口千五百以上五千未滿ノ町村——議員十二人
- 三、人口五千以上一萬未滿ノ町村——議員十八人
- 四、人口一萬以上二萬未滿ノ町村——議員二十四人
- 五、人口二萬以上ノ町村——議員三十人

◎市町村會議員ノ定數ハ條例ヲ以テ特ニ之ヲ増減スルコトヲ得。

(二) 市町村會議員ノ選舉

(1) 選舉資格

議員ノ選舉
選舉資格

市町村ノ公民ハ總テ市町村會議員ノ選舉權ヲ有スルヲ原則トス。但シ公民權停止中ノ者及ビ陸海軍ノ現役ニ服スル者ハ選舉權ヲ有セズ。尙特例トシテ公民外ノ者ニ選舉權ヲ與フル者アリ。即チ帝國臣民ニシテ直接市町村稅ヲ納ムル者其ノ額市町村公民ノ最モ多ク納稅スル者三人中ノ一人ヨリモ多キトキハ未成年者又ハ女子若クハ法人ト雖モ選舉權ヲ與フ。但シ是等ノ者ハ年齡二十五歲以上ノ男子ヲ代人トシテ選舉ヲ行フモノトス。

(2) 被選舉資格

被選舉權ハ原則トシテ市町村ノ公民總テ之レヲ有ス。但シ所屬府縣郡ノ官吏及ビ有給吏員其ノ市町村ノ有給吏員檢事警察官吏收稅官吏神官神職僧侶其ノ他諸宗教師小學校教員ハ被選資格ヲ有セズ。又判事會計檢査官行政裁判所評定官等ハ特別法ニヨリ被選資格ナシ。

(3) 選舉方法

選舉方法ハ市ハ三級制町村ハ二級制トス。選舉人中直接市稅ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ三分ノ一ニ當ルベキ者

被選舉資格

選舉方法

市ノ選舉

町村ノ選舉

投票法

議員及議長

ラ一級トス。一級選舉人ヲ除クノ外直接市稅ノ納額最モ多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル直接市稅ノ總額中一級選舉人ノ納ムル額ヲ除キ其ノ殘額ノ半ニ當ルベキ者ヲ二級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス。町村ニ於テハ選舉人中直接町村稅納額最モ多キ者ヲ合セテ選舉人全員ノ納ムル總額ノ半ニ當ルベキ者ヲ一級トシ其ノ他ノ選舉人ヲ二級トス。但シ一級選舉人ノ數議員定數ノ市ニアリテハ三分ノ一町村ニアリテハ二分ノ一ヨリ少キ時ハ納額最モ多キ者議員定數ノ市ハ三分ノ一町村ハ二分ノ一ト同數ヲ以テ一級トス。

選舉人ハ每級各別ニ議員定數ノ市ハ三分ノ一町村ハ二分ノ一ヲ選舉ス。被選舉人ハ各級ニ通ジテ選舉セラル、コトヲ得。投票法ハ單記無記名式ナルヲ原則トス。但シ確定名稱ニ登錄セラレタル每級選舉人ノ數其ノ選舉スベキ議員數ノ三倍ヨリ少キ場合ニ於テハ連名投票法即チ連記無記名式ヲ用ウルモノトス。

(三) 市町村會議員及議長

市町村會議員ハ凡テ名譽職ニシテ任期ハ四箇年ナリ。市會議長及ビ副

市町村會ノ
權限

議長ハ議員ノ互選ニヨリテ定ムルモノトス。市會ハ市長之レヲ召集シ、議員定數ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ。町村會ハ町村長ヲ以テ議長トス。町村會ハ町村長之レヲ召集シ、議員定數ノ半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ。市町村會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス。市町村會ノ會議ハ公開スルヲ原則トス。

(四) 市町村會ノ權限

市町村ハ法人ニシテ無形ノ人格者ナリ。此ノ法人ノ意思ヲ決定スル機關ハ主トシテ市町村會ナリ。市町村會ノ權限左ノ如シ。

- (1) 市町村會ノ議決スベキ事件左ノ如シ。
- (イ) 市町村條例及ビ規則ヲ設ケ又ハ改廢スルコト
- (ロ) 市町村費ヲ以テ支辨スベキ事業ニ關スルコト
- (ハ) 歳入出豫算ノ議定及ビ決算報告ノ認定
- (ニ) 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外、使用料、手数料、加入金、市町村税又ハ夫役、現品ノ賦課徵收ニ關スル事項
- (ホ) 不動産ノ管理處分取得及ビ基本財産積立金穀等ノ設置管理及ビ處分

市町村會議
決事項

意見ノ陳述

吏員ノ選舉

執行機關ノ
監督

- (ヘ) 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外、新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及ビ權利ノ拋棄ヲナスコト
- (ト) 財産及ビ營造物ノ管理方法ヲ定ムルコト
- (チ) 市町村吏員ノ身元保證ニ關スルコト
- (リ) 市町村ニ係ル訴願訴訟及ビ和解ニ關スルコト

(2) 意見ヲ陳述スルコト

市町村會ハ市町村ノ公益ニ關スル事件ニ付、意見書ヲ市町村長又ハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得。又市町村會ハ行政廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スベシ。

(3) 法律勅令ニ依リ市町村吏員ノ選舉ヲ行フコト

市町村會ハ市町村長其ノ他ノ市町村吏員及ビ各種ノ委員ヲ選舉ス。市會ハ市參事會員市參與ヲ選舉ス。

(4) 市町村ノ執行機關ヲ監督スルコト

市町村會ハ市町村ノ事務ニ關スル書類及ビ計算書ヲ檢閲シ、市町村長ノ報告ヲ請求シテ事務ノ管理議決ノ執行及ビ出納ヲ檢査スルコトヲ得。

市參事會

〔附市參事會〕

市參事會ハ市ニ限リ置クモノニシテ、市會ト同ジク議決機關ナリ。然レドモ其ノ權限ハ市會ノ如ク廣汎ナルモノニ非ズシテ、市會ノ補充機關タル用ヲ爲スモノナリ。市參事會ノ組織權限左ノ如シ。

(1) 市參事會ノ組織

市參事會ハ市長、助役、名譽職參事會員ノ三種ノ職員ヲ以テ之レヲ組織ス。此ノ外市參與ヲ置ク市ニ於テハ市參與ハ參事會員トシテ、其ノ擔任事業ニ關スル場合ニ限リ會議ニ列席シ議事ニ參與スルモノトス。名譽職參事會員ノ定數ハ六人(十二人迄増加スルヲ得)トシ、市會議員中ヨリ互選スルモノトス。其ノ任期ハ市會議員ノ任期ニヨル。市參事會ハ市長ヲ以テ議長トス。

(2) 市參事會ノ權限

- (イ) 市會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ、其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決ス
- (ロ) 市長ヨリ市會ニ提出スル議案ニ付市長ニ對シ意見ヲ述ブルコト

市參事會ノ權限

市參事會ノ組織

(ハ) 其ノ他法令ニ依リ市參事會ノ權限ニ屬スル事件

第三、市町村行政執行機關

市町村ノ行政執行機關トハ市町村會及ビ市參事會ノ議定シタル意思ヲ外部ニ對シテ執行シ且市町村ヲ代表スル機關ナリ。此ノ機關ヲ總稱シテ市町村吏員ト云フ。

(一) 市ノ行政執行機關

(1) 市長

市長ハ有給吏員トシ、其ノ任期ハ四年トス。内務大臣ハ市會ヲシテ市長候補者三人ヲ選舉推薦セシメ上奏裁可ヲ請フテ之ヲ定ム。市長ハ其ノ市民タル者ニ限ラズ。但シ其ノ任期中ハ公民タル權ヲ得。

(2) 助役

助役ハ有給吏員トシ、其ノ任期ハ四年トス。助役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之レヲ定メ、府縣知事ノ認可ヲ受クベシ。助役ハ其ノ市民タルモノニ限ラズ。但シ其ノ任期中ハ公民タル權ヲ得。助役ハ東京市三人、京都市二人、大阪市二人、其ノ他ノ市ハ一名トス。但シ市條例ニヨリ其ノ定

市ノ機關

市長

助役

市參與

數ヲ増加スルコトヲ得。

(3) 市參與

市參與ハ名譽職ナルヲ原則トス。市參與ハ市會ニ於テ之レヲ選舉シ内務大臣ノ認可ヲ受クベシ。名譽職市參與ハ市公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル。有給市參與ハ任期中ハ公民タル權ヲ得。

收入役其他

(4) 收入役其他

市ニ收入役又副收入役ヲ置ク。收入役ハ有給吏員トシ、其ノ任期ハ四年トス。收入役ハ市長ノ推薦ニ依リ市會之レヲ定メ府縣知事ノ認可ヲ受クベシ。此ノ他市ニハ各種ノ委員市長ノ任命スル市吏員及ビ區長等ヲ置ク。

町村ノ機關

(二) 町村ノ行政執行機關

町村長

(1) 町村長

町村長ハ名譽職ナルヲ原則トシ、其ノ任期ハ四年ナリ。町村長ハ市會ニ於テ之レヲ選舉シ、府縣知事ノ認可ヲ得タル者タルヲ要ス。町村長ハ其ノ町村公民中選舉權ヲ有スル者ニ限ル。但シ町村條例ニヨリ有給

助役其他

(2) 助役其他

町村長ヲ置クコトヲ得。此ノ有給町村長ハ其ノ町村公民タルヲ要セズ。助役ハ名譽職タルヲ原則トシ、其ノ任期ハ四年ナリ。助役ハ町村長ノ推薦ニヨリ町村會之レヲ定メ、府縣知事ノ認可ヲ受クルモノトス。町村ニハ町村長及ビ助役ノ外、收入役委員其ノ他有給吏員等ヲ置ク。

(吏員)	選任	認可	任期	待遇	資格	退任要件
市長	市會候補者三人選舉上奏ス	裁可	四年	有給	在職中公民	內務大臣ノ認可
市助役	市長推薦シテ市會定ム	知事又ハ內務大臣認可	四年	有給	在職中公民	府縣知事ノ認可
町村長	町村會ノ選舉	知事又ハ內務大臣認可	四年	有名譽職給	在職中公民	隨 三月前申出 意
町村助役	町村長推薦シテ市會定ム	知事又ハ內務大臣認可	四年	有名譽職給	在職中公民	隨 三月前申出 意
市收入役	市長推薦シテ市會定ム	知事又ハ內務大臣認可	四年	有給	在職中公民	
町村收入役	町村長推薦シテ市會定ム	郡長又ハ知事認可	四年	有給	在職中公民	

(三) 市町村執行機關ノ權限

(1) 市町村長ノ職務權限

市町村長ハ市町村ノ行政執行機關トシテ、市町村會及ビ市參事會ノ議決ヲ執行シ、市町村ノ行政事務ヲ擔任シ、又外部ニ對シテ市町村ヲ代表スルノ權ヲ有ス。其ノ職務權限左ノ如シ。

- (イ) 市町村ヲ統轄シ市町村ヲ代表スルコト
- (ロ) 市町村會ニ議案ヲ發シ、及ビ其ノ議決ヲ執行スルコト
- (ハ) 財産及ビ營造物ヲ管理スルコト
- (ニ) 收入・支出ヲ命令シ、及ビ會計ヲ監督スルコト
- (ホ) 證書及ビ公文書類ヲ保管スルコト
- (ヘ) 使用料・手数料・加入金・市税、又ハ夫役現品ヲ賦課徵收スルコト
- (ト) 市町村吏員ヲ指揮監督シ、懲戒(譴責)及ビ過怠金ヲ行フコト
- (チ) 市町村會ノ議決、又ハ選舉其ノ權限ヲ越エ、又ハ法令若クハ會議規則ニ背クト認ムルトキハ、市町村長ハ其ノ意見ニ依リ、又ハ監督官廳ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之レヲ再議ニ附シ、又ハ再選舉ヲ行ハシムベシ。

其ノ執行ヲ要スルモノニ在リテハ之レヲ停止スベシ。前項ノ場合ニ於テ市町村會其ノ議決ヲ改メザルトキハ市町村長ハ府縣參事會ノ裁決ヲ請フベシ。

(リ) 市町村會成立セザル爲ニ開會スル能ハザル場合ハ、市ニテハ市參事會ヲシテ代リテ議決セシメ、町村ニテハ郡長ノ指揮ヲ請フテ町村長自ラ議決スベキ事件ヲ處置シ、又臨時急施ヲ要スル時ハ市町村長之レヲ專決スルコト

(ヌ) 其ノ他法令ニ依リ市町村長ノ職權ニ屬スル事項
〔附〕市町村長ノ國及ビ府縣ノ行政事務執行

市町村長ハ市町村行政ノ外、法令ノ定ムル所ニ依リ國府縣其ノ他公共團體ノ事務ヲ掌ル。即チ衆議院選舉法、戶籍法、徵兵令、刑事訴訟法、國稅徵收法、土地收用法、傳染病豫病法、種痘法、行旅病人死亡人取扱法、水難救濟法等ノ定ムル國ノ事務及ビ府縣制郡制水利組合法等ノ定ムル公共團體ノ事務ヲ掌ルヲ云フ。

(2) 市町村助役其他吏員ノ權限

市町村助役ハ市町村長ノ事務ヲ補助シ、又之レガ代理ヲナス。收入役ハ市町村ノ出納其ノ他會計事務並ニ國府縣其ノ他公共團體ノ出納其ノ他ノ會計事務ヲ掌ル。委員ハ市町村長ノ指揮監督ヲ受ケ財産又ハ營造物ヲ管理シ、其ノ他委託ヲ受ケタル市町村ノ事務ヲ調査シ、又ハ之レヲ處辨ス。以上ノ外ノ吏員ハ市町村長ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス。又市ノミニ置ク市參與ハ市長ノ指揮監督ヲ受ケ、市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業ヲ擔任ス。例ヘバ市ノ經營ニ屬スル特別ノ事業タル、水道、電車、電燈、瓦斯等ノ事務ヲ掌ルモノナリ。

第四市町村ノ財政

市町村ノ財
政

市町村ハ自己ノ費用ヲ以テ其ノ事務ヲ執行スルノ團體ニシテ、財産權ノ主體ナリ。自ラ自己ノ財政ヲ處理スルノ權ハ自治制ノ主眼トスル所ナリ。

- (一) 市町村ノ收入
- (1) 市町村有財産ヨリ生ズル收入
 - (2) 使用料手数料過怠金及ビ國庫又ハ府縣郡ノ補助金
 - (3) 市町村稅 市町村稅ニ二種アリ左ノ如シ。

(イ) 附加稅 國稅(地租所得稅營業稅)及ビ府縣稅(地租割、戶數割、家屋稅、營業稅、雜種稅等)ノ附加稅

(ロ) 特別稅 別ニ稅目ヲ起シテ課稅スルノ必要アルトキ賦課徵收ス

(4) 夫役及ビ現品 勞務及ビ金錢ニアラザル物品ヲ徵收ス

(5) 公債又ハ借入金其ノ年度内償還ノ見込 監督官廳ノ認可ヲ要ス

(二) 市町村ノ支出

市町村ハ其ノ事務ヲ行フニ必要ナル支出及ビ法律命令ニ依リテ、特ニ賦課セラレタル支出ヲナスノ義務ヲ負フ。支出ニ二種アリ。市町村自ラ支出ノ自由ヲ有スル隨意支出ト法律命令ニヨリ強制セラル、強制支出ナリ

(三) 市町村ノ會計

市町村歳入出入ノ豫算ハ市町村長之レヲ調製シ、市町村會ノ議決ニヨリテ成立ス。此ノ豫算ニ基ヅキ收入支出ヲナス。決算ハ收入役之レヲ調製シ、市町村長ノ審査ヲ經テ市町村會ニ提出シ、其ノ認定ヲ受クルヲ要ス。

第五市町村ノ監督

市ノ行政ハ第一次ニ府縣知事、第二次ニ內務大臣之レヲ監督ス。町村ノ行

支出

會計

市町村ノ監
督

監督ノ目的

政ハ第一次ニ郡長、第二次ニ府縣知事、第三次ニ内務大臣之レヲ監督ス。其ノ監督ノ目的及ビ監督ノ作用左ノ如シ。

監督ノ作用

- (一) 監督ノ目的
 - (1) 市町村行政ノ實況ヲ監視ス。
 - (2) 市町村ガ法規ニ違反シ權限ヲ超エ又ハ公益ヲ害スルヲ防止ス。
 - (3) 市町村ノ事務ニシテ舉ラザルトキハ之レヲ強制ス。
- (二) 監督ノ作用
 - (1) 事務ノ報告ヲ徵シ、實地事務ヲ視察シ、又ハ出納ヲ檢閲スルコト。
 - (2) 監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲナスコト。
 - (3) 内務大臣ハ市町村會ノ解散ヲ命ズ。(三月以内ニ議員選舉ヲナサシム)
 - (4) 強制豫算及ビ強制支出ヲ命ズルコト。
 - (5) 市町村長其ノ他ノ吏員其ノ執行スベキ事件ヲ執行セザルトキハ監督官應又ハ其ノ委員ヲ受ケタル官吏吏員之レヲ執行スルコト。
 - (6) 市町村條例ヲ設ケ又ハ改廢スルコト及ビ學藝美術又ハ歷史上貴重ナル物件ヲ處分シ又變更ヲ加フルニ内務大臣ノ許可ヲ受クベシ。

市ト町村トノ區別

備考

- (1) 市ト町村トノ區別

- (7) 市町村債ヲ起シ又特別稅ヲ新設スル等ノ場合ニハ内務大臣及ビ大藏大臣ノ許可ヲ受クベシ。
 - (8) 基本財産ノ管理處分寄附又ハ補助其ノ他ノ財務處理ニツキテハ市ハ府縣知事町村ハ郡長ノ許可ヲ受クベシ。
 - (9) 吏員ノ選任ニ參與シ及ビ吏員ノ懲戒ヲナスコト。市町村長ノ認可及ビ總テノ吏員ニ對シ懲戒處分ヲ行フガ如シ。
- 市町村ハ最下級ノ自治團體ナリ。市ト町村トノ差異點左ノ如シ。
- (イ) 監督官應ヲ異ニス。第一次ニ町村ハ郡長、市ハ府縣知事トス。
 - (ロ) 議員選舉法ヲ異ニス。町村ハ二級市ハ三級ノ選舉方法ナリ。
 - (ハ) 市ニハ市參事會ナル議事機關及ビ市參與ナル吏員アルモ町村ニハ無シ。
 - (ニ) 市ノ市長助役ハ當然有給トシ、町村長助役ハ名譽職ヲ原則トス。
 - (ホ) 人口ノ多少ノ差アリ。人口二萬五千以上ニシテ資力アル町村ハ内務大臣ノ指定ニヨリテ市制ヲ執行スルコトヲ得ルモノナリ。地方稅ニ對ス

都制法案

ル義務ニ於テ市ハ重ク町村ハ輕シ。

以上ノ外市ハ衆議院議員選舉ニ際シ、獨立區トナルノ利アリ。

(2) 都制法案

東京市ニ於ケル市政ノ現狀甚ダ不満足ノ狀態ニアルガ爲メニ、市長公選ノ權ヲ奪ヒ官選ノ制ニ改メントシ、都制法案ノ名ヲ以テ近時毎年貴族院ニ於テ提出シ、同院ヲ通過スルコト既ニ四回ニ及ビタレドモ、常ニ衆議院ノ容ル、所トナラズ。

(3) 市ノ下ニ於ケル區

東京都大阪ノ三市ニハ市ノ下ニ區アリ。之レガ機關トシテ區長及ビ區會アリ。區長ハ區ニ屬スル事務ヲ處理シ、區會ハ其ノ事務ヲ議決ス。區長ト區會トノ關係ハ略市ノ市長ト市會トメ關係ニ同ジ。

七、郡

郡ノ組織

第一、郡ノ組織

郡ハ官廳ガ官治行政ヲ行フ行政區劃タルト同時ニ、中級ノ地方自治團體ナリ。郡ノ區域ハ從來ノ區域ニ依リ町村ヲ包含ス。郡ノ廢置分合又ハ境界變

郡ノ機關

第二、郡ノ機關

更ヲ要スルトキハ、法律ヲ以テ之レヲ定ム。郡ノ境界ニ亘リテ町村ノ變更アリタルトキハ、郡ノ區域モ亦自ラ變更スルモノトス。郡ノ住民トハ郡内ノ町村住民ヲ云フ。故ニ町村住民ハ町村ヲ構成スルト同時ニ、郡ヲ構成スルモノナリ。(以下郡制參照)

郡會

(一) 郡會

郡ノ意思構成機關ハ郡會及ビ郡參事會ニシテ、執行機關ハ郡長ナリ。

郡會ノ組織

(1) 郡會ノ組織

郡内ノ町村公民ニシテ町村會議員ノ選舉權ヲ有シ、且其ノ郡内ニ於テ一年以來直接國稅年額郡制及ビ府縣制ニ於テ直接國稅トハ地租所得稅・營業稅鑛業稅ノ四種ヲ云フ(三圓以上ヲ納ムル者ヲ選舉人トシ、同上ノ條件ニテ年額五圓以上ヲ納ムルモノヲ被選舉人トス。但シ所屬府縣ノ官吏及ビ有給吏員其ノ郡ノ官吏及ビ有給吏員、檢察官吏、收稅官吏、神官僧侶其ノ他諸宗教師、小學校教員、選舉事務關係吏員、郡ノ請負ヲナス者等ハ被選舉權ヲ有セザルモノトス。町村ヲ區域トスル各選舉區ニ於テ之

郡會ノ權限

レヲ選舉ス。投票法ハ單記無記名式ナリ。郡會議員ノ任期ハ四箇年ニシテ名譽職ナリ。郡會議員ノ員數ハ十五人乃至三十人トス。但シ內務大臣ノ許可ヲ得テ、四十人迄増加スルコトヲ得ベシ。

(2) 郡會ノ權限

郡會ハ郡長之レヲ召集シ、通常會ハ毎年一回之レヲ開ク。其ノ會期ハ十四日以内トス。臨時會ハ必要アル場合ニ之レヲ開キ、會期ハ五日以内トス。郡會ハ半數以上出席スルニ非ザレバ、會議ヲ開クコトヲ得ズ。郡會ノ議決スベキ事項左ノ如シ。

- (イ) 歲入出豫算ノ議定及ビ決算報告ノ承認
 - (ロ) 使用料、手数料及ビ夫役現品ノ賦課徵收
 - (ハ) 不動産及ビ積立金數ノ取得設置及ビ處分、財産及ビ營造物ノ管理
 - (ニ) 豫算外ニ於テ新ニ義務ノ負擔ヲナシ、及ビ權利ノ拋棄ヲナスコト
 - (ホ) 其ノ他法律命令ニ依リ郡會ノ權限ニ屬スル事項
- 右議決ノ外、尙ホ郡會ハ左ノ權限ヲ有ス。

郡參事會ノ組織

(二) 郡參事會

(1) 郡參事會ノ組織

(イ) 郡會ノ權限事項ヲ郡參事會ニ委任スルコト

(ロ) 郡會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フ

(ハ) 郡會ハ公益ニ關スル事件ニツキ意見書ヲ、郡長若クハ監督官廳ニ提出スルコトヲ得。又官廳ノ諮問アルトキ意見ヲ答申スベキモノトス。

郡參事會ノ權限

(2) 郡參事會ノ權限

郡參事會ハ郡會ト同ジク郡ノ第二議事機關ニシテ、郡會ノ議決ヲ補充スルヲ目的トス。

其ノ權限左ノ如シ。

(イ) 郡會ノ權限ニ屬スル事件ニシテ、其ノ委任ヲ受ケタルモノヲ議決ス。

郡長

- (ロ) 郡會ノ權限事件ニシテ臨時急施ヲ要スル場合ニ郡會ニ代リテ議決ス
- (ハ) 郡會ノ議決シタル範圍内ニ於テ重要ナル事件ヲ議決ス
- (ニ) 郡長ヨリ郡會ニ提出スル議案ニツキ郡長ニ對シ意見ヲ述ブルコト
- (ホ) 郡ニ係ル訴願訴訟及ビ和解ニ關スル事項ヲ議決スルコト
- (ヘ) 其ノ他法律命令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項

(三) 郡長

郡長ハ其ノ本來ノ職務ハ官廳トシテ官治行政ヲ行フコトニアンドモ、亦兼ネテ地方自治團體タル郡ノ自治行政ヲ執行スルモノナリ。即チ郡長ハ郡ノ執行機關ニシテ、郡ヲ統括シ郡ヲ代表スルモノナリ。郡ノ自治行政ハ主トシテ營造物ノ設置管理及ビ其ノ維持ニ屬シ、其ノ目的ノ爲メニ必要ナル範圍内ニ於テノミ權力ヲ行使スルモノニシテ、市町村ノ如ク條例ヲ設ケテ郡住民ノ權利義務ヲ規定スルノ權能ナシ。郡長ノ自治團體執行機關トシテ有スル權限左ノ如シ。

- (1) 郡費支辨事件ノ執行收入支出ノ命令及ビ會計ノ監督
- (2) 郡會及ビ郡參事會ノ議決ヲ經ベキ事件ニツキ其ノ議案ヲ發スルコト

郡長ノ權限

郡ノ財政

- (3) 財産及ビ營造物ノ管理・證書及ビ公文書類ノ保管
- (4) 法律命令又ハ郡會郡參事會ノ議決ニ依リ、使用料・手数料・郡費及ビ夫役現品ヲ賦課徵收スルコト
- (5) 其ノ他法律命令ニヨリ郡長ノ職權ニ屬スル事項
- (6) 郡會郡參事會ノ召集及ビ閉閉郡會ノ停會郡參事會權限事項ノ急施處分
- (7) 郡會若クハ郡參事會ノ議決若クハ選舉ガ越權・違法公益ヲ害スト認メタルトキハ、其ノ議決ノ執行ヲ停止シ再議ニ附シ又ハ之レヲ取消スコトヲ得

(8) 郡會郡參事會ノ議決スベキ事件ニツキ議決セザルトキハ、郡長ハ府縣知事ニ具狀シテ指揮ヲ請ヒ其ノ事件ヲ處理スルコトヲ得

以上郡長ノ郡行政ニ關スル事務ハ、郡ノ官吏ヲシテ之レヲ補助セシムルヲ原則トスレドモ、郡長ハ特ニ有給又ハ無給ノ郡吏員ヲ置クノ職權ヲ有ス。

第三、郡ノ財政

郡ハ獨立ノ財産權ノ主體ニシテ、郡ノ固有事務及ビ委任事務ニ要スル費用ハ、郡ニ於テ之レヲ負擔スルノ義務アリ。郡ノ財源ハ(一)國庫及ビ府縣ヨリ

補助金 (二) 郡ノ營造物及ビ財産ヨリ生ズル使用料 (三) 手数料 (四) 郡有財産ヨリ生ズル收入其ノ他雜收入トス。此等ノ收入ニシテ尙ホ不足ナルトキハ各町村ニ分賦スルモノトス。而シテ各町村ハ之レヲ町村税トシテ徵收シ郡ニ納ムベキ義務アリ。コレ市町村ノ財政ノ異ルノ點ニシテ市町村ハ其ノ住民ヨリ直接ニ租税ヲ賦課徵收スルノ權利ヲ有スルニ反シテ郡ハ租税徵收ノ權利ヲ有セズ。故ニ郡税ナルモノナシ。

郡ハ其ノ必要ニヨリ夫役現品ヲ郡内一部ノ町村ニ賦課スルノ權ヲ有シ及ビ公債又ハ一時ノ借入金ヲ爲スノ權アリ。其ノ他豫算決算等郡ノ會計ニ關スル規定ハ略市町村ト同一ナリ。

第四郡ノ監督

郡ノ行政ハ第一次ニ府縣知事第二次ニ内務大臣之レヲ監督ス。内務大臣ハ郡會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得ベシ。此等ノ監督機關ノ外府縣參事會ハ郡ニ對シテ國家ノ機關トシテ監督權ヲ行使スルコトアリ。

八、府縣

第一、府縣ノ組織

府縣ノ組織

郡ノ監督

府縣ハ官廳ガ官治行政ヲ行フ行政區劃タルト同時ニ最上級ノ地方自治團體ナリ。府縣ノ區域ハ郡市ヲ包括シテ成ル。府縣ノ廢置分合又ハ境界ノ變更ニ關シテハ郡區域ノ場合ニ同ジ。府縣ノ住民ハ郡市内ノ住民ナリ。故ニ郡市ノ住民ハ郡市ヲ構成スルト同時ニ又府縣ヲ構成スルモノナリ。

第二、府縣ノ機關

府縣ノ議事機關ハ府縣會及ビ府縣參事會ニシテ行政執行機關ハ府縣知事ナリ。(以下府縣制參照)

(一) 府縣會

(1) 府縣會ノ組織

府縣會ハ府縣内ノ市町村公民中市町村會議員ノ選舉權ヲ有シ且其ノ府縣内ニ於テ一年以來直接國税(地租所得稅營業稅鑛業稅)年額三圓以上ヲ納ムル者ヲ選舉人トシ同上ノ條件ニテ十圓以上ヲ納ムル者ヲ被選舉人トス。但シ其ノ府縣ノ官吏及ビ有給吏員檢察官吏及ビ收稅官吏・神官僧侶其ノ他諸宗教師・小學校教員・選舉事務關係ノ官吏及ビ吏員府縣ノ請負ヲ爲ス者等ハ府縣會議員ノ被選舉資格ナシ。又府縣會議員ハ衆

府縣ノ機關

府縣會

府縣會ノ組織

議院議員ト相兼スルコトヲ得ザルモノトス。郡市ヲ區域トスル選舉區ニ於テ之レヲ選舉ス。投票ハ單記無記名式ナリ。

府縣會議員ハ任期ハ四箇年ニシテ名譽職ナリ。議員數ハ人口七十萬未滿ハ三十人、七十萬以上百萬未滿ハ五萬ヲ加フル毎ニ一人、百萬以上ハ七萬ヲ加フル毎ニ一人ヲ増スモノトス。

府縣會ノ權限

(2) 府縣會ノ權限

府縣會ハ府縣知事之レヲ召集シ、通常會ハ毎年一回之レヲ開ク。其ノ開期ハ三十日以内トス。臨時會ハ必要アル場合ニ開キ、七日以内トス。府縣會ハ其ノ議員定數ノ半數以上出席スルニアラザレバ、會議ヲ開クコトヲ得ズ。其ノ議決スベキ事項左ノ如シ。

- (イ) 歲入出豫算ノ議定及ビ決算報告ノ承認
- (ロ) 使用料手數料、府縣稅及ビ夫役現品ノ賦課徵收
- (ハ) 不動産ノ處分並ニ買受讓受積立金穀ノ設置及ビ處分
- (ニ) 豫算外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及ビ權利ノ拋棄ヲナスコト
- (ホ) 財産營造物ノ管理方法

(一) 其ノ他法律命令ニ依リ府縣會ノ權限ニ屬スル事項
右議決ノ外、府縣會ハ左ノ權限ヲ有ス。

- (イ) 府縣會ニ屬スル權限事項ヲ府縣參事會ニ委任スルコト
- (ロ) 府縣會ハ法律命令ニ依リ選舉ヲ行フ
- (ハ) 府縣會ハ府縣ノ公益ニ關スル事件ニ付キ意見書ヲ知事若クハ內務大臣ニ提出スルコトヲ得。又官廳ノ諮問ニ對シ意見ヲ答申スルコト

(二) 府縣參事會

(1) 府縣參事會ノ組織

府縣參事會ハ府縣知事、府縣高等官二名及ビ名譽職參事會員(府ハ八名、縣ハ六名)ヲ以テ組織ス。此ノ參事會員タル府縣高等官ハ內務大臣之レヲ命ジ、名譽職參事會員ハ府縣會ニ於テ議員中ヨリ之レヲ選舉スルモノトス。府縣參事會ハ府縣知事之レヲ召集シテ議長トナリ、其ノ定員半數以上出席スルニ非ザレバ會議ヲ開クコトヲ得ズ。「郡府縣會ノ議事ハ公開スルヲ原則トスレドモ郡府縣參事會ノ會議ハ傍聽ヲ許サズ」

(2) 府縣參事會ノ權限

府縣參事會ノ組織

府縣參事會ノ權限

府縣參事會ハ府縣ノ第二ノ議事機關ニシテ、府縣會ノ議決ヲ補充スルヲ以テ目的トス。其ノ權限左ノ如シ。

- (イ) 府縣會ノ權限事件ニシテ委任ヲ受ケタルモノヲ議決ス
- (ロ) 府縣會ノ權限事件ニシテ急施ヲ要スルモノハ、府縣會ニ代リテ議決ス
- (ハ) 知事ヨリ府縣會ニ提出スル議案ニツキ、知事ニ對シ意見ヲ述ブルコト
- (ニ) 府縣會議決ノ範圍ニ於テ、財産及ビ營造物ノ管理事項ヲ議決ス
- (ホ) 府縣費支辨ノ工事執行規定ノ議決ヲナスコト
- (ヘ) 府縣ニ係ル訴願訴訟及ビ和解ニ關スル事項ヲ議決スルコト
- (ト) 其ノ他法令ニ依リ其ノ權限ニ屬スル事項

府縣知事

(三) 府縣知事

府縣知事本來ノ職務ハ、地方官廳トシテ官治行政ヲ行フコトニアレドモ、亦兼ネテ地方自治行政ヲ行フモノナルコト郡長ニ同シ。府縣知事ハ府縣ナル自治團體ノ執行機關トシテ、其ノ府縣ヲ統轄シ、又府縣ヲ代表スルノ權限ヲ有ス。其ノ權限ノ主ナルモノ左ノ如シ。

知事ノ權限

- (1) 府縣費支辨事件ノ執行、財産及ビ營造物ノ管理證書及ビ公文書類ノ保管

- (2) 府縣會及ビ府縣參事會ニ議案ヲ發スルコト
- (3) 法律命令又ハ府縣會若クハ府縣參事會ノ議決ニ依リ、使用料手数料、府縣稅及ビ夫役現品ヲ賦課徵收スルコト
- (4) 收入支出ヲ命令シ及ビ會計ヲ監督スルコト
- (5) 其ノ他法令ニ依リ其ノ權限ニ屬スルコト
- (6) 府縣會ノ召集、開閉、府縣參事會ノ召集、府縣會ノ停會ヲ命ズルコト
- (7) 府縣吏員ノ監督及ビ懲戒處分ヲ行フコト
- (8) 府縣會若クハ府縣參事會ノ議決若クハ選舉ガ越權、違法、公益ヲ害スト認メタルトキハ、其ノ執行ヲ停止シ、再議ニ附シ、又ハ取消スコトヲ得
- (9) 府縣會若クハ府縣參事會ガ議決事件ヲ議決セザルトキハ、內務大臣ニ具狀シ、指揮ヲ請ヒ、其ノ議決事件ヲ處理スルコトヲ得
- (10) 府縣參事會ノ權限事件ニシテ臨時急施ヲ要スルモノハ、專決處分ス

府縣ノ財政

第三、府縣財政

府縣ノ財源ハ、(一) 國庫ノ補助 (二) 營造物財産ヨリノ收入 (三) 手数料 (四) 府縣有財産ヨリ生ズル收入、其ノ他ノ雜收入、此等ノ收入ヲ以テ其ノ費用ヲ充

タスヲ原則トスト雖モ、尙ホ足ラザルトキハ管内市町村住民ニ對シ、府縣稅ヲ課スルコトヲ得。府縣内ニ住所ヲ有スル者及ビ三箇月以上府縣内ニ滞在スル者ハ、府縣稅納附ノ義務ヲ負フ。土地家屋物件ヲ所有シ若クハ營業ヲナス者亦同ジ。府縣稅ノ主ナルモノハ地租割、戸數割、家屋稅、所得稅附加稅、營業稅、營業稅附加稅、雜種稅、鑛業稅附加稅、間接國稅附加稅、特別稅是レナリ。又場合ニヨリテハ勅令ノ定ムル所ニヨリ、郡ト同ジク其ノ費用ヲ市町村ニ分賦ス。右ノ外府縣モ法定ノ要件ニ從ヒ、公債ヲ起スコトヲ得ルモノナリ。

府縣ノ監督

第四、府縣ノ監督

府縣ノ行政ハ內務大臣之レヲ監督ス。其ノ財政ニ關シテハ、大藏大臣モ亦內務大臣ト同一ノ地位ニ立ツモノナリ。內務大臣ハ勅裁ヲ經テ府縣會ノ解散ヲ命ズルコトヲ得ベシ。

北海道會

〔附一〕北海道會

北海道ニハ北海道會アリ。北海道地方費ノ歲入出豫算、及ビ北海道地方稅ノ課目課率等ヲ議決スルモノトス。而シテ北海道廳長官ハ北海道會ノ議決ニ附スベキ事件ニツキ其ノ議案ヲ發シ、其ノ議決シタル事項ハ之レヲ

北海道ノ區制町村制

專決處分スルコトヲ得ベシ。北海道會議員ハ名譽職トシ其ノ任期ハ三箇年ナリ。

〔附二〕北海道ノ區制及ビ町村制

北海道ニ於ケル札幌函館小樽ハ特ニ區トシテ區制ヲ施行ス。其ノ機關トシテ區會及ビ區長ヲ置ク。區會ハ内地ノ市會ニ同ジク、區長ハ内地ノ市參事會ニ同ジ。

北海道ノ町村ハ例外トシテ、北海道一級二級町村制アリテ之レヲ施行ス。大體ノ精神ニ於テ内地ノ町村ト同一ナレドモ、其ノ規定ハ成ルベク簡便ナルコトヲ期セリ。

〔附三〕沖繩縣及ビ指定ノ島嶼

沖繩縣ニ於ケル自治組織ハ府縣制(四二年四月施行)沖繩縣及島嶼町村制(四一年四月施行)ニヨリ、多少内地ト異ル變例ヲ以テ行ハル、コト、ナレリ。此ノ他勅令ヲ以テ指定シタル島嶼ニハ町村制ヲ施行セズ。

第七款 營造物 (Public building)

一、營造物ノ意義

營造物トハ人及ビ物又ハ物ノミヲ以テ之レヲ組織シ、直接ニ公衆ノ利益ノ爲ニ設置セラル、行政上ノ設備ニシテ、國家又ハ其ノ他ノ公共團體ノ經營ニ係ルモノヲ云フ。此ノ意義ヲ分解シテ左ニ説明スベシ。

第一、營造物ノ組織

營造物ハ人及ビ物又ハ物ノミヲ以テ組織セラル、モノナリ、人及ビ物ヲ以テ組織セラル、營造物ハ學校病院郵便電信電話鐵道等ニシテ、物ノミヲ以テ組織セラル、營造物ハ公園下水溝渠道路橋梁堤防河川港等ナリ。營造物ガ物ノミヲ以テ成ル場合ハ之レヲ公用物ト云フ。

第二、營造物ノ目的

營造物ノ目的ハ直接ニ公衆ノ利益ニ供用セラル、ヲ要ス。即チ不特定ナル多數人ノ利益ニ供用セラル、ニヨリテ、人民ノ福利ヲ増進スル目的ヲ達スルモノナリ。故ニ彼ノ砲臺城砦軍艦官廳ノ建物役場ノ建物、或ハ收入ヲ得ルヲ以テ目的トスル國有林ノ如キハ營造物ニアラザルナリ。

第三、營造物ノ經營

營造物ハ國家又ハ其ノ他ノ公共團體ノ經營ニ係ル設備ナラザルベカラズ。故ニ假令直接ニ公衆ノ利益ニ供用セラル、目的ヲ有スル設備ナルモ、私人ノ經營ニ係ルモノハ、茲ニ云フ營造物ニアラズシテ、之レヲ私營造物ト云フ。例ヘバ私設鐵道及ビ私立代用小學校等コレナリ。此ノ私營造物ニ對シ、茲ニ論ズル營造物ハ、嚴密ニ云ヘバ公共ノ營造物ト謂ハザルベカラザルナリ。從テ本款ニ述ブル營造物ハ、常ニ公共ノ營造物ヲ指稱スルモノト解スベシ。

二、營造物ト官廳

營造物モ官廳モ共ニ國家ガ統治ヲナスノ手段トシテ用フル所ニシテ、等シク獨立ノ人格ヲ有セザルノ點ハ同一ナレドモ、其ノ異ル所ハ官廳ハ命令權ヲ行フヲ以テ目的トスルモ、營造物ハ物質的ノ事務ヲ執行スルニアリ。又官廳ハ國家ノ目的ノ外ニ他ノ目的ヲ有スルコトナク、又此ノ目的ヲ達スルニハ他ノ目的ヲ達スルニヨリテ、間接ニ之レヲ達スルニ非ズ。之レニ反シテ營造物ハ國家ノ目的以外ニ營造物自個ノ目的ヲ有シ、此ノ目的ヲ達スルニヨリテ間接ニ國家ノ目的ヲ達スルモノナリ。

三、營造物ノ使用

營造物ノ組織

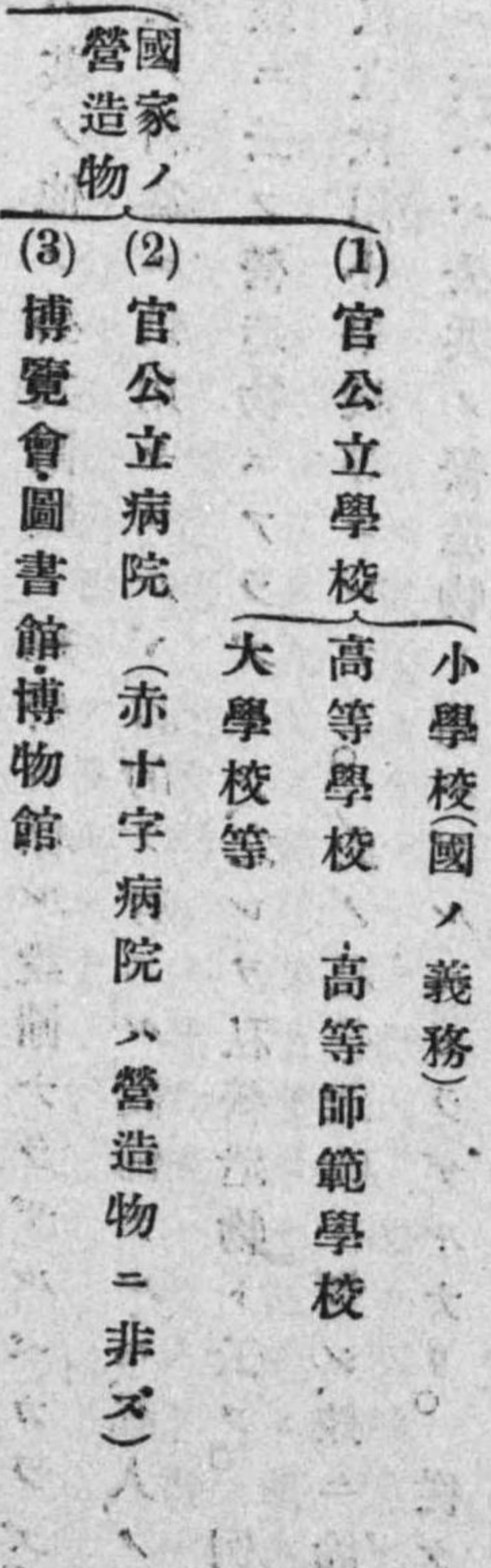
營造物ノ目的

營造物ノ經營

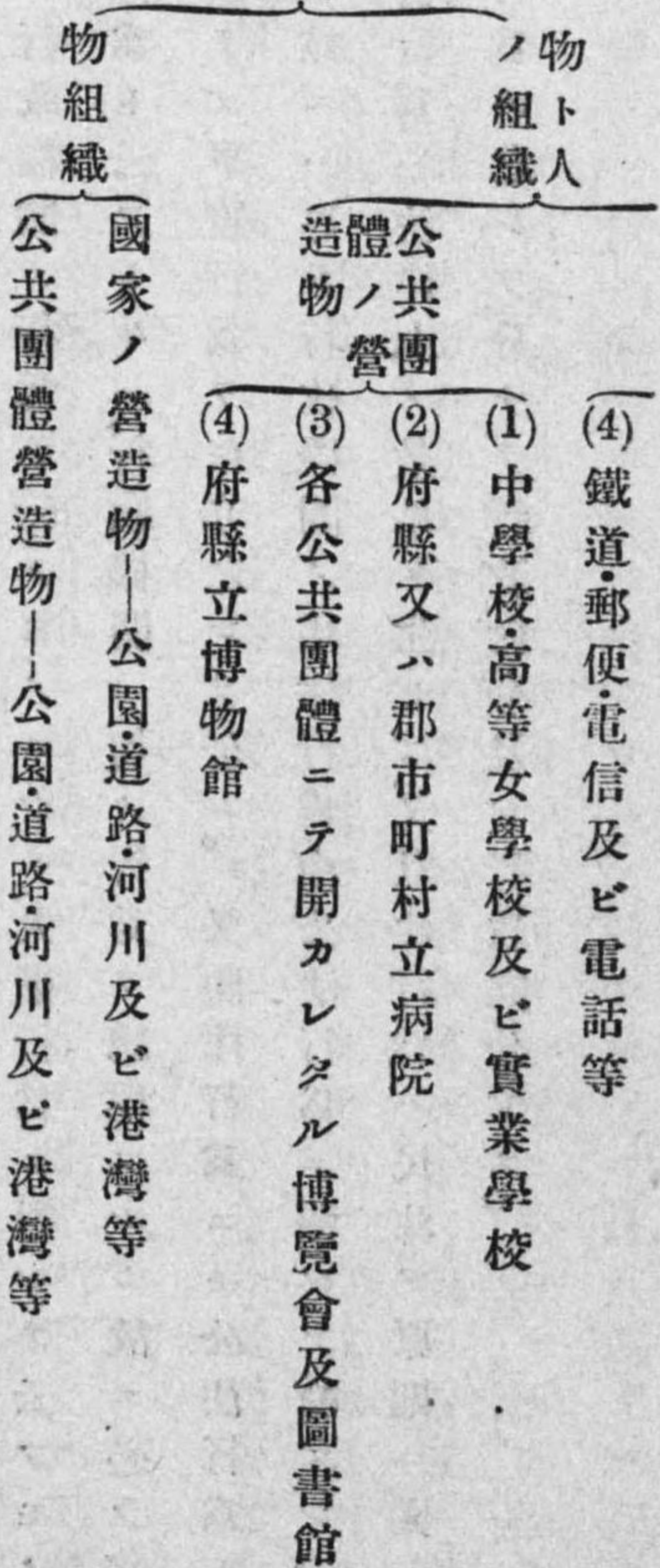
營造物ノ使用ハ各營造物ノ性質及ビ國家ノ法令ノ規定又ハ各公共團體ノ自主法規ニヨリテ定マルモノナリ。故ニ其ノ各個ノ場合ニツキテ決定スルノ外ナキモノトス。左ニ大體ヲ述ブベシ。

- 第一、營造物ノ使用ガ一人ノ義務ニ屬スル場合 (例) 小學校使用ノ義務權利
- 第二、營造物ノ使用ガ使用者ノ隨意タル場合 (例) 鐵道道路病院中等以上諸學校
- 第三、營造物ノ使用ニ條件ノ伴フ場合 (例) 使用料ヲ徵收スル鐵道病院等
- 第四、營造物ノ使用ヲ無償ニテ何人ニモ許ス場合 (例) 公園道路等
- 第五、營造物ノ使用ヲ一定資格者ニ限リ許ス場合 (例) 中等以上ノ諸學校
- 第六、營造物ノ特別使用ヲ或特定人ニ限リ許ス場合 (例) 公園內茶屋河川特使用

四、營造物ノ種類



營造物ノ種類



(參考說) 以上ノ外、人的作爲ノミニヨル營造物トシテ、公證人・試驗委員・種痘醫等ヲ認ムル學者アリ。

備考

營造物設備ヨリノ制限

◎ 營造物ノ設備ヨリ生ズル制限

營造物ヲ施設シ之レヲ維持スルノ必要上、私人ノ權利ヲ制限スル場合ニアリ。一ヲ公用徵收ト云ヒ一ヲ公用制限ト云フ。
(イ) 公用徵收 公共ノ利益ト爲ルベキ事業ノ必要上、補償ヲ以テ私人ノ不動産所有權ヲ剝奪シ起業者ノ爲メニ新ニ其ノ權利ヲ設定スル處分ナ

リ。此ノ徵收權ハ國家ニ在リ。(土地收用法)
 (ロ) 公用制限 公ノ營造物ヲ設備スル必要上、私人ノ不動産所有權ヲ剝奪スルニ非ズシテ、唯其ノ權利ヲ制限スルコトアリ。例ヘバ沿岸所有者ガ其ノ土地ノ一部分ヲ曳船道ニ供シ、又ハ沿道所有者ガ道路ヨリ流下スル雨水ヲ防止スル設備ヲ爲スコトヲ得ザルガ如シ。

第三節 行政行爲 (Administrative Action)

一、行政行爲ノ意義

行政行爲トハ行政機關ノ行爲ヲ云フモノニシテ、大權行爲ニ對シテ云フモノナリ。廣ク行政行爲ト云フトキハ、行政機關一切ノ行爲ヲ總稱スルガ故ニ、必ラズシモ法律行爲ニ限ラズ、事實行爲ヲモ亦之レヲ含ム。又法律行爲ニモ公法行爲ト私法行爲トアリ。茲ニハ專ラ行政機關ノ法律行爲中、公法行爲ニ關シテ論ズレバ可ナリ。蓋シ事實行爲ハ法律上ノ效果ヲ生ゼズ、又私法行爲ハ民法ノ原則ニ從ヘバ可ナリ。行政行爲ハ之レヲ分チテ行政命令及ビ行政處分トス。

二、行政命令

行政命令トハ廣ク行政ノ準則タル命令ヲサスノ語ナレドモ、茲ニ述ブル行政命令ハ此ノ意義ニアラズシテ、只天皇ガ行政機關ニ委任シテ發セシムル所ノ行政行爲タル命令ヲ云フ。而シテ此ノ行政命令ヲ發スル命令權ハ、行政機關固有ニ有スルモノニアラズシテ、他ノ委任ニヨリ之レヲ行使スルモノナリ。行政命令ハ其ノ命令ヲ發スル機關ノ差異ニ依リ其ノ名稱ヲ異ニス。即チ閣令省令府縣令郡令廳令律令等コレナリ。

行政機關ノ發スル命令ハ憲法及ビ法律ニ牴觸スルコトヲ得ザルノミナラズ、勅令ニモ違反スルコトヲ得ザルモノナリ。若シ行政命令ニシテ憲法、法律、勅令ニ牴觸セルトキハ、監督官ヨリ取消サル、カ又ハ其ノ廢止ヲ強制セラル、モノナリ。然レドモ人民ニ對シテハ、其ノ内容違法ナルモ、取消サレザル間ハ效力ヲ有ス。人民ハ之レニ對シテ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ。何トナレバ行政訴訟ハ行政處分ニ對シ提起シ得ルモノニシテ、法規ニ對シテ提起シ得ザレバナリ。

行政命令ヲ實質ニ從テ區別スルトキハ左ノ如シ。是等ノ命令ニ關スル説明ハ第五章統治ノ作用中ニ述ベタルヲ以テ茲ニ之レヲ略ス。

(一) 執行命令 法律勅令ノ執行上實施手續細則

行政命令ノ效力

行政命令ノ種類

行政命令

- (一) 獨立命令 公安保持及ビ幸福増進ノタメニ發セシム(警察命令等)
- (二) 委任命令 法律ノ委任ニヨリ發スルモノ
- (三) 權限命令 官廳官署ノ權限ヲ定メタルモノ(組織命令)
- (四) 權限命令 官廳官署ノ權限ヲ定メタルモノ(組織命令)

三、行政處分

第一行政處分ノ意義

行政處分トハ行政機關ガ法律命令ヲ執行シ、及ビ其ノ範圍内ニ於テ特定ノ場合ニ特定ノ行爲ヲナスヲ云フ。法律命令ハ唯或ル事實ニツキテ、一般ノ結果ヲ豫想スルニ止マルモノナルモ、行政處分ハ之レニ反シ特定ノ場合ニ其ノ豫想ノ結果ヲ惹起スルモノナリ。即チ或ル特定ノ新事實ヲ發生セシメ若クハ其ノ發生ヲ抑止スル所ノ命令ナリ。行政處分ノ特質及ビ要件左ノ如シ。

處分ノ特質

- (一) 特定ノ事件ニ對スル國家ノ意志表示ナリ(法令ノ一般的ト異ル)
- (二) 公法上ノ權力作用ナリ(行政機關民法上ノ行爲ト異ル)
- (三) 法規ニ基ヅク處分ハ其ノ法規ト運命ヲ共ニス
- (一) 法規ニ牴觸スルコトヲ得ザルコト
- (二) 處分ヲナス權限ヲ有スル官廳ガ適法ニ之レヲナスコト

行政處分ノ種類

第二行政處分種類

行政處分ハ處分ノ方法ニ因ルモノト要求ノ有無ニ因ルモノトノ二種ニ分ル。左ニ之レヲ述ブベシ。

(一) 處分ノ方法ニ因ル區別

處分ノ方法ハ法規トノ關係ニヨリ二種ノ區別ヲ生ズ。

(1) 依法處分(又ハ裁決處分執行處分)

法令ノ規定ガ精密ニ亘リ、官廳ガ自己ノ意思ヲ以テ隨意ニ他ノ處分ヲ爲スコトヲ得ザル處分ヲ云フ。(例、租稅ノ賦課、手数料ノ徵收ノ如シ)

(2) 裁量處分(又ハ便宜處分)

法令ノ規定ガ廣汎ニシテ官廳ニ裁量ノ餘地ヲ與フルトキハ、官廳ハ此ノ範圍ニ於テ國家ノ目的ト公共ノ利益トヲ考察シ、自己ノ判斷ニヨリテ便宜ニ處分スルヲ云フ。コノ處分ニシテ不當又ハ不便宜ノコトアルモ違法ナルモノアルコトナシ。(例、警察ノ區域ニ於テ此ノ處分多シ)

(二) 要求ノ有無ニ因ル區別

第二編 第六章 行政法 第三節 行政行爲

處分方法ノ區別

依法處分

裁量處分

要求有無ノ區別

官廳ガ職權ニ因リテ爲ス處分ト、人民ノ要求ヲ待チテ爲ス處分トアリ。

(1) 職權處分(要求ニ因ラズ)

- (イ) 命令：行爲ヲ命ズルモノ(例、租稅納付軍隊編入出頭命等)
- (ロ) 禁令：不行爲ヲ命ズルモノ(例、警察上ノ命令即演說中止等)
- (ハ) 罰ノ宣告：法規違反者ニ對スル制裁(例、罰金、拘留料等)
- (ニ) 督促又ハ戒告：既ニ命ジタル命令禁令ヲ實行スル手段
- (ホ) 指定：法ノ適用ヲ完カラシムル爲メ方法條件目的等ヲ示ス處分
- (ヘ) 認定：法ノ適用ヲ完カラシムル爲メニ主トシテ事實ヲ定ムル處分

(2) 要求ニ因ル處分

- (イ) 許可：特定人ニ對シ法ガ一般ニ禁止セル行爲ノ禁ヲ解ク處分(例、營業狩獵建築埋立等ノ許可ニシテ免許狀鑑札ハ許可ノ形式ナリ)
- (ロ) 認可：公私人ノ行爲ニ對シ法律上效力ヲ生ゼシムル處分。法律上禁止セルモノニアラザルモ、效力ヲ生ゼシムル爲メ承認ヲ經ルナリ。
(例、市町村會議決ノ認可、重要物產同業組合役員ノ認可)
- (ハ) 私權設定處分：私權ヲ設定スル行政處分(例、專賣特許、鑛業特許)

四、行政行爲ノ執行

行政上ノ法令及ビ處分ニ對シ服從ノ義務ヲ缺ク者アルトキハ、之レヲ強制シテ其ノ義務ヲ履行セシムル方法ナカルベカラズ。行政行爲ノ執行トハ此ノ強制方法ニシテ行政法ノ制裁手段ナリ。左ノ如シ。

- (ニ) 私權廢止變更處分 (例、公用徵收、徵發地役權設定、病牛撲殺等)
- (ホ) 裁決：違法不當ノ處分ノ正否ヲ判斷ス(例、訴訟裁決、特許審決)
- (ヘ) 決定：人民間ノ私權爭議ヲ仲裁決定ス(例、土地收用法五九條、八二條)
- (ト) 受理：申請、願屆書等人民公法上ノ行爲ヲ受納承認スル處分
- (チ) 却下：受理スルコトヲ得ザル人民行爲ニツキ認容セズ返戻スル處分
- (リ) 登録：官廳帳簿ニ事項ヲ登掲シ事實ヲ確認ス(例、身分登記、商標登録等)
- (ヌ) 公證：事實ノ正確ナルコトヲ認ム(例、度量衡檢定、貨幣鑄造等)

行政上強制



人的強制

代執行

第一、人的強制手段

(一) 代執行

特定ノ行爲義務アル者ガ其ノ行爲ヲ爲サザルトキハ、行政官廳自ラ之レヲ爲シ、又ハ第三者ヲシテ之レヲ爲サシメ、之レニ要シタル費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得。之レヲ代執行ト云フ。代執行ヲ爲シ得ベキ處分ハ必ラズ行爲ヲ命ズル者ニ限ル。或ル行爲ヲ禁止スル處分ニ對シテハ代執行ノアリ得ベキ理ナシ。又他人ガ代リテ爲スコト能ハザル時モ代執行アリ得ベカラズ。例ヘバ特殊ノ技能ヲ要スル行爲ノ如シ。

強制罰

(二) 強制罰

行爲ノ義務ニシテ代執行ヲナスコト能ハザルモノ、又ハ不行爲ノ義務ヲ強制スルガ爲メニハ、行政官廳ハ一定ノ過料ニ處スルコトヲ得。之レヲ強制罰又ハ執行罰ト云フ。此ノ強制罰ヲ科セントスルトキハ、豫メ履行者ニ期間ヲ定メ義務者ニ戒告スルコトヲ要シ、其ノ期間ニ義務ヲ履行セザル場合ニ初メテ科スルコトヲ得ルモノナリ。要スルニ義務履行強制ノ方法ニシテ、刑罰上ノ罰金及ビ科料トハ其ノ性質ヲ異ニス。刑罰ハ法規違反ノ事

直接強制

物的強制

(三) 直接強制

實ニ科スル惡報ナルニ、強制罰ハ義務違反ノ繼續ヲ妨グルガ爲ニ科スルナリ。代執行又ハ、強制罰ヲ用フルコト能ハズ、又ハ急迫ノ事情アルトキハ、行政官廳ハ實力ヲ以テ直接ニ行爲又ハ不行爲ノ義務ヲ履行セシムルコトヲ得。之レヲ直接強制ト云フ。其ノ強制ノ程度及ビ方法ハ、行政官廳ノ裁量ニ任ス。例ヘバ警察ガ交通妨害タル多數群衆ヲ解散セシムルヲ得ルガ如シ。

第二、物的強制手段

物的強制手段トハ國家ガ私法上ノ財產權ノ主體タル資格ニ於テ、人民ト法律行爲ヲナシ、或ル物ノ給付ヲ受クベキ場合ニ於テ、規定ニ從ヒ直接ニ義務者ノ財產ヲ強制徵收スルノ手段ナリ。例ヘバ國稅徵收法ニ於テ滯納者ノ財產ヲ差押ヘ、之レヲ賣却シテ税金ニ充ツルガ如シ。

五、行政行爲ノ監督

行政行爲ノ監督ハ行政ノ統一ヲ保チ、行政行爲ヲシテ適法ニシテ且公益ニ合ハシメンコトヲ期シ、又法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スルトキハ之レヲ匡正スルガタ

オニ之レヲ監視督令スル行動ヲ云フ。而シテ監督ノ方法トシテ上級官廳ガ下級官廳ニ對シ訓令ノ形式ヲ以テ指揮命令スルコトアリ。又一般人民ニ對シ下級官廳ノ命令處分ヲ取消シ廢止シ若クハ停止セシムルコトアリ。其ノ監督ニ上級下級關係ノ監督タル直接監督ト行政階級ノ順序ニヨラズ特別機關ヲシテ監督ノ任ニ當ラシムル間接監督トアリ。

直接監督

第一直接監督

上級官廳ガ下級官廳ニ對シテ監督權ヲ行フ形式左ノ如シ

- (一) 報告ヲ徵シ及ビ檢閲ヲナスコト。
- (二) 違法ノ命令處分ヲ取消シ又ハ停止スルコト。
- (三) 指揮命令即チ指令又ハ訓令ヲ發スルコト。(下級官廳ノ伺ニ對シ發スル命令ヲ指令ト云ヒ伺ヲ俟タズシテ發スル命令ヲ訓令ト云フ)
- (四) 認可及ビ許可ヲナスコト。(許可トハ國法ニ於テ一般ニ禁止セラレタル行為ヲ特定ノ場合ニ許ス所ノ行政處分ニシテ認可トハ國法上有效ナル行為ヲ完成シテ一般ニ對抗スルコトヲ得セシムル行政處分ナリ)
- (五) 消極ノ違法ニ對シ臨機ノ手段ヲ執ルコト。此等ノ臨機處置ハ或ハ下級官

間接監督

- (一) 應ノ組織ヲ更新スルコトアリ。或ハ上級官廳自ラ直接ニ下級官廳ノ事務ヲ行フコトアリ。
- (六) 訴願ノ裁決ヲナスコト。
- (七) 下級官廳間ノ權限爭議ヲ裁決スルコト。
此ノ他地方自治團體ニアリテハ多少特殊ノ形式アリ。例ヘバ議決機關ノ解散ヲ命ズルガ如キコレナリ。

第二間接監督

特別機關ガ其ノ特別ノ職務ヲ行フノ結果間接ニ監督ノ趣旨ヲ達スルヲ云フ。左ノ機關ガ之レヲ行フ。

- (一) 行政裁判所 行政訴訟ノ裁判ヲナス。
- (二) 會計検査院 出納ノ検査ヲナス。
- (三) 司法裁判所 特別ノ場合即チ當選訴訟ヲ裁判スルガ如キ場合ノミナリ。
此ノ他帝國議會ハ法律上監督權ヲ有セズ只政治上ニ於テ監督スルノミ。

第四節 行政救濟

一、行政救済ノ意義

行政救済トハ行政行為ガ私人ノ利益ヲ侵害シタル場合ニ、之レヲ回復セシムル方法ヲ云フ。其ノ方法ハ救済スベキ利益ニ應ジ、大別シテ二トス。單純ノ利益ニ對スル救済(訴願)ト、權利ニ對スル救済(行政訴訟)トアリ。

二、訴願 (Demand)

第一、訴願ノ意義

訴願トハ行政應ノ不當處分(違法處分ヲ含ム)ニ因リテ、利益ヲ侵害セラレタルトスル者ガ直接上級官廳ニ對シテ、其ノ處分ノ取消又ハ變更ヲ求ムル法律上ノ救済方法ナリ。此ノ訴願ノ性質及ビ提起ノ條件左ノ如シ。

- (一) 訴願ハ行政處分ニ對シテ提起シ得ベキモノナリ。
行政應ノ發スル法規命令及ビ君主ノ處分ニ對シテハ、訴願ヲナスコトヲ得ズ。又行政應トハ官廳及ビ公廳(市町村行政機關)ヲ云フ。故ニ官廳ノ處分ノミナラズ、又自治團體ノ行政處分ニ對シテモ、訴願ヲ提起スルコトヲ得ルモノナリ。
- (二) 行政處分ガ違法又ハ不當ナリシコト。

第二、訴願ヲ爲シ得ベキ事項

- (一) 租稅及手数料ノ賦課ニ關スル事件
 - (二) 租稅滯納處分ニ關スル事件
- 我が國ニ於テ訴願ヲ爲シ得ベキ事項ハ、訴願法第一條ニ列擧スルコト左ノ如シ。此ノ他ノ事項ニ付テハ訴願ヲ提起スルコトヲ許サズ。

- (三) 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- (四) 水利及土木ニ關スル事件
- (五) 土地ノ官民有區分ニ關スル事件
- (六) 地方警察ニ關スル事件
- (七) 其ノ他法律勅令ニ於テ特ニ訴願ヲ許シタル事件

府縣制郡制市町村制關稅法耕地整理法土地收用法砂防法河川法水利組合條例等ニ訴願ヲ許シタル條項コレナリ。例之市町村ノ選舉ニ關スル事項ニツキテハ、當事者又ハ市町村長ヨリ、マダ市町村機關ノ權限ニ關スル事項ニツキテハ、市參事會又ハ市町村長ヨリ、市町村會又ハ府縣參事會ニ向テ之レヲ提起スルガ如シ。

訴願ノ手續

第三、訴願ノ手續

訴願ハ處分ヲナシタル行政廳ヲ經由シ、一定期間内ニ文書ヲ以テ其ノ直接上級行政廳ニ對シ、之レヲ提起シ得ベキモノトス。訴願人ニシテ若シ其ノ裁決ニ不服ナルトキハ、更ニ其ノ裁決ヲナシタル行政廳ヲ經由シテ、上級行政廳ニ訴願スルコトヲ得ベシ。但シ例外トシテ各省大臣ノ爲シタル處分ニ對シ

訴願ノ裁決

第四、訴願ノ裁決

テハ、各省大臣ニ訴願スベキモノトス。各省大臣ノ裁決ニ對シテハ更ニ訴願スルコトヲ得ズ。

訴願書ノ經由ニ當レル行政廳ハ訴願書ヲ受取リタルトキハ、辯明書及ビ必要文書ヲ添へ、上級行政廳ニ之レヲ發送ス。訴願ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外、行政處分ノ執行ヲ停止セズ。訴願ハ行政廳ニ於テ必要ナリト認ムル時ノ外、口頭審問ヲ爲サズ其ノ文書ニツキ之レヲ裁決ス。裁決ニ四種アリ。

- (一) 却下 訴願ヲ許サル事項及ビ適法ノ手續違反ノモノハ却下ス。
- (二) 取消 直接ニ行政處分ヲシテ效力ヲ失ハシムルモノナリ。
- (三) 棄却 訴願ニ理由ナシト認メタル時ハ裁決ヲ以テ訴願ヲ棄却ス。
- (四) 變更 處分ノ一部ヲ取消シテ殘餘ヲ是認スル裁決ナリ。

訴願ノ裁決書ハ其ノ處分ヲ爲シタル行政廳ヲ經由シテ、之レヲ訴願人ニ交付ス。訴願書ヲ却下スルトキ亦同シ。上級行政廳ニ於テ爲シタル裁決ハ、下級行政廳ヲ羈束ス。却下ノ處分ハ下級行政廳ヲ羈束セザルモノトス。

裁決ニ不服ナルトキハ更ニ上級行政廳ニ對シ、訴願又ハ行政訴訟出訴ヲ許

ス場合ヲ起スコトヲ得。上級行政廳ナキ場合ニ於テハ、其ノ訴願ノ裁決ハ事實的ニ確定スルモノナリ。但シ行政裁判所ニ出訴ヲ許スモノハ此ノ限リニアラズ。此ノ點ニ於テ訴願ハ行政訴訟ノ前置條件ナリト謂フ。却下ニ對スル亦同シ。

三、行政訴訟 (Administrative Procedure)

第一、行政訴訟ノ意義

行政訴訟トハ違法ノ行政處分ニヨリ、權利ヲ毀損セラレタリトスル者ガ、行政裁判所ニ出訴シテ、其ノ救濟ヲ求ムル法律上ノ手段ナリ。行政訴訟ノ性質及ビ提起ノ要件左ノ如シ。

- (一) 行政訴訟ハ違法ノ行政處分ニ對スルモノナリ。
- (二) 行政訴訟ハ權利ヲ毀損スル行政處分ニ對スルモノナリ。
- (三) 行政裁判ハ裁判ノ形式ニ於テスル法律上ノ救濟方法ナリ。
- (四) 出訴期限ヲ經過セザルコト。(處分裁決書交付ノ日ヨリ六十日以内)
- (五) 法律勅令ヲ以テ行政訴訟ノ提起ヲ許シタル事項ナルコト。
- (六) 各省又ハ内閣ニ訴願シタルモノニアラザルコト。

(七) 其ノ處分又ハ裁決ヲナシタル行政廳ヲ被告トスルコト。

第二、行政訴訟ヲ許スベキ事項

行政訴訟ヲ許スベキ事項ハ行政裁判法第十五條ニ列記ス。(行政裁判所權限)

- (一) 海關稅ヲ除ク外租稅及手数料ノ賦課ニ關スル事件
- (二) 租稅滯納處分ニ關スル事件
- (三) 營業免許ノ拒否又ハ取消ニ關スル事件
- (四) 水利及土木ニ關スル事件
- (五) 土地ノ官民有區分ノ査定ニ關スル事件
- (六) 法律勅令ニ別段ノ規定アル場合
 - 右ハ府縣制郡制市町村制水利組合條例官吏恩給法官吏遺族扶助料法軍人恩給法河川法砂防法森林法等ニ規定セリ。

第三、行政裁判所ノ組織

行政裁判所ハ行政訴訟ヲ裁判スル合議制ノ官廳ナリ。行政裁判所ハ司法裁判所ニアラズ。憲法第六十一條「行政官廳ノ違法處分ニ由リ權利ヲ傷害セ

ラレタリトスルノ訴訟ニシテ別ニ法律ヲ以テ定メタル行政裁判所ノ裁判ニ屬スベキモノハ司法裁判所ニ於テ受理スルノ限ニアラズト。之レニ由リテ見レバ、行政裁判所ハ違法ノ行政處分ニヨリテ、權利ヲ侵害セラレタル訴訟ヲ裁判スル權限ヲ有スルナリ。(行政裁判法參照)

- (一) 行政裁判所ハ之レヲ東京ニ置ク。全國唯一ナリ。
- (二) 行政裁判所ニ長官一人及ビ評定官ヲ置ク。評定官數ハ勅令ヲ以テ定ム。
- (三) 長官及評定官ハ三十歳以上ニシテ五年以上高等官ノ職ヲ奉ジタル者、若クハ裁判官ノ職ヲ奉ジタル者ノ中ヨリ任命セラル。長官ハ勅任トシ、評定官ハ勅任又ハ奏任トス。
- (四) 行政裁判所ノ長官及ビ評定官ハ憲法上ノ所謂裁判官ニアラズ。從テ憲法五十八條ノ保障ヲ受ケズ。然レドモ裁判ノ公平ヲ保ツタメ、行政裁判法ニ規定シ保障ヲ與フ。曰ク長官及ビ評定官ハ刑法ノ宣告又ハ懲戒ノ處分ニ由ルニ非ザレバ、其ノ意ニ反シテ退官轉官又ハ非職ヲ命ゼラル、コトナシ。
- (五) 行政裁判所ノ對審判決ハ、之レヲ公開スルヲ原則トス。但安寧秩序又ハ風俗ヲ害スルノ虞アルカ、又ハ行政廳ノ要求アルトキハ、行政裁判所ノ決議ヲ、

以テ、對審ノ公開ヲ停止スルコトヲ得。

(六) 行政裁判所ノ裁判ハ、裁判長及ビ評定官ヲ併セ、五人以上ノ列席合議ヲ要ス。但列席ノ人員ハ奇數ニ限ル。

第四、行政訴訟ノ手續

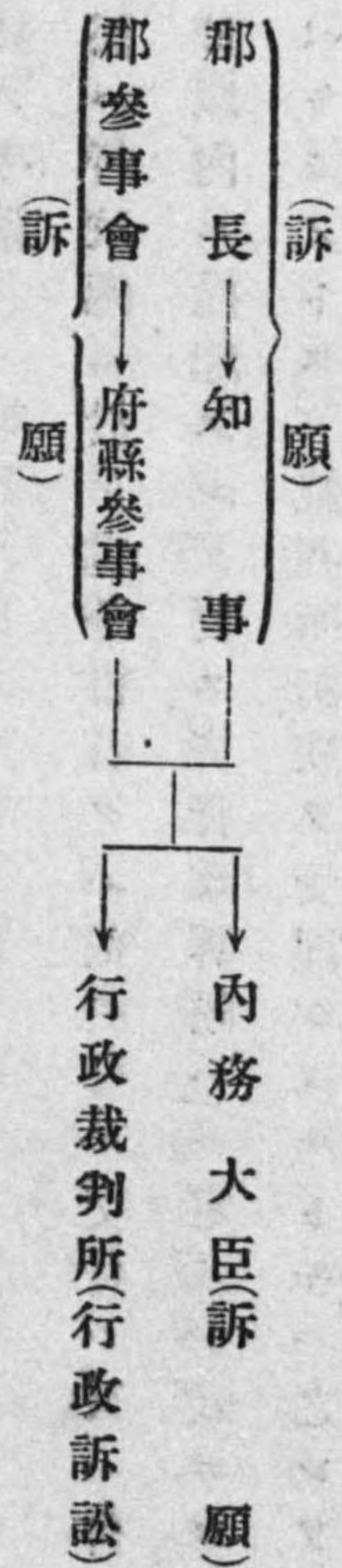
行政訴訟ハ行政廳ニ於テ處分書若クハ裁決書ヲ交付シ、又ハ告知シタル日ヨリ六十日以内ニ提起スルヲ要ス。行政訴訟ハ一定ノ形式ニヨル文書ヲ以テ提起スベキモノトス。裁判所訴狀ヲ受理シタルトキハ之レヲ被告ニ送達シ、相當ノ期限ヲ指定シ、テ答辯書ヲ差出サシメ、豫メ指定シタル期日ニ於テ審廷ヲ開キ、通常口頭審問ヲナシテ判決スルヲ原則トス。訴訟ハ代理人ヲ以テスルヲ妨グズ。被告ハ行政處分ヲナシタル官廳トス。官廳ハ人格ヲ有セザルモノナレドモ、此ノ場合ニハ特ニ人格ヲ有スルモノト認ムルナリ。行政訴訟ハ訴訟ヲ前置條件トスルコト左ノ如シ。

(一) 行政訴訟ハ直ニ之レヲ行政裁判所ニ提起セシメザルヲ原則トス。故ニ行政訴訟ヲ提起スルモノハ、先ヅ地方上級行政廳ニ訴願シ、其ノ裁決ヲ得タル上ニアラザレバ出訴スルコトヲ得ズ。只例外トシテ各省大臣ノ處分又ハ

内閣直轄官廳又ハ地方上級行政廳ノ處分ニ對シテノミハ、直ニ行政訴訟ヲ提起スベキモノトセラレタリ。即チ此ノ場合ニハ、訴訟ト訴訟トノ二途ヲ開クモノナリ。

行政訴訟ト訴訟トハ其ノ性質ヲ異ニスルモ、其ノ行政處分ノ取消又ハ變更ヲ目的トスルニ於テハ一ナルガ故ニ、寧ロ便宜上先ヅ訴訟ノ判決ヲ求メシムルモノト解スベキナリ。

同一事項ニツキテ其ノ何レヲモ許ス場合ニハ、左圖ノ如ク先ヅ訴訟ヲ提起シ後、内務大臣ニ訴訟スルカ行政裁判所ニ訴訟ヲ提起スルカナリ。



(二) 一度各省大臣又ハ内閣ニ訴訟シタルトキハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得ズ。即チ最高行政官廳ニ訴訟スルノ手段ト、行政訴訟ヲ起スノ手段ト、二ツナガラ存在スル場合ニ於テ、二ツノ手段ノ一ヲ擇ビシトキハ、更ニ他ノ手段

ヲ取ルコト能ハザルモノトス。

右ハ我が國ノ現行制度ナルモ甚ダ解シ難キ點アリ。何トナレバ前項ニ述ベシ如ク、各省大臣ノ原始的處分ニ對シテハ、行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得セシメナガラ、其ノ訴訟ノ判決ニ對シテハ、行政訴訟ヲ提起スルヲ禁ズルノ理由ナキモノト信ズ。

(三) 特別ニ我が現行法中訴訟及ビ訴訟ノ選擇ヲ全ク禁止シ、行政裁判所ニ行政訴訟ヲ許シタル事項ニツキテハ、明文ヲ以テ主務大臣ニ訴訟スルコトヲ禁止セリ。(市制一一六條、町村制一二〇條、水利組合條例四六條、郡制一〇九條) 行政裁判所ハ損害要償ノ訴訟ヲ受理セズ。

第五 行政訴訟ノ判決

訴訟ガ判決ヲナスニ熟シタルトキハ、行政裁判所ハ判決ヲ言渡スベシ。其ノ宣告書ハ理由ヲ付シ、裁判長、評定官書記之レニ署名捺印シ、其ノ謄本ニ行政裁判所ノ印章ヲ捺シ、之レヲ原告被告及ビ參加人タル第三者ニ交付スベシ。此ノ判決ハ當事者參加人及ビ關係ノ行政廳ヲ羈束ス。判決ノ種類ハ訴訟ノ判決ニ付テ擧ゲタル四種ナリ。

行政裁判所ノ裁判ニ對シテハ再審ヲ求ムルコトヲ得ズ。故ニ其ノ判決ハ一審ニシテ又終審ナリ。

判決ハ當事者ノ争ヲ判斷シテ孰レガ非孰レガ是ナルヤヲ決スルモノナリ。故ニ判決直接ニ行政處分ヲ取消ス効力アルニアラズシテ、官廳ニ對シ其ノ違法處分ヲ取消スベシテフ命令ヲ下スモノナリ。

終リニ一言ス。行政訴訟提起セラル、モ、原處分ノ執行ヲ停止セザルヲ原則トス。但シ公益上必要ト認ムルトキハ此ノ限リニアラズ。

第六 行政訴訟ト訴願トノ異同

訴訟ト訴願トノ異同

(一) 差異點

- (1) 行政訴訟ハ特ニ權利毀損ノ場合ニ提起シ、訴願ハ廣ク利益毀損ノ場合ニ提起スルコトヲ得。
- (2) 行政訴訟ハ行政裁判所ニ判決ヲ乞フモノニシテ、訴願ハ上級行政廳ノ裁決ヲ仰グニ止マルモノナリ。實際ニ於テ訴願ハ行政訴訟ノ階級ナリ。
- (3) 行政訴訟ノ判決効力ハ當事者ヲ羈束スレドモ、訴願ノ裁決ハ一般ニ行政處分ヲ廢止變更スル範圍内ニ於テ、尙ホ裁決ヲ廢止變更スルコトヲ得ル

備考
行政監督ト
訴願及訴訟

ナリ。

(二) 同一點

- (1) 行政訴訟及ビ訴願ハ、共ニ行政處分ニ對シテ提起スルモノナリ。
- (2) 行政訴訟及ビ訴願ハ、共ニ處分ノ廢止變更ヲ要求スルコトヲ目的トス。

備考

◎ 行政監督ト訴願及ビ行政訴訟

凡ソ行政機關ニハ上下ノ系統アリテ監督權ヲ行使シ、其ノ非違ヲ匡正スルコトヲ得ベシト雖モ、現代文明國家ニ於テハ又特ニ一個人ヲシテ其ノ行政機關ノ違法若クハ不當處分ニ依リ權利又ハ利益ヲ侵害セラレタル場合ノ救済ニ關シ、權利トシテ訴願及ビ行政訴訟ヲ提起セシム。コノ訴願ノ裁決及ビ行政裁判ハ、國家組織ノ内部ニ於ケル監督方法トシテ、最も著シキモノナリ。

第七章 刑法 (Criminal Law)

第一節 總論

一、刑法ノ意義

刑法トハ國家ガ犯罪人ニ科スルニ、如何ナル刑罰ヲ以テスルカヲ規定シタル法典ヲ云フ。即チ罪トナルベキ行為タル犯罪ト刑罰トヲ規定シタル法ヲ云フナリ。單ニ刑法ト云ヘバ一般人民ニ適用セラル、普通刑法ヲ指稱スルモノナレドモ、亦此ノ外ニ特別刑法タル陸海軍ノ軍人軍屬ニノミ適用セラル、陸海軍刑法アリ。凡ソ諸般ノ法律中最初ニ發達シタルモノヲ刑法トス。古代ノ法律ハ悉ク刑法ナリト云フモ過言ニアラズ。蓋シ公安ヲ維持スルハ國家ノ要務ニシテ、刑法ノ目的ハ此ノ要務ニ應ズルニアリ。故ニ國家アレバ一日モ刑法ナキヲ得ザレバナリ。然レバ羅馬ニ於テハ古代王政時代ニ刑法發生シ、支那ニ於テモ古代各王朝ニ律令(律ハ刑法令ハ官制及ビ行政命令)トシテ刑法發生セシヲ見ルナリ。

二、我國刑法ノ沿革

第一期 太古時代：太古天罪、國罪ノ別アリ。犯罪者ハ神罰ヲ受クト思惟セリ。

第二期 大寶令時代：大寶律令、貞觀格式、延喜格式等ノ發布アリ。

第三期 武家時代：北條氏ノ貞永式目、建武式目及ビ徳川氏ノ百箇條。

第四期 維新現代：明治三年新律綱領ヲ發布シ、同六年改定律令ノ發布アリ。

其ノ後大木喬任司法卿トナルニ及ビテ、佛國法學者ポアンナード氏ヲ傭聘シテ泰西ノ法理ニ基ツキテ刑法ヲ編纂セシメ、明治十三年七月之レヲ公布シ、同十五年一月一日ヨリ之レヲ實施セリ。其ノ後該刑法ノ改正論起リ、遂ニ法典編纂委員ノ手ニヨリ改正案起草セラレ、數回議會ニ提出セリ。而シテ第二十三議會ノ協賛ヲ經テ、四十年四月新刑法典ノ公布ヲ見ルニ至リ、四十一年十月一日ヨリ施行セラル、コト、ナレリ。

三、刑法改正ノ要點

改正刑法ハ舊刑法ノ既往二十餘年ノ實驗ニ徴シ、且ツ主トシテ獨逸刑法並ニ諸外國立法例ヲ參照シ、我が國情ト時勢トニ鑑ミ編纂シタルモノナリ。其ノ改正ノ要點左ノ如シ。

第一、法文ノ條數ヲ減ジタルコト

舊刑法ハ全編四百三十條ヨリ成リタルニ、新刑法ハ僅ニ二百六十四條ニ減

シタレドモ、其ノ規定却テ精密ヲ極メ且ツ寬嚴宜シキヲ得タリ。

第二、刑ノ撰擇伸縮ニ關スル裁量範圍擴張シタルコト

舊刑法ハ應報主義ニ從ヒタルタメ刑ノ範圍狹縮ニシテ犯罪ノ情狀犯人ノ性質ニ因リテ刑ヲ加減伸縮スルコトヲ得ザリシガ、新刑法ニ於テハ刑事政策ノ要求ニ從ヒ、法律規定ノ範圍内ニ於テ犯人ノ性質ニ應ジ、刑ノ撰擇ヲ爲シ且ツ刑ヲ上下スルノ自由ヲ與ヘタルコト大ナリ。

第三、舊刑法ニ於ケル罪ノ三分類法ヲ廢シタルコト

舊刑法ニ於テハ罪ヲ分チテ重罪・輕罪・違警罪ノ三種トセシガ、コレ犯罪ノ性質上ノ區別ニアラズシテ只刑ノ輕重ニヨル區別ナルヲ以テ、新刑法ニ於テハ之レヲ廢セリ。

第四、刑名ヲ減ジタルコト

舊刑法ニ於テハ重罪九種・輕罪三種・違警罪二種ノ十四種ナリシガ、新刑法ニ於テハ主刑六種トセリ。コレ刑ノ範圍擴張ノタメナリ。

第五、刑ノ執行猶豫ノ規定ヲ採用シタルコト

明治三十八年三月刑ノ執行猶豫ノ規定ヲ設ケ、之レヲ施行シタルガ、其ノ結

果良好ナリシタメ、新刑法ニ此ノ成文ヲ設クルニ至レリ。

第六、監視ノ制度ヲ廢シタルコト

監視ノ制度ハ其ノ目的タル再犯ヲ豫防スルコト能ハザルニヨリ廢シタリ。

第七、舊刑法ニ於ケル數罪俱發及ビ再犯ノ規定ヲ改メタルコト

新刑法ニ於テハ數罪俱發ヲ併合罪トシ、一罪毎ニ各其ノ刑ヲ科スルコトトセリ。又再犯ヲ累犯トシテ、其ノ内容ヲモ改メタリ。

第八、帝國外ニ於ケル犯罪ノ處分ニ關スル規定ヲ新設シタルコト

コレ舊刑法ノ缺點ナリシガ新刑法ニ於テハ國家ノ危害ヲ醸スベキ犯罪ハ國外ニ於テ犯シタルモノト雖モ之レヲ罰スルコトトセリ。

第九、內國ニ於テ外國主權者若クハ使臣ニ對シ、犯シタル罪ノ規定ヲ新設セリ。

第十、舊刑法ニ於ケル大赦・特赦・復權ノ規定ヲ廢シタルコト。

大赦・特赦・復權ノ如キハ天皇ノ大權發動ニヨルモノナレバ、刑法ニ規定スルノ必要ナキヲ以テナリ。

第十一、舊刑法ニ於ケル公權剝奪ノ規定ヲ廢シタルコト

公權ヲ行ハシムル所ノ資格ヲ定ムルハ、特別法ノ範圍ニ屬スルガ故ナリ。

第十二、違警罪ノ規定ヲ刑法ヨリ除キタルコト

違警罪ハ警察法規ノ領域ニ屬スルモノナレバ、刑法ヨリ削除セリ。コノ違警罪ハ警察犯處罰令トシテ内務省令ヲ以テ規定セリ。

第十三、刑事責任年齢ヲ十四歳トセルコト

舊刑法ハ十二歳ナリシガ之レヨリ二歳ヲ高メタリ。

第十四、懲治及ビ監置ノ制ヲ廢シタルコト

幼者ノ懲治及ビ精神病者ノ監置ノ如キハ、教育上若クハ行政上ノ目的ニ出ヅルモノニシテ處罰スベキモノニアラザルヲ以テ刑法ヨリ削除セリ。

四、刑罰權ノ基礎

刑罰權ノ基礎トハ國家ガ如何ナル目的ノ爲メニ刑罰權ヲ行フヤ、換言スレバ刑罰ノ目的如何、如何ナル場合ニ如何ナル範圍ニ於テ國家ハ刑罰ヲ科スベキヤ、刑罰ヲ科スベキ之レヲ刑法ノ主義又ハ刑罰ノ目的トモ云フ。此ノ問題ニ關シテ古來學說區々ナリ。左ニ其ノ主ナルモノヲ述ブベシ。

第一、絕對主義

此ノ說ハ國家ガ犯罪ヲ罰スルノ根據ヲ正義ニ採リ、因果應報罪惡必罰ノ純

第二、相對主義

理ヲ以テ之レヲ貫徹セントスルモノニシテ、又之レヲ純正主義報復主義或ハ主觀主義トモ云フ。此ノ主義ノ學者ノ說ク所ニヨレバ、刑罰ヲ科スルハ敢テ他ノ目的アルニアラズト雖モ、罪アレバ必ラズ刑ナカルベカラザルハ正義ノ要求スル所ニシテ、正義ハ國家社會萬般ノ制度ノ基礎ナレバナリト云ヒ、而シテ此ノ正義ノ要求ニ應ゼンニハ必ラズ報復ニ依ラザルベカラズト云フナリ。

此ノ說ハ刑罰ノ目的ノ見地ヨリ刑罰ヲ科スルノ理由ヲ説明セントスルモノニシテ、實利實益乃至必要ヲ以テ刑ノ目的トナスモノナリ。之レヲ又實利主義利益主義或ハ客觀主義ト云フ。此ノ主義中ニモ亦種々ノ說アリ。

- (一) 必要主義…刑罰權ハ國家生活上必要ニシテ刑罰ハ法規維持上必要ナリ。
- (二) 脅嚇主義…一ヲ殺シテ萬ヲ懲ラス即チ世人ヲ威嚇シテ犯罪ノ念ヲ斷ツ。
- (三) 改善主義…犯人ヲ懲戒改善センガ爲ニ刑罰ヲ科スルナリ。
- (四) 豫防主義…各犯人ヲ刑シ其ノ後ノ犯罪ヲ爲サシムル主義ヲ云フ。
- (五) 防衛主義…國家ハ刑ヲ科シテ公ノ秩序ニ對スル不法ヲ防壓ストナス。
- (六) 離隔主義…犯人ヲシテ加害行爲ヲ爲シ得ザラシムル狀態ニ置クヲ云フ。

第三、折衷主義

此ノ説ハ絶對主義ト相對主義トヲ折衷セルモノニシテ、刑罰ノ根據ヲ正義ト目的トニ採リ、正義ノ要求ニ違背スル刑ハ目的ニ合スルモ不當ナリ、又脅嚇、改善離隔等種々ノ必要ノ範圍ヲ超ユル刑ハ、正義ノ要求ニ適合スルモ之レヲ科スルコトヲ得ズト云フニアリ。故ニ此ノ主義ニ從ヘバ罪ニ對シ罪ニ比例スル刑ヲ報復スルコトヲ必要トスト雖モ、其ノ報復ニ一定ノ制限ヲ附シ公ノ秩序維持ニ必要ナル程度ニ於テノミ刑ヲ報復スベキモノトスルナリ。現今多數ノ學者ハ此ノ主義ヲ以テ刑法ノ根本主義ト思斷スル如シ。

第二節 犯罪 (Offence)

一、犯罪ノ意義

犯罪トハ刑罰ヲ制裁トシタル法令ニ違反スル、有責者ノ不法行為ヲ云フ。此ノ意義ヲ左ニ説明スベシ。

第一、刑罰法令違反

刑罰ハ箇人ノ身上ニ關係スルコト重大ナルガ故ニ、刑罰ヲ制裁トシタル法

第二、有責者

令ニ明記スル所ニ違反スルニ非ザレバ罰スルコトヲ得ズ。只漠然ト類似解釋ヲナシ、又ハ推察ニヨリテ或行為ヲ犯罪ナリトスルコトヲ得ズ。

犯罪ノ主體タルニハ必ラズ有責者即チ責任能力ヲ有スル者タルコトヲ要ス。

故ニ心神喪失者、瘖啞者、十四歳未滿ノ幼者等ノ行為ハ、如何ナル不法行為ヲナスモ法律上犯罪トシテ刑罰ノ制裁ヲ科スルコトヲ得ズ。

第三、行為ヲナシタルコト

刑法ハ意思ノ發動タル外部ノ舉動即チ行為ヲ支配スルモノニシテ、心裡ニ存スル思想決心(計劃)等ハ、縱令自白アリトスルモ之レヲ處罰スルコトヲ得ズ。此ノ原則ハ遠クウルピアヌス以來普ク認めラル、所ナリ。

第四、不法行為ナルコト

犯罪ハ不法ナラザルベカラズ。茲ニ不法ト云フハ權利ノ行使ニアラザルコトヲ云フ。即チ權利ノ執行ニ屬スルトキハ刑罰ノ制裁ヲ科スルコトヲ得ズ。故ニ正當防衛權ノ執行又ハ正當業務行為ノ如キハ、如何ニ人ノ權利ヲ害スルモ、不法行為ニアラザルヲ以テ犯罪ニアラズ。

以上四箇ノ要素ハ各種犯罪ノ成立ニ共通ナル一般的要素ナリ。

二、犯罪ノ主體及客體

第一、犯罪ノ主體

犯罪ノ主體トハ犯罪ノ責ヲ負フ能力ヲ有スルモノニシテ自然人ヲ主トス。法人ハ特別ノ規定アル場合ニ非ザレバ、犯罪ノ主體トナルコトナシ。法人ヲ代表スル職員ガ法人ノ名義ヲ以テ罪ヲ犯スモ、其ノ責任ハ職員タル自然人ナリトス。刑法上無形人ハ犯罪能力ナキモノナリ。唯法律ガ特ニ法人其ノ者ニ對シテ罰金ヲ科スルノ規定ヲ爲シタル場合ハ、犯罪ノ主體タル得ベキモノトス。現行法中鐵道船舶郵便法電信法電氣鐵道取締規則等ニ法人ヲ罰スル規則アリ。

第二、犯罪ノ客體

犯罪ノ客體トハ犯罪ノ爲メ害ヲ受クル者ヲ云フ。故ニ人類ト法人トヲ問ハズ犯罪ノ被害者タルコトヲ得ベキモノトス。此ノ被害者ハ犯罪ノ種類ニヨリテ個人或ハ社會或ハ國家タルコトアリ。

三、犯罪ノ分類

犯罪ノ主體

犯罪ノ客體

親告罪及非親告罪

國事犯及非國事犯

即成犯及繼續犯

犯罪ノ種類ハ其ノ標準ヲ異ニスルニヨリ種々ニ分類スルコト左ノ如シ。

第一、親告罪及非親告罪

親告罪トハ公訴ヲ提起スルニツキ被害者又ハ其ノ親族ノ告訴アルヲ必要トスルモノニシテ、例ヘバ猥褻姦淫罪過失傷害罪誹毀罪親族相盜罪等ノ如シ。非親告罪トハ其ノ告訴アルヲ必要トセザルモノニシテ、犯罪ノ大多數ハ非親告罪ニ屬ス。

第二、國事犯及非國事犯

國事犯ハ所謂政治犯(直接政治上ノ秩序ヲ害ス)ノ一種ニシテ、内亂及ビ外患ニ關スル罪ヲ云フ。其ノ他ノ犯罪ハ悉ク非國事犯ナリ。國事犯ハ裁判所ノ管轄ヲ異ニス。政治犯罪人ハ之レヲ外國ニ引渡サハルヲ以テ例トス。

第三、即成犯及繼續犯

即成犯トハ犯罪行為ガ僅少時間ニ終結スルモノヲ云ヒ、繼續犯トハ多クノ時間ヲ費シテ終結スルモノヲ云フ。繼續犯ニ慣行犯(常習賭博)永續犯(不法監禁)連續犯(倉中ノ米ヲ數夜一俵宛盜取)ノ三種アリ。此ノ分類ハ時効起算點ヲ異ニスルニアリ。繼續犯ハ最終日ヨリ時効ヲ起算スルモノトス。

現行犯及非
現行犯

第四、現行犯及非現行犯

現行犯トハ現ニ行フ際又ハ行ヒ終リタル際發覺シタル罪ノ謂ニシテ、夫レヨリ以後ニ發覺シタル罪ハ即チ非現行犯ナリ。現行犯ニ關シテハ訴訟法ニ簡便迅速ヲ旨トシタル手續ノ規定ヲ存ス。

普通犯及特
別犯

第五、普通犯及特別犯

普通刑法ノ定ムル犯罪ヲ普通犯ト云ヒ、普通刑法以外ノ刑罰法令ノ定ムル犯罪ヲ特別犯ト云フ。例ヘバ出版法治安警察法等ノ犯罪ハ特別犯ナリ。

作爲犯及不
作爲犯

第六、作爲犯及不作爲犯

作爲犯トハ積極的行爲ニ依リ成立スル犯罪ヲ云ヒ、不作爲犯トハ消極的行爲ニ依リ成立スル犯罪ヲ云フ。例ヘバ人ヲ殺スハ作爲犯タルヲ常トスレドモ、若シ衣食ヲ與ヘズシテ死ニ致シタルトキハ不作爲犯ナリ。

四、犯罪ノ成立

犯罪ノ成立スルニハ其ノ行爲ノ主體ニ犯罪ノ責任アルコト、及ビ其ノ行爲ガ不法ノ行爲タルコトヲ要ス。

犯罪ノ責任

第一、犯罪ノ責任

責任能力

犯罪ノ責任ヲ生ズルニハ、責任能力ト責任條件ヲ具備スルヲ要ス。
(一) 責任能力

責任能力ハ心神ノ健全ナル者及ビ其ノ發育十分ナル者ニ非ザレバ之レヲ有スルコト能ハズ。故ニ左記ノ者ノ行爲ハ之レヲ罰セズ。

(1) 心神喪失者

心神喪失者トハ精神病者及ビ痴呆ヲ云フ。心神喪失ノ原因又犯罪前後ノ狀況ハ之レヲ問ハズ。犯罪當時心神喪失セルトキハ犯罪責任ナシ。

(2) 瘖啞者

瘖啞者トハ聾ニシテ且啞ナル者ノ意ナリ。瘖啞教育ノ進歩セル時ナルヲ以テ原則トシテハ無責任トシ、之レヲ罰スルトキハ減刑ス。

(3) 幼者

責任年齢ヲ滿十四歳トシ、十四歳以下ハ無責任ナリトス。十四歳以上ノ者ハ原則トシテ之レヲ罰スルコト、シ、裁判上ノ酌量ヲ加フルコト、セリ。

(二) 責任條件

責任條件

責任條件ハ意思ニシテ故意及ビ過失ニ分ツ。

(1) 故意

故意トハ犯罪トナルベキ事實ヲ知リテ之レヲ爲サンコトヲ決意(犯意)スルヲ云フ。犯罪トナルベキ事實ヲ知ラザリシトキハ、全部又ハ一部ノ犯意ノ存在ヲ阻却スルモノナリ。法律ヲ知ラザルモ罪ヲ犯スノ意ナシトスルヲ得ズ。故ニ此ノ場合ハ刑ヲ減ズルコトヲ得トセリ。

(2) 過失

犯罪事實ノ存在ヲ知ルコトヲ要シ、又知リ得タルニ拘ラズ不注意ノ爲メニ之レヲ知ラザルトキハ過失トス。凡ソ犯罪成立ニハ犯意アルヲ要スレドモ、或犯罪ハ單ニ過失ヲ以テ成立スルモノアリ。例ヘバ過失殺傷罪又ハ失火罪ノ如シ。

第二、不法行爲

犯罪成立ニハ其ノ行爲ガ不法ノモノタルコトヲ要ス。故ニ左記權利行爲及ビ緊急行爲ハ犯罪ヲ成立セズ。

(一) 權利行爲

不法行爲

權利行爲

(1) 法令又ハ正當ノ業務ニ依ル行爲

法令ニ依ル行爲トハ官吏公吏等ノ職務上ノ行爲及ビ視權者ノ懲戒權等ヲ云ヒ、正當ノ業務ニ依ル行爲トハ醫師ノ手術、相撲柔道等ノ行爲ニシテ犯罪ヲ構成セズ。

(2) 正當防衛

正當防衛トハ急迫不正ノ侵害ニ對シ、自己又ハ他人ノ權利ヲ防衛スルガため、已ムヲ得ザルニ出デタル行爲ヲ云フ。例ヘバ強盜侵入ノ場合ニ防衛ノ必要上之レヲ斬殺スガ如シ。若シ必要ノ程度ヲ超エテ害ヲ加ヘタルトキハ、唯刑ノ全免又ハ減輕ヲ得ルコトアルノミ、無罪ノ限りニアラズ。

(二) 緊急行爲

緊急行爲トハ現在ノ危難ヲ避クルガ爲メ、已ムコトヲ得ザルニ出デタル行爲ヲ云フ。而シテ自己又ハ他人ノ生命、身體自由、財産ニ關スル現在ノ危難ヲ避クルため、已ムコトヲ得ザルニ出デタル行爲ハ、其ノ行爲ヨリ生ジタル害ガ其ノ避ケントシタル害ノ程度ヲ超エザル場合ニ限り、法律ハ之レヲ罰セズ。

緊急行爲

若シ其ノ程度ヲ超ユタルトキハ無罪ニアラズ。

五、犯罪ノ状態

犯罪ノ状態トハ犯罪行為ノ階段・主體ノ員數・犯罪ノ度數等ヲ標準トシテ觀察シタル犯罪ノ性質ヲ云フ。即チ未遂罪不能罪累犯併合罪共犯ニシテ左ノ如シ。

第一、未遂罪

未遂罪トハ犯罪ノ實行ニ着手シタルモ意外ノ障礙ニ因リ、又ハ自己ノ意思ニ因リ之レヲ遂グルニ至ラザリシモノヲ云フ。意外ノ障礙トハ人力及ビ自然力タルトヲ問ハズ、其ノ力ニヨリ碍セラレタルモノヲ云フ。自己ノ意思ニ因リタル未遂罪ハ通常之レヲ中止犯ト云フ。未遂罪ハ之レヲ罰セザルヲ原則トス。各條ニ於テ罰スルモノニ限り罪ヲ構成ス。但シ其ノ刑ヲ減ズルコトヲ得。未遂罪ノ終局ニ達スルトキハ既遂トナル。既遂トナル迄ニ左ノ階段アリ。

- (一) 犯意ノ表示：單ニ罪ヲ犯スノ意思ヲ表示ス。
- (二) 陰謀罪：二人以上ノ間ノ犯罪ノ協定ナリ。重大事項ノ外罰セズ。
- (三) 豫備罪：實行ニ着手スル以前ノ犯罪準備行為ナリ。重大事項ノ外罰セズ。

(四) 着手：實行ノ端緒ニ入ルヲ云フ。不問ニ付セズシテ之レヲ罰ス。

不能罪

第二、不能罪

不能罪トハ犯人ノ信ズル所ニ違ヒ、罪素タル事實存在セザルガタメニ、罪ノ成立セザルヲ云フ。例ハ殺人セント其ノ居室ニ放銃シタルモ不在ナリシ場合、又ハ墮胎ヲ企テタルニ妊娠シ居ラザリシ時ノ如シ。不能罪ハ之レヲ罰セズ。

累犯

第三、累犯

累犯トハ前ニ罪ヲ犯シ有罪ノ確定裁判ヲ受ケタル者更ニ罪ヲ犯スヲ云フ。初犯ノ確定裁判ヲ經タルニ非ザレバ、併合罪トナルモ累犯トナラズ。累犯ハ刑ヲ加重ス。其ノ加重スベキ場合ハ、先ニ言渡ヲ受ケタル刑ガ懲役タルコトヲ要ス。又先ニ言渡ヲ受ケタル懲役ノ執行ヲ終リタル日、又ハ免除アリタル日ヨリ五年間ニ、更ニ懲役ニ處スベキ罪ヲ犯シタルモノナルコトヲ要ス。

併合罪

第四、併合罪

併合罪トハ確定判決ヲ經ザル數罪ノ義ニシテ、即チ同一犯人ガ二以上ノ罪ヲ犯シ未ダ確定判決ヲ經ザル場合ニ於テハ、其ノ發覺ノ前後ヲ問ハズ之レヲ

併合シテ處罰スルモノトス。從來數罪俱發ト稱セシモノコレナリ。舊刑法ニ於テハ數罪俱發ノ場合ニ、吸收主義ニヨリ唯一ノ重キモノニ從ヒテ處斷セシガ、新刑法ニ於テハ一定ノ場合ヲ限リ數罪ヲ併合シテ之レヲ一ノ特別罪狀ト認メ、其ノ最モ重キ刑ヨリモ更ニ一層重キ刑ヲ加フルノ主義併科及ビ吸收ノ折衷ヲ採用セリ。但シ併合罪中ノ一罪ガ死刑又ハ無期ノ懲役及ビ禁錮ニ處スベキトキハ、罰金科料沒收ヲ除クノ外他ノ刑ヲ科セズ。

共犯

第五、共犯

共犯トハ二人以上合同シテ一罪ヲ犯スヲ云フ。即チ一罪ニツキテ數個ノ犯罪主體アル場合ニシテ、其ノ犯罪主體ガ犯罪行為ニ加擔スル程度又ハ方法ニヨリ正犯、教唆犯、從犯ノ三種アリ。正犯トハ二人以上共同シテ犯罪ヲ實行シタルモノヲ云フ。正犯ハ各自ニ其ノ刑ノ全部ヲ科ス。教唆犯トハ人ヲ教唆シテ犯罪ヲ實行セシメタル者ヲ云フ。新刑法ニ於テハ準正犯ト名ヅケ其ノ刑正犯ニ同ジ。從犯トハ正犯ヲ封助シタル者ヲ云フ。從犯ノ刑ハ正犯ニ比シ減刑スルモノトス。

第三節 刑罰 (Punishment)

一、刑罰ノ意義

刑罰トハ國家ガ犯罪ニ對スル制裁トシテ私人ノ利益ヲ剝奪スル手段ヲ云フ。

新刑法ニ於テハ刑罰ヲ單ニ刑ト稱ス。左ニ此ノ意義ヲ説明スベシ。

第一、刑法上ノ刑罰ハ國家ト私人トノ關係ナラザルベカラズ。

國家ト國家若クハ一私人ト一私人トノ間ニハ刑罰關係ヲ有セズ。例ヘバ戰爭ノ結果トシテ領土若クハ償金ヲ受領スルガ如キ、又ハ私人相互間ノ違約金若クハ親子間ノ懲戒ノ如キハ刑罰ニアラザルナリ。

第二、利益剝奪ハ犯罪ノ制裁タルヲ要ス。

利益トハ法律上保護セラレタル利益(法益)ヲ云フ。國家ガ私人ノ利益ヲ剝奪スルコトハ軍用徵發、租稅等種々ノ場合アレドモ、犯罪ノ制裁トナシタルトキニ非ザレバ刑罰ニアラズ。

第三、私人ノ利益ニ關スル種類

私人ノ利益ニハ生命、身體、自由、名譽、財產等ノ區別アルガ故ニ、此ノ利益ヲ剝

利益剝奪

犯罪ノ制裁

國家ト私人

奪スル刑罰ニモ、亦生命刑身體刑自由刑名譽刑財產刑等ノ區別アリ。但シ身體刑(肉體ヲ毀損シ又ハ之レヲ鞭撻スル刑)及ビ名譽刑(特ニ恥辱ヲ與フル刑)ハ野蠻ノ刑罰ナルヲ以テ、今日文明國ノ刑法ニハ全ク其ノ跡ヲ斷チタリ。

二、刑罰ノ種類及執行

刑罰ヲ大別シテ二種トス。主刑及ビ附加刑コレナリ。主刑トハ獨立シテ科セラルベキ刑罰ニシテ、死刑(生命刑)懲役(禁錮)拘留以上自由刑罰金(科料)以上(財產刑)ノ六種トス。附加刑トハ主刑ニ附隨シテ科セラルベキ刑罰ニシテ沒收(財產刑)是レナリ。刑ノ種類左表ノ如シ。

刑

主刑

- 死刑：監獄内ニ於テ絞首シテ之ヲ執行ス。(生命ヲ斷ツ)
- 懲役
 - 無期：終身 (懲役ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服ス)
 - 有期：一月以上十五年以下 (加重二十年迄、減輕一月以下降ス)
- 禁錮
 - 無期：終身 (禁錮ハ監獄ニ拘留シ定役ニ服セズ)
 - 有期：一月以上十五年以下 (加重二十年迄、減輕一月以下降ス)
- 拘留：一日以上三十日未滿 (拘留場ニ拘留ス)
- 罰金：二十圓以上 (減輕二十圓以下ニ降ス)

科料：十錢以上二十圓未滿

附加刑：沒收：犯罪ニ關係アル物ヲ剝奪ス (犯人以外ノ者ニ屬セザル物)

◎罰金科料ヲ完納スルコト能ハザル者ハ一定期間勞役場ニ留置ス。

第一、主刑ノ輕重順序

異種ノ刑ナル場合ニハ死刑ヲ最モ重シトシ、無期懲役無期禁錮有期懲役有期禁錮罰金拘留科料ノ順序ニ依ル。但シ有期禁錮ノ長期ガ有期懲役ノ長期ノ二倍ヲ超ユルトキハ禁錮ヲ以テ重シトス。同種ノ刑ニアリテハ長期ノ長キモノ又ハ多額ノ多キモノヲ重シトシ、長期又ハ多額ノ同ジキモノハ其ノ短期ノ長キモノ又ハ寡額ノ多キモノヲ重シトス。附加刑ハ輕重關係ナシ。

第二、死刑存廢論

(一) 死刑廢止論

近時死刑廢止論唱導セラル、ニ至リ、伊太利和蘭諾威葡萄牙ルーマニア、佛蘭西ニ於テハ法律上死刑ヲ廢止セリ。我ガ新刑法制定ノ當時ニモ廢止論アリタレドモ、立法者ハ之レヲ存置セリ。廢止ノ理由左ノ如シ。

- (1) 死刑ハ自由ニ輕重ヲ斟酌スルコトヲ得ザル故ニ刑罰權衡ヲ失ス

死刑存置論

- (1) 死刑ハ酷惡犯人ヲ嚴格ニ制裁スルヲ表示シ威嚇スルモノナリ
 - (2) 死刑ハ殘忍犇惡遷善改化ノ途ナキモノヲ社會全部ノ爲ニ殄滅セシム
 - (3) 死刑者ヲ獄内ニ幽閉スルモ監守者ヲ害シ又逃走ノ危險アリ
 - (4) 死刑ハ犯人ノ最モ恐ル、所ナリ故ニ犯罪豫防ノ効果最モ大ナリ
 - (5) 死刑執行ハ獄吏並ニ公衆ヲシテ殘忍ナラシメ人命神聖ノ念ヲ打破ス
- (二) 死刑存置論

無期刑ニ對シテモ廢止論アリ。曰ク終身刑ニシテ慘酷ナルコト死刑ニ優ル。曰ク犯人ノ壽命ノ長短ニヨリ執行期間ヲ異ニスル故不公平ナリ。曰ク終身其ノ自由ヲ拘束スル故改心セズ自暴自棄ニ陥ル虞アリト。然レドモ現刑ノ廢止ヲ唱導スルハ可ナリト雖モ之レヲ以テ現實ニ施行スベシト云フガ如キハ實狀ニ適セザルモノナリト謂フベシ。

今刑法ハ假出獄トシテ刑ノ執行中犯人ニ自由ヲ回復セシムルノ制アルヲ以テ此ノ議論ハ根據ヲ失ヘリ。要スルニ大惡者ニ死刑ヲ科スル必要アルガ如ク中惡者ニ對シ之レヲ抑壓スル方法トシテ無期刑ヲ存置スルヲ適當トス。

三、刑罰ノ執行猶豫

第一、刑ノ執行猶豫ノ意義

刑ノ執行猶豫トハ初犯ノ罪人が短期ノ刑ニ處セラレタル場合ニ再ビ罪ヲ犯ス危險ナキ者ト認メタル者ニ對シテハ一定ノ期間刑ノ執行ヲ猶豫シ其ノ期間ニ於テ悔悛ノ實ヲ示シ再ビ罪ヲ犯サルトキハ全然刑ノ執行ヲ免除ス。若シ之レニ反シテ其ノ猶豫期間内ニ再ビ罪ヲ犯シタルトキハ初犯ノ刑ト再犯ノ刑トヲ併セテ執行スルノ制度ナリ。

第二、刑ノ執行猶豫趣旨

刑罰ハ犯罪ヲ防遏スルヲ以テ目的トスト雖モ能ク其ノ情狀ヲ悉シテ之レヲ科スルニ非ザレバ却テ其ノ目的ヲ達セザルコトアリ。蓋シ多數ノ犯人中ニハ或ハ一時ノ感情若クハ境遇ニ制セラレテ罪辟ニ陥ル者少シトセズ。既ニ生來ノ惡人ニ非ズ心緒靜平ニ復スルヤ良心ノ苛責スル所トナリテ追悔戚

執行猶豫ノ意義

猶豫ノ趣旨

々遺ル能ハザルヲ常トス。且夫レ刑辟ニ觸ル、ハ人生至大ノ汚辱ニシテ、人心ノ苦痛之レヨリ大ナルハナシ。然ルニ唯罪辟必罰ヲ旨トシ、之レニ刑罰ヲ科センカ、漸ク改過遷善ニ向ヒツ、アル犯人ヲシテ、自暴自棄遂ニ其ノ非ヲ遂グシムルニ至ルハ、舉世殆ンド皆ナ然カリ。況ンヤ犯人ヲ牢獄ニ投ジテ假借スル所ナクンバ、却テ獄中ノ兇徒ノ風習ニ感染シテ、固有ノ良心ヲ喪失シ、遂ニ治スベカラザルノ惡人ト爲ルニ至ル。コレ實ニ短期自由刑ノ通弊ナリ。刑ノ執行猶豫ハ此ノ通弊ヲ救フタメノ制ニシテ刑ノ執行ヲ猶豫シ犯人ヲシテ過ヲ悔ヒ、再ビ以前ノ良心ニ立チ歸ラシムルモノナリ。此ノ制ハ一八七〇年北米合衆國マツサチエツ州ニ於テ始メテ之レヲ實施シ、後英國、白耳義佛蘭西、獨逸等ニ採用セラレタルモノニシテ、我が國ニ於テモ三十八年三月法律第七十號單行法ヲ以テ之レヲ實施シ、好成績ヲ得タルニヨリ、更ニ幾分ノ修正ヲ加ヘテ刑法中ニ其ノ規定ヲ設クルニ至レリ。

第三、執行猶豫ノ條件及取消

左ニ記載シタル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ言渡ヲ受ケタルトキハ、情狀ニヨリ裁判確定ノ日ヨリ一年以上五年以下ノ期間内、其ノ執行ヲ猶豫スルコ

猶豫ノ條件及取消

トヲ得。

- (一) 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
 - (二) 前ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトアルモ其執行ヲ終リ又ハ其執行ノ免除ヲ得タル日ヨリ七年以内ニ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコトナキ者
- 若シ猶豫期間内左ノ情形アルトキハ、猶豫ノ言渡ハ之レヲ取消シ直ニ刑ヲ執行セザルベカラズ。

- (一) 更ニ罪ヲ犯シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- (二) 猶豫ノ言渡前ニ犯シタル他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ
- (三) 猶豫ノ言渡前他ノ罪ニ付キ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルコト發覺シタルトキ

此ニ反シテ試驗期內刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ取消サル、コトナキトキハ、刑ノ言渡ハ其效力ヲ失フ。コレ何等ノ犯罪ヲ犯シタルコトナキ者ト同一ナルベキコトヲ明定セルナリ。刑ノ執行猶豫ハ二年以下ノ短期自由刑ニ止マリ、罰金拘留科料ニ及バズ。蓋シ此等ノ刑ハ性質輕小ニシテ、犯人ノ名譽心ヲ損スルコト著シカラザレバナリ。

適用主義

四、刑罰ノ適用

第一、刑罰ノ適用ニ關スル主義

刑罰ノ適用トハ特定ノ犯罪ニ對シテ、法令ノ規定又ハ裁判ノ宣告ヲ以テ、相當ノ刑罰ヲ定ムルヲ云フ。刑罰ノ輕重ガ罪狀ト相比例スベキコトハ刑罰適用上ノ要件ナリ。古來之レニ關スル主義三種アリ。

- (一) 專斷主義：裁判官ヲシテ任意刑ノ取捨伸縮ヲナサシムルモノナリ。
 - (二) 法定主義：法律ヲ以テ各罪ノ刑ヲ嚴定シ裁判官ニ裁量ノ餘地ヲ與ヘズ。
 - (三) 折衷主義：法定ノ範圍内ニ於テ裁判官ニ裁量ノ餘地ヲ與フルヲ云フ。
- 近來各國及我ガ國皆折衷主義ヲ採用ス。新刑法ハ裁判官裁量ノ餘地ヲ擴張セリ。

第二、刑ノ加重及減輕

刑ノ加重ハ法律ノ規定ニヨルモノニシテ裁判上ニ無シ。故ニ累犯併合罪ノ如ク刑法ノ規定ニヨリ加重スルコトアルモ、裁判官ハ規定刑ノ最高限度ヲ超エテ刑ヲ科スルコトヲ得ズ。

刑ノ減輕ハ法律上ノモノト裁判上ノモノトアリ。即チ法律上ニ於テハ正

刑ノ加重及減輕

刑ノ免除

當防衛緊急行爲・心神耗弱者自首未遂罪等ナリ。裁判上ニ於テハ犯罪ノ情狀憫諒スベキ者ニ對スル酌量減輕コレナリ。

刑ノ加減ニ關シ新刑法ハ加減例ナル章ヲ設ケ、減輕ノ分量及ビ加減ノ順序ニ關スル規定ヲ設ケタリ。

第三、刑ノ免除

刑ノ免除ハ專ラ法律ノ定ムル所ニヨル。例ヘバ正當防衛緊急行爲中止犯・直系血族配偶者間ノ竊盜罪ノ如キモノニ關シテ定メラル、モノナリ。

五、刑罰ノ消滅

刑罰ノ消滅トハ刑罰執行權ノ消滅スル謂ナリ。其ノ消滅原因左ノ如シ。

- 第一、執行ノ終了：刑罰執行ノ終了ニヨリ消滅ス。
- 第二、犯人ノ死亡：犯罪主體消滅スレバ刑罰ヲ適用スルニ由ナシ。
- 第三、非常上訴ノ成立：刑ノ言渡確定後之レヲ破毀シ前刑ヲ消滅セシム。
- 第四、恩赦：大赦特赦減刑復權ヲ命ズル大權行爲ニヨリ刑罰消滅ス。
- 第五、時効：時ノ經過ニヨリ刑ノ執行ヲ免除ス。

刑ノ言渡確定シタル後法定期間内其ノ執行ヲ受ケザルニ因リテ時効完

成ス。時效期間ハ死刑三十年無期懲役禁錮二十年有期懲役禁錮十年以上ハ十五年三年以上ハ十年三年未滿ハ五年罰金三年拘留科料及沒收一年トス。

第四節 刑法各論

一、各論ノ領域

刑法各論ハ刑法ニ於ケル各種ノ犯罪及ビ刑罰ヲ研究スルヲ以テ目的トス。即チ刑法各論ノ本領ハ、刑法各條ニ於ケル犯罪ノ特別構成要素及ビ其ノ犯罪ニ付テ科定セラレタル刑罰ヲ研究スルニアリ。犯罪ノ一般構成要素ハ刑法總論ノ研究範圍ニ屬スルモノナリ。左ノ如シ。

犯罪構成要素

- 一、犯罪主體客體
- 二、刑罰法令存在
- 一般構成要素 (刑法總論)
- 三、行爲ノ有責
- 四、不法行爲ナルコト
- 特別構成要素 (刑法各論)
- 一、各種罪特有要素
- 二、一般要素外ニ存在ス
- 三、一般成立要素ニ制限ヲ加ヘタルモノ

二、罪

刑法第二編ニ罪ト題スルハ各種ノ罪、及ビ之ニ對スル刑罰ヲ規定セルモノナリ。而シテ一種ノ犯罪ヲ一章ニ配シ、分則四十章ヲ設ク。罪名左ノ如シ。

- 一、皇室ニ對スル罪：皇室ニ對スル危害罪及不敬罪
- 二、内亂ニ關スル罪：國土ノ橫領又ハ憲法ノ變更ヲ目的トスル暴動
- 三、外患ニ關スル罪：外國ヲ助ケテ日本帝國ノ獨立ニ危害ヲ與フル罪
- 四、國交ニ關スル罪：國際間ノ親交ヲ害スル行爲(外國君主使節ニ暴行脅迫ス)
- 五、公務執行妨害罪：公務員(官公吏議員等)ノ職務執行ヲ妨害ス
- 六、逃走ノ罪：囚人又ハ被拘禁者ノ逃走ト逃走セメタル罪
- 七、犯人藏匿及證憑煙滅ノ罪：藏匿トハ犯罪人逃走者ノ發見又識別ヲ妨害ス
- 八、騷擾罪：多衆聚合シテ暴行脅迫ヲ爲スモノ所謂兇徒聚衆罪
- 九、放火及失火ノ罪：放火ハ故意ニ火災ヲ起ス、失火ハ過失ニヨリ火災ヲ起ス
- 一〇、溢水及水利ノ罪：溢水即故意過失ニヨル水害惹起及水利ヲ害スル行爲
- 一一、往來妨害ノ罪：水路陸路橋梁汽車電車等ノ交通ヲ妨害スル罪
- 一二、住居ヲ侵ス罪：不法ニ皇居神宮禁苑及ビ人ノ住居邸宅艦船ニ侵入ス
- 一三、秘密ヲ侵ス罪：信書開披ノ罪及醫師辯護士等業務上ノ秘密漏泄

- 一四、阿片煙ノ罪：阿片煙ノ吸食及ビ輸入製造等ニ關スル罪
- 一五、飲料水ノ罪：衆人ノ用ニ供スベキ飲料水ヲ汚穢腐敗有毒ナラシムル罪
- 一六、通貨偽造ノ罪：通貨ヲ偽造模造品創作(變造)真物ノ増減變換スルノ罪
- 一七、文書偽造ノ罪：證書手扣日記信書等ノ證據用文書ノ偽造及變造ノ罪
- 一八、有價證券偽造ノ罪：公債證書株券等ノ偽造變造及ビ知情行使ノ罪
- 一九、印章偽造ノ罪：印章ハ證據用ニ供スル同一文字紋章ヲ云フ
- 二〇、偽證ノ罪：宣誓セル證人・通事等ガ不實ノ陳述ヲナスノ罪
- 二一、誣告ノ罪：犯罪ノ事實ニ關シ犯罪搜查權アル者ニ不實ノ申告ヲナス罪
- 二二、猥褻姦淫重婚ノ罪：猥褻色情挑發又満足姦淫(男女交媾)重婚(二重婚姻)
- 二三、賭博及富籤ノ罪：賭博(偶然輸贏)博戲及賭事(富籤)多籤發賣當籤者財與
- 二四、禮拜所及墳墓ノ罪：神祠佛堂墓所ノ不敬行爲及墳墓發掘等ノ罪
- 二五、瀆職ノ罪：公務員ノ職權濫用及收賄罪贈賄罪ノ規定
- 二六、殺人ノ罪：一般ノ殺人罪及直系尊屬ノ殺人罪ノ二種規定
- 二七、傷害ノ罪：單純傷害及傷害致死罪並ニ附屬ノ規定
- 二八、過失傷害罪：過失傷害罪ハ親告罪トス。職務上ノ過失傷害罪ヲ加フ

- 二九、墮胎ノ罪：自然ノ分娩期ニ先チ人工早産セシムルノ罪
 - 三〇、遺棄ノ罪：老者幼者不具者病者ヲ扶助保護スベキ者不法ニ遺棄スル罪
 - 三一、逮捕及監禁ノ罪：一私人ガ不法ニ人ヲ逮捕又ハ監禁スルノ罪
 - 三二、脅迫ノ罪：他ノ生命・身體・自由・名譽・財產ニ加害スベキ旨ヲ知得セシム
 - 三三、略取及誘拐ノ罪：未成年者ヲ略取(暴行脅迫)誘拐(偽計)甘言スル罪
 - 三四、名譽ニ對スル罪：尊敬ヲ受クベキ利益タル名譽ノ毀損及公然侮辱ノ罪
 - 三五、信用及業務ノ罪：虛偽又偽計ニヨリ信用ヲ毀損シ業務ヲ妨害スル罪
 - 三六、竊盜及強盜ノ罪：他人ノ財ヲ竊盜又ハ強盜(暴行脅迫)スル罪
 - 三七、詐欺及恐喝ノ罪：人ヲ欺罔シ財物ヲ騙取シ及恐喝シテ財ヲ交付セシム
 - 三八、橫領ノ罪：他人ノ爲ニ占有スル物ヲ不法ニ自己ノ所有ニ移スノ罪
 - 三九、贓物ニ關スル罪：犯罪ニヨリ收得セル物ヲ收受・寄藏・故買・運搬等ヲナス
 - 四〇、毀棄及隱匿ノ罪：文書・建物・艦船等ノ損害行爲及他人ノ信書隱匿ノ罪
- (以上新刑法及ビ刑法施行法參照)

第八章 訴訟法 (Law of Procedure)

第一節 總論

一、訴訟法ノ意義

訴訟法トハ國家ノ司法機關タル裁判所ト、訴訟當事者トノ關係ヲ定メタルモノナリ。即チ一箇人ガ訴訟ヲ提起シ若クハ他ヨリ訴訟ヲ提起セラル、ニ當リ、其ノ順序方法等スベテ手續ヲ定メタル法ヲ云フ。故ニ訴訟法ハ助法ニシテ手續法ナリ。此ノ訴訟法ニ二種アリ。刑事訴訟法及ビ民事訴訟法コレナリ。而シテ刑事訴訟法ハ刑事々件ノ手續法ニシテ、民事訴訟法ハ民事商事ニ關スル手續法ナリ。

二、訴訟法ノ大原則

左ニ民事訴訟刑事訴訟ヲ通ジタル訴訟法上ノ五大原則ヲ述ブベシ。

第一、審理公開主義

裁判ノ公開ハ憲法ノ明定セル所ナリ。故ニ安寧秩序ヲ妨ゲ又ハ風俗ヲ害スルノ虞アル場合ノ外、一般原則トシテ其ノ對審及ビ判決ヲ公開ニ付ス。公開トハ訴訟ニ關係ナキ一般人民ノ傍聽ヲ許スヲ云フモノニシテ、裁判ノ公明

審理公開

口頭審理

正大ヲ表明スル以所ナリ。之レニ反シ密行主義ハ私曲ヲ行フノ機會ヲ與ヘ又少クトモ私曲アルノ疑ヲ生ゼシムルノ弊アリ。

第二、口頭審理主義

訴訟上ノ審理ニハ口頭辯論主義ト書面審理主義トノ二種アリ。而シテ古代ニ於テハ或ハ後者ニヨリシ者ナキニアラズト雖モ、現今文明國ハ一般ニ前者ヲ採用セリ。蓋シ訴訟ハ公平ヲ期スルモノナルガ故ニ、双方ヲシテ裁判所ニ出頭セシメ、兩者ノ陳述ヲ聞キテ其ノ事情ノ委曲ヲ盡シ、而シテ後判決スレバ、最モ事實ニ近キ決定ヲ見ルコトヲ得ベケレバナリ。

第三、自由心證主義

自由心證主義トハ訴訟上判定ヲナスニツキ、其ノ證據ノ取捨及ビ判斷ヲ裁判官ノ自由ニ一任スルヲ云フ。事物ノ真相實跡ヲ識ルヲ旨トスルトキハ、勞ヒ此ノ主義ニ依ラザルベカラザルヤ明カナリ。現今ハ此ノ主義ヲ採ルヲ以テ、昔時ノ如ク被告人ノ自白ヲ、有罪判決ノ必要條件ト爲サズ。從テ夫ノ拷問ノ如キハ、全ク無意味ノモノトナルナリ。故ニ被告人ノ自白シタルトキト雖モ、他ノ證據ニヨリ無罪ノ宣告ヲ爲スコトヲ得。

自由心證

直接審理

第四、直接審理主義

直接審理トハ裁判官ガ斷案上必要ナル人及ビ物ヲ、自身直接ニ調査實驗スルヲ云フナリ。他人ノ口頭又ハ書面ニ依ル報告ヲ基礎トスル間接審理ニ比シ、正確ナル心證ヲ得ルコト大ナリ。

原被告對等

第五、原被告對等主義

訴訟法上原被告兩告ヲ對等ニ取扱ヒ、攻撃防禦其ノ他一般ノ主張ニ關シ双方ニ同等ノ便利ヲ與フルヲ云フ。(原告及被告ヲ民事上ニハ原被告兩造ト云)

三、訴訟

訴訟ノ意義

第一、訴訟ノ意義

訴訟トハ特定ノ人ガ特定ノ人ニ對シ、法規實行又ハ權利保護ノ目的ノ爲メニ、其ノ判斷ヲ特定ノ裁判所ニ請求スルヲ云フ。其ノ訴訟ヲ提起スルモノヲ原告ト云ヒ、其ノ訴訟ヲ提起セラル、者ヲ被告ト云フ。故ニ訴訟ニハ必ラズ利害相反スル當事者双方存セザルベカラズ。若シ一人ガ單ニ身體上及ビ財產上ノ保護ヲ請求スルガ如キハ之レヲ訴訟ト云フコトヲ得ズ。訴訟ノ目的ハ刑事訴訟ノ如ク法規ノ實行ヲ求ムルモノト、民事訴訟ノ如ク權利ノ保護ヲ

訴訟當事者

第二、訴訟當事者

求ムルモノトアリ。
訴訟當事者トハ訴訟事件ニ關シ、反對ノ主義ヲ爲ス相手方ニシテ原告及ビ被告コレナリ。凡ソ人ハ自然人タルト法人タルトヲ問ハズ、皆訴訟當事者タルコトヲ得。之レヲ訴訟能力ト云ヒ、其ノ法律ニ依リ原告トシテ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ルノ力ハ之レヲ訴權ト云フ。

原告ハ刑事訴訟ニ於テハ常ニ國家ニシテ、其ノ機關タル檢事之レヲ行ヒ、民事訴訟ニ於テハ常ニ一人ナリ。國家ガ民事訴訟ノ原告タルハ、私人ト對等ノ關係ニ於テスル特定ノ行政官應ナリ。被告ハ刑事民事兩訴訟トモ常ニ私人ナリ。國家其ノ他公私ノ法人ハ私人ト同ジク民事訴訟ノ被害ト爲ルモ、刑事訴訟ノ被告トナルコトナシ。何トナレバ無形ノ法人ハ其ノ性質上、犯罪人タルコトヲ得ザレバナリ。但シ罰金ハ法人ニモ科スルコトヲ得ルモノトス。

訴訟ノ發生及消滅

第三、訴訟ノ發生及消滅

(一) 訴訟ノ發生

刑事訴訟ハ犯罪ノ發生ト共ニ發生シ、刑罰ノ消滅ト共ニ消滅ス。民事訴訟

訟モ亦訴訟ノ原因ト共ニ消滅スレドモ刑事上ノ訴權トハ必ラズシモ拒作
ハズ。即チ犯罪ヲ構成セザル時ニ於テモ民事訴訟ハ尙行ハル、コトアリ。
(二) 訴訟ノ消滅

公訴ノ消滅原因ニ六アリ。(一)被告人死亡 (二)告訴ノ拋棄(被害者告訴ニ
ヨリ受理スル事件) (三)確定裁判 (四)刑罰ノ廢止 (五)大赦 (六)時効 是ナ
リ。

私訴ノ消滅原因ニ三アリ。(一)被害者ノ拋棄又ハ和解 (二)確定裁判 (三)
時効 是ナリ。

四、上訴及三審制

上訴トハ未ダ確定セザル裁判ニ對シテ上級裁判所ニ不服ヲ訴フルヲ云フ。即
チ上級裁判所ニ對シテ下級裁判所ノ爲シタル裁判(判決・決定・命令ノ三種)ノ取消及
ビ變更ヲ求ムルノ訴ヲ云フ。此ノ上訴ハ刑事民事ノ兩訴訟共ニ爲スコトヲ得ル
モノニシテ三種ニ分ツ。控訴・上告・抗告是レナリ。

第一、控訴

控訴トハ第一審ノ判決ニ對シテ不服ナル者ガ其ノ事實ノ認定及ビ法律ノ

控訴

適用ニツキ、上級裁判所ニ向ヒテ上訴スルヲ云フ。而シテ其ノ第一審ノ判決
ハ終局判決又ハ上訴ニ付キテ終局判決ト看做スベキ判決(例ヘバ管轄違言渡
公訴不受理ノ申立却下・防訴ノ抗辯棄却判決等)ナラザルベカラズ。控訴裁判
所ハ第一審ノ事實認定ニ羈束セラル、コトナク、獨立シテ事實ノ判斷ヲナシ、
新ニ審理スベキモノトス。控訴ヲ理由ナシトスレバ之レヲ拋棄ス。

第二、上告

上告トハ第二審ノ判決ニ對シテ法律ノ適用ニツキテノミ、上級裁判所ニ向ヒ
テ上訴スルヲ云フ。故ニ上告裁判所ハ法ノ適用ノミノ調査ヲナシ、其ノ事實
ノ調査ヲナササルナリ。而シテ第二審ノ判決ガ終局判決又ハ終局判決ト看
做スベキ判決タルコトヲ要スルハ控訴ニ同ジ。

第三、抗告

抗告トハ終局判決ニ非ザル裁判ニ對スル不服ノ訴ナリ。即チ抗告ハ刑事
ニ於テハ公判ヲ經ズ(例ヘバ豫審終結決定ニ對ス)民事ニ於テハ口頭辯論ヲ經
ザル決定ニ對シテ爲ス上訴ニシテ、法律ノ明文ニ依リテ特ニ之レヲ許シタル
場合ニ限ル。例ヘバ判事忌避ノ申請ヲ却下シタル決定ニ對スル抗告ノ如キ

上告

抗告

ハ、刑事民事ノ訴訟共ニ認ムル所ナリ。抗告裁判所ハ單ニ書面ニツキテ裁判スルヲ原則トス。是レ其ノ裁所ハ所謂決定ナルモノニシテ、判決ノ性質ヲ有セザレバナリ。

第四、三審制

上訴ハ皆直近上級裁判所之レヲ管轄ス。故ニ控訴ヲ經ズシテ上告ヲ爲スコトハ之レヲ許サザルナリ。第一審判決ニ對シテ控訴ヲ爲スコトヲ許シ、控訴判決ニ對シテ上告ヲ爲スコトヲ許スノ制度ヲ三審制ト云フ。裁判所ノ構成權限等ニ關シテハ第四章第五節裁判所ノ條ヲ見ルベシ。

第二節 刑事訴訟法 (Code of Criminal Procedure)

一、刑事訴訟法ノ意義

刑事訴訟法トハ犯罪ヲナシタル者ニツキ、之レニ對スル刑罰ヲ確定シ執行スルニ當リテ、其ノ進行ノ手續キヲ規定セルモノヲ云フ。刑事訴訟ニ於テ原告ノ地位ニ當ル者ハ、常ニ國家ニシテ檢事之レヲ代表シテ、被告タル犯罪人ニ對スルナリ。

二、刑事訴訟法ノ原則

第一節第二項ニ述ベタル訴訟法五大原則ノ外、尙ホ刑事訴訟法ノ採ルベキ原則左ノ如シ。

第一、干涉主義

刑事訴訟ハ當事者ニ其ノ處分權ナシ。故ニ裁判官ハ被告ノ有罪無罪ヲ定ムルニ必要ナル一切ノ事項ニ干涉シ之レヲ審理スルノ職權アリ、敢テ當事者ノ主張シ辯論スル所ニ拘束セラル、コトナシ。之レヲ干涉主義又ハ職權主義ト云フ。

第二、勵行主義

刑事訴訟提起ノ職務アル檢事ハ、犯罪アレバ必ラズ之レヲ訴フルノ義務アル者ニテ、自己ノ意思ニヨリ妄リニ起訴ト不起訴トヲ決スルコト能ハザルナリ。又訴訟半途ニシテ公訴ヲ撤回スルガ如キハ之レヲ許サザルヲ原則トス。之レヲ勵行主義ト云フ。

第三、實體的眞實主義

裁判所ハ實際生ジタル犯罪事實ニ符合スル認識ヲナシ、此ノ認識ニヨリテ判決ヲ下スモノヲ云フ。故ニ單ニ犯罪者ノ自白ノミニヨラザルモノトス。

干涉主義

勵行主義

實體的眞實主義

犯罪ノ捜査

三、刑事訴訟手續

第一、犯罪ノ捜査

刑事訴訟ハ事公益ニ關スルヲ以テ公訴ト云フ。公訴ニ附帶シテ一個人關係ニ止マル民事問題ヲ惹起スコトアリ。之レヲ公訴ニ對シ私訴ト云フ。

公訴ハ犯罪ノ捜査ニ始マル。捜査ハ檢事ガ公訴ヲ起スニ必要ナル證據ヲ蒐集スル準備行爲ナリ。檢事ハ告訴告發現行犯自首其ノ他ノ理由ニヨリ、犯罪アルコトヲ認知シタルトキハ、其ノ證據及ビ犯人ヲ捜査スルモノトス。告訴トハ被害者ガ犯罪事實ヲ檢事又ハ司法警察官ニ報告スルヲ云ヒ、告發トハ第三者即チ被害者及ビ犯人以外ノ者ノ爲ス報告ヲ云フナリ。現行犯ハ現ニ行ヒタル際ニ發覺シタル犯罪ニシテ、何人ト雖モ令狀ナクシテ之レヲ逮捕スルコトヲ得。自首トハ犯人自ラ爲ス所ノ犯罪ノ通知ナリ。

捜査ヲナスハ檢事ノ職務トスル所ニシテ、裁判官ハ此ノ手續ニ關與セズ。而シテ警察官憲兵將校郡長林務官市町村長ハ、其ノ補佐トシテ指揮ヲ受ケザルベカラズ。

第二、起訴

起訴トハ檢事ガ犯罪ノ捜査ヲ終リテ犯罪アリト認メタルトキニ公訴ヲ提起スルヲ云フ。起訴ノ方法ニ二種アリ。左ノ如シ。

(一) 重罪ト思料シタル事件、又ハ輕罪ト思料スルモ、罪質重大訴訟繁雜ナル事件ニ付キテハ、豫審判事ニ豫審ヲ求ムルモノトス。(刑法ハ重罪輕罪ノ區別ヲ廢セリ故ニ早晚此ノ點改正アルベシ)

(二) 其ノ他ノ場合ニアリテハ、直ニ裁判所ニ起訴スベキモノトス。檢事豫審ヲ求ムルトキハ、證據及ビ事實參考トナルベキ事物ヲ送附シ、且臨檢スベキ場所逮捕スベキ人名及ビ證人トナルベキ者ヲ指示スルモノトス。

第三、豫審

豫審トハ犯罪ノ存在ヲ顯明シ罪迹ヲ發覺スベキ、一切ノ事實ヲ審理スル行爲ニシテ、檢事ノ請求ヲ待チテ豫審判事之レヲ行フ。其ノ手續左ノ如シ。

(一) 令狀ノ送達
令狀ハ犯人ノ訊問ヲ爲シ又ハ其ノ逃亡ヲ防グ爲メニ、犯人ニ對シテ豫審判事又ハ受託判事ノ發スル出廷又ハ拘束ノ命令ニシテ、召喚狀拘引狀拘留狀ノ三種アリ。召喚狀ハ被告人ヲ裁判所ニ出頭セシムルガ爲メニ發ス。

豫審

令狀ノ送達

故ニ之レニ應ズルト否トハ被告人ノ任意ニ係ル。又之レヲ呼出狀トモ云フ。拘引狀ハ被告人ガ召喚狀ヲ受ケテ出頭セズ、又ハ其ノ他法律ニ定メタル場合ニ、被告人ヲ引致スル爲ニ發スル強制命令ナリ。拘留狀ハ被告人訊問ノ結果、禁錮以上ノ刑ニ該ルベキモノト思料シタルトキニ、之レヲ留置スルガ爲メニ發スル強制命令ナリ。拘留狀ヲ發スルハ通常罪證ヲ煙滅シ若クハ逃亡ノ恐レアル場合トス。

證據ノ蒐集

(二) 證據ノ蒐集

證據ハ裁判官ガ事實ヲ認定スルノ材料ナリ。之レヲ蒐集スル方法左ノ如シ。

(1) 被告人及證人訊問

豫審判事ハ被告人ヲ訊問ス。其ノ訊問ニ對スル被告人ノ陳述ヲ供述ト云フ。又證人ヲ訊問ス。證人ノ陳述ハ證言トナルモノニシテ、虛偽ノ陳述ヲナシタルトキハ偽證罪ヲ犯ス。證人ノ一種ニシテ事實參考人ナル者アリ。事實參考人ノ陳述ハ證言トナラズ、從テ虛偽ノ陳述ヲナシタル場合ニモ、刑法上ノ犯人トナルコトナシ。

(2) 檢證・搜索及物件差押

檢證トハ豫審判事ガ犯罪ノ場所又ハ其ノ他ノ場所ニ臨ミ、犯罪事實ヲ正確ニスル方法ヲ云ヒ、搜索トハ被告人ノ住所又ハ證據物件ヲ藏匿スル疑アル者ノ住居、若クハ其ノ身體及ビ財産ニツキテ、證據物件ヲ探究スル方法ヲ云フ。而シテ臨檢搜索ノ上發見シタル物件ガ、其ノ事實ヲ證明スルニ足ルト思料シタルトキハ、豫審判事ハ之レヲ差押ヘテ封印ヲ爲シ、自錄ヲ作ラザルベカラズ。其ノ方法ヲ物件差押ト云フ。

(3) 鑑定

鑑定トハ學術技藝ニ熟練セル人ノ意見ヲ云フ。豫審判事ハ犯罪ノ性質方法及ビ結果ヲ分明ナラシムル爲メ、鑑定ノ必要アルトキハ鑑定人ノ鑑定ニ附セザルベカラズ。其ノ證人ノ證言ト異ルハ、證人ハ其ノ見聞セル過去ノ事實ヲ申述スルモノナレドモ、鑑定人ハ其ノ事實ヲ見聞セズ、唯自己ノ學術技藝ニヨリテ之レヲ證明スルニアリ。

(三) 保釋及責付

未決拘留ハ犯罪事實發見ノ爲メ、已ムコトヲ得ズシテ施ス強制方法ニシ

保釋及責付

豫審終結

(四) 豫審終結

テ犯人ノ自由ヲ妨グ家族ノ困難ヲ來スコトナキヲ保セズ。故ニ被告人逃走及ビ證據湮滅ノ虞ナキ場合ニ於テハ、未決拘留ヲ解放スルノ寬典アリ。其ノ方法ニアリ。保釋及ビ責付コレナリ。保釋トハ被告人ノ請求ニヨリ保證金ヲ納メシメテ、假ニ其ノ拘留ヲ釋ク方法ニシテ、責付トハ被告人ノ請求アルト否トヲ問ハズ、豫審判事ノ職權ニヨリ被告人ノ拘留ヲ釋キテ、其ノ親族又ハ故舊ニ付托スル方法ナリ。此ノ保釋及ビ責付ハ豫審中ノミナラズ、第一審公判中及ビ上訴中ヲ通ジテ生ズベキ訴訟行為ナリ。

豫審判事ハ證人被告人ノ自白、其ノ他證據物件ニヨリ其ノ犯罪ニツキ、一切ノ事實ヲ審理シ、其ノ訴訟記録ヲ檢事ニ送致シテ、其ノ意見ヲ求メタル後、豫審終結ノ決定ヲナシ、或ハ豫審免訴ノ決定ヲ與ヘ、或ハ管轄裁判所ノ公判ニ附スベキヤノ決定ヲ與フ。豫審ノ目的ハ全ク其ノ事件ヲ公判ニ附スベキヤ否ヤヲ定ムルニアリ。檢事及ビ被告人ハ法律ニ定メタル場合ニ於テ、其ノ豫審決定ニ對スル抗告ヲ爲スコトヲ得。

公判

第四、公判

刑事ノ裁判ハ之レヲ公判ト云フ。公判ハ豫審ヲ要スル事件ニ付テハ豫審ノ決定ニヨリ、豫審ヲ要セザル事件ニ付テハ訴訟ノ提起アルトキニ於テ、裁判所ガ事實ノ審判及ビ法律ノ適用ヲ爲スモノニシテ、其ノ手續ハ訊問・辯論・裁判言渡ノ三段ヨリ成リ之レヲ公開シテ行フヲ原則トス。

公判ノ規定

(一) 公判ニ關スル規定

- (1) 公判ハ判事・檢事・裁判所書記出廷シテ之レヲ爲スモノトス。
- (2) 定數ノ判事引續キ法廷ニ出席スルヲ要ス。
- (3) 被告人ヲ出廷セシメザルベカラズ。但シ法廷ニ於テハ其ノ身體ヲ拘束スルコトヲ許サズ。
- (4) 重大ナル事件ニハ必ラズ辯護人ヲ附スベシ。
- (5) 直接ニ調査シタル證據ニ非ザレバ、判決ノ用ニ供スルコトヲ得ズ。
- (6) 法廷ノ整理・訴訟ノ指揮・被告人及ビ證人ノ訊問・證據物ノ調査等ハ盡ク裁判長ノ職權ニ屬シ、陪席判事・檢事・辯護士等ハ裁判長ノ許可ヲ得ルニアラザレバ、直接ニ證人・被告人等ヲ訊問スルコトヲ得ズ。
- (7) 審判ノ手續順序左ノ如シ。

- (イ) 被告人ニ人違ナキヤ否ヤヲ質スタメ氏名年齢身分職業住所等ヲ問フ
- (ロ) 次ニ檢事ニ被告事件ノ論告ヲナサシメ次デ被告人ヲ訊問ス
- (ハ) 證據調ニ移リ一箇ノ證據ヲ調べ終リタル毎ニ被告人ノ意見ヲ問フ
- (ニ) 次ニ檢事其ノ事件ノ事實點及ビ法律點ニツキ自己ノ意見ヲ陳述ス
- (ホ) 被告人又ハ辯護人ハ其ノ辯駁ヲナス。口頭辯論ノ最終ニハ必ラズ被告人ヲシテ其ノ意見ヲ述ベシム

(8) 訴訟ノ經過ハ裁判所書記之レヲ記録ニ載ス。

(二) 判決

公判ニヨリ辯論ヲ經テ、裁判ノ言渡ヲナスヲ判決ト云フ。判決ハ即日又ハ最終ノ辯論ノ日ヨリ、七日以内ニ之レヲ言渡スコトヲ要ス。判決ニハ

- (一) 管轄違ノ判決
- (二) 公訴不受理ノ判決
- (三) 無罪ノ判決
- (四) 免訴ノ判決
- (五) 刑ノ言渡ヲナス判決アリ。

又判決ニハ對席判決ト闕席判決トアリ。對席判決トハ被告人ガ公判期日ニ出頭シタル場合ニ言渡ス判決ニシテ、闕席判決トハ被告人ガ公判期日ニ出頭セザル場合ニ言渡ス判決ナリ。闕席判決ニ對シテ被告人ハ、一定期間内ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得。若シ故障正

當ナレバ裁判所ハ、更ニ審理裁判ヲナササルベカラズ。若シ其ノ故障ガ不法ナレバ、之レヲ棄却スルモノトス。

判決ガ一定期間ヲ經過シ故障又ハ上訴スルコトヲ得ザルトキハ確定判決トナル。確定判決ハ之レヲ執行スルモノトス。刑ノ執行コレナリ。刑ノ執行ハ判決確定後ハ直ニ之レヲ爲スコトヲ得ベキモノナルモ、尙ホ其ノ執行ニ必要ナル條件ヲ盡サルベカラズ。例ヘバ死刑ノ執行ハ司法大臣ノ命令ヲ待ツコトヲ要シ、懷胎ノ婦女ニ對シテハ分娩後一定ノ猶豫期日ヲ與フルガ如シ。而シテ刑ノ執行ヲ指揮監督スルハ、專ラ檢事ノ職務ニ屬ス。

四、上訴及非常上訴

上訴トハ未確定ノ裁判ニ對シテ上級裁判所ニ不服ヲ訴フルノ方法ニシテ、控訴、上告抗告ノ三種アルコトハ、本章第一節總論第四項ニ説ケルガ如シ。コノ上訴ハ未確定ノ裁判ニ對シテ救済ヲ求ムルモノナルガ、判決ニシテ一旦確定セムカ、又動カスベカラズト雖モ、非常ノ場合ニハ非常ノ手段ナカルベカラズ。此ニ於テ法律ハ冤枉ヲ伸ブル非常手段トシテ、非常上訴ナルモノヲ認ム。非常上訴ニ二種アリ、非常上告及ビ再審コレナリ。

第一、非常上告

非常上告トハ法律ノ適用ヲ誤レル確定判決、破壊スル方法ナリ。即チ律ニ正條ナキ行爲ヲ誤ツテ罪トシ、又ハ相當ノ刑ヨリ重キ刑ヲ科シタルトキ、而モ期間内ニ上訴スル者ナクシテ、其ノ判決確定シタルトキハ、檢事ハ非常上告ヲ爲スコトヲ得ルモノトス。

第二、再審

再審トハ事實ノ誤認アリタル確定判決ヲ覆シ、新ナル審理裁判ヲ求ムル訴ニシテ、新事實又ハ新證據ノ發見セラレタル爲ニ、判決ノ基礎ニ變更ヲ來シタル場合ニノミ之レヲ認ム。而モ法律ハ其ノ之レヲ許スベキ場合ヲ限定セリ。例ヘバ殺人罪ニツキ刑ノ言渡シアリタルモ、其ノ殺サレタリト認メラレシ者犯罪後生存シ、又ハ犯罪前既ニ死去シタル確證アリシ時ノ如シ。

第三節 民事訴訟法 (Code of Civil Procedure)

一、民事訴訟法ノ意義

民事訴訟法トハ私權ヲ侵害スル者アルトキ、私人ガ國家ノ司法機關ニ向テ其ノ

實行ノ保護ヲ求ムル方法手續ヲ云フ。故ニ民事訴訟ニ在リテハ原被告兩造共ニ、私人ナルヲ以テ原則トス。若シ國家ノ機關タル官廳ガ當事者ナルトキハ、公法的ノ資格ヲ離レ私法的ノ資格ニ於テスルモノトス。

二、民事訴訟法ノ原則

第一節第二項ニ述ベタル訴訟法五大原則ノ外、尙ホ民事訴訟法ノ採ルベキ原則左ノ如シ。

不干涉主義

第一、不干涉主義

コレ刑事訴訟ト全ク反スル所ナリ。刑事訴訟法ニ於テハ公法ノ實行上、干涉主義ヲ採ルハ止ムヲ得ザルコトナリ。然ルニ民事訴訟ニ於テハ私人ノ私權ヲ目的トスルガ故ニ、強ヒテ私人ニ干涉スルノ必要ヲ見ズ。一ニ私人ガ裁判所ニ向ヒテ救済ヲ求ムル行爲ニ任ズルモノトス。從テ裁判官ハ當事者ガ辯論ニヨリ、主張スル所以外ニ干涉セザルモノトス。

第二、當事者處分主義

私權ハ原則トシテ吾人之レヲ自由ニ處分スルコトヲ得ルモノトス。故ニ訴訟法上亦其ノ處分ヲ許シ、當事者ハ訴訟中何時タリトモ、其ノ主張ノ全部又

當事者處分主義

ハ一部ヲ拋棄スルコトヲ得。刑事訴訟ハ之レニ反シ、刑法的請求權ニ因リ國家刑罰權ノ具體的適用ヲ求ムルヲ其ノ目的トスルガ故ニ、被告ハ言フヲ待タズ原告ト雖モ亦隨意ニ刑事訴訟ヲ處分(拋棄ノ意)スルコトヲ得ズ。

三、民事訴訟ノ手續

民事訴訟ノ手續ニハ通常手續ト特別手續トアリ。通常手續ハ民事訴訟ニシテ、確定判決ト執行力トヲ得ル目的ヲ以テスル場合ニ用キ、特別手續ハ公益上ノ必要又ハ簡易迅速ヲ要スルノ必要アリテ、通常手續ニ依ルコトヲ得ザル場合ニ用キルモノナリ。即チ區裁判所地方裁判所ノ訴訟手續ハ通常手續ニシテ、人事訴訟手續、破産手續等ハ特別手續ナリ。茲ニハ通常手續ヲ述ブ。

第一、起訴

原告ガ一定ノ方式ニ從ヒタル訴狀ヲ裁判所ニ差出スヲ起訴ト云フ。但シ區裁判所ニ於テハ簡易ヲ旨トシ、例外トシテ口頭ヲ以テナスコトヲ許シタリ。訴狀ガ有效ニ提出セラレタルトキハ、裁判所ハ口頭辯論ノ期日ヲ指定シ、執達吏或ハ郵便ニヨリテ之レヲ被告ニ送達ス。訴狀ノ送達アルトキハ權利拘束ノ關係ヲ生ズ。權利拘束ハ次ノ效力ヲ生ズ。即チ(一)原告ハ同一訴訟事物ニ

關シ他ノ裁判所ニ訴訟ヲ提起スルコトヲ得ザルト同時ニ、被告モ亦他ノ裁判所ニ反訴ヲ提起スルコトヲ得ズ。縱令之レガ提起アルモ答辯ノ義務ナシトノ抗辯(即チ防訴ノ抗辯)ヲ爲スコトヲ得ベシ。(二)當該事件ニ於ケル受訴裁判所ノ管轄ハ確定シテ動クコトナシ。(三)原告ハ被告ノ承諾ナクシテ、請求ノ原因ヲ變更スルコトヲ得ズ。

第二、答辯

被告ガ原告ノ請求ニ對スル諾否ヲ答辯トス。被告ハ訴狀ノ送達ヲ受ケテヨリ、一定期間内ニ答辯書ヲ差出スコトヲ要ス。當事者ノ訴狀及ビ答辯書ハ總稱シテ準備書面ト云フ。本訴辯論ノ階梯トナルモノナレバナリ。答辯ノ方法ニ二アリ。一ヲ防訴ノ抗辯トシ、一ヲ本案ノ答辯トス。防訴ノ抗辯トハ被告ガ本案ニ入りテ答辯スルヲ拒ム方法ヲ云フ。例ヘバ裁判管轄違ノ抗辯、訴訟能力又ハ法律上代理權欠缺ノ抗辯等ヲナスガ如キコレナリ。本案ノ答辯トハ被告ノ本案ニ對スル答辯ニシテ、原告ノ請求ヲ正當トシテ認諾シ、又ハ原告請求ノ全部又ハ一部ニ對シ、法律上又ハ事實上ヨリ之レヲ争フコトアルナリ。

第三、口頭辯論

口頭辯論ノ期日ニ於テ當事者又ハ其ノ辯護人出頭シテ裁判長辯論ヲ開始ス。即チ原告ハ訴狀ニ基ヅキ被告ハ答辯書ニ基ヅキテ一定ノ申立ヲ爲シ相手方ノ主張シタル事實ニ對シテ陳述ヲ爲ス。而シテ口頭辯論ハ必ズシモ其ノ準備書面ニ拘束セラレズシテ之レヲ爲スコトヲ得ルモノトス。又裁判官ハ其ノ疑ハシキ點ニツキテ質問シ事實ヲ明了ナラシムルモノトス。

第四、證據

裁判官ハ當事者ノ申立ニヨリ證據調ヲナシテ事實ノ真相ヲ探究セザルベカラズ。證據調ハ人證書證鑑定人檢證當事者訊問等ニヨリ裁判所ガ口頭審理主義ニ基ヅキテ其ノ手續ヲナスヲ通則トス。人證トハ人ノ證言ヲ以テ證明ノ用ニ供スル方法ヲ云ヒ書證トハ書類ヲ以テ證明ノ用ニ供スルヲ云ヒ鑑定人トハ特別ノ知識ヲ有スル者ノ意見ヲ徵スルヲ云フ。又檢證トハ物ノ實檢ヲ以テ證明ヲ助クル方法ヲ云フ。

第五、判決

判決ハ口頭辯論ヲ經タル後其ノ爭點事實ガ明了ナル時ニ於テ裁判所ガ當

事者ノ權利義務ヲ確定スルガ爲ニ行ス裁判所シテ之レヲ書面ニ記載スルヲ要ス。裁判所ガ原告ノ申立ヲ正當トスルトキハ被告ニ敗訴ヲ言渡ス判決ヲナシ原告ノ申立ヲ不當トスルトキハ其ノ訴ヲ却下ヲ言渡ス判決ヲ爲ス。判決ノ言渡ハ判決主文ノ朗讀ニヨリテ之レヲ爲ス。各當事者ハ判決書ノ送達ヲ申立ツルコトヲ得。原告若クハ被告口頭辯論ノ期日ニ出頭セザル場合ニ於テハ出頭シタル相手方ノ申立ニヨリ闕席判決ヲナス。當事者双方出席セザルトキハ休止ヲナス。闕席判決ヲ受ケタル者ハ一定ノ期間内ニ故障ヲ申立ツルコトヲ得。

判決ガ一定期間ヲ經過スルトキハ確定判決トナル。確定判決ハ公力ヲ以テ之レヲ執行スルモノトス。之レヲ強制執行ト云フ。強制執行ハ裁判所自ラ之レヲ行フコトアリ。或ハ執達吏ヲシテ之レヲ行ハシムルコトアリ。其ノ方法ニハ財産差押動産取上ゲ等アリ。又未確定ノ終局判決モ假執行ハ宣言ヲ爲シテ之レヲ執行スルコトアリ。其ノ趣旨ハ闕席ノ趣旨ニ同シ。而シテ民事訴訟ニ於テモ刑事訴訟ト同ジク上訴トシテ控訴上告抗告ノ三種アリ。而

四、上訴及再審

シテ上訴ノ外特別ノ場合ニ再審ノ訴ヲ許スコト亦刑事訴訟ニ同ジ。只民事訴訟ニハ非常上告ノ途ナシ。再審ハ確定終局判決ニ對スル取消又ハ原狀回復ノ訴ナリ。取消ノ訴ニヨル再審ハ判決裁判所ノ構成其ノ規則ニ違ヒ又ハ除斥忌避セラレタル判事裁判ニ參與シタル等ノ事實アルコトヲ要シ又原狀回復ノ訴ニ因ル再審ハ職務上ノ罪ヲ犯シタル判事裁判ニ參與シ又ハ一方ノ關係者ガ訴訟上罪トナルベキ行爲ヲ犯シタル等ノ事實アルコトヲ要ス。民事訴訟ノ再審ハ原裁判所之レヲ管轄スルノ點ニ於テ刑事訴訟ノ再審ト異ルモノナリ。即チ刑事訴訟ノ再審ハ上告裁判所之レヲ管轄スルモノトス。

五、民事訴訟特別手續

民事訴訟中公益上ノ必要、又ハ簡易迅速ヲ要スルノ必要ニヨリ特別手續ヲ設ク。其ノ主ナルモノ左ノ如シ。

民事訴訟手續

第一、人事訴訟手續

人事訴訟トハ親族法上及ビ相續法上ノ關係ヨリ生ズル、特別ノ訴訟ニシテ其ノ手續ハ人事訴訟手續法ノ定ムル所ニヨル。人事訴訟ノ目的左ノ如シ。

(一) 婚姻事件：婚姻ノ無効、取消、離婚又ハ夫婦同居

破産手續

第二、破産手續

破産法ニ曰ク商人ガ支拂ヲ停止シタルトキハ本人又ハ債權者ノ申立ニヨリ決定ヲ以テ破産ヲ宣告スト。故ニ破産ハ獨リ商人ノ支拂停止ニノミ適用セラル。通常人ノ無資力ノ場合ニハ別ニ家資分散法ヲ適用スルモノトス。破産ノ效力ハ破産者ヲシテ財產處分權ヲ喪失セシメ、又各債權者ヲシテ各自

督促手續

獨立ノ活動ヲササシメズシテ、一團體ヲ組成セシムルニ在リ。破産ハ通常破産債權ノ配當ニ依リテ其ノ局ヲ結ブモノトス。

第三、督促手續

督促手續ハ例ヘバ債務者ガ其ノ債務ナルコトヲ争ハザルガ如キ場合ニ於テ、債權者訴訟ヲ提起スルコトナリ、支拂命令ヲ發スルコトヲ申請シ以テ強制執行ヲ準備スル略式手續ナリ。支拂命令ニ對シ債務者ガ異議ノ申立ヲ爲サズ且債務ヲ履行セザルトキハ、更ニ假執行命令ヲ發シ、以テ強制執行ヲナスコトヲ許スモノトス。

第四、證書訴訟及ビ爲替訴訟

證書訴訟トハ一定金額代替物等ノ給付ヲ目的トシ、請求ノ理由タル事實ヲ證書ニ由リ證明シ得ベキコトヲ要件トシタル訴訟ヲ云フ。其ノ請求正當ナルトキハ執行力ヲ有スル判決ヲ付與ス。但シ被告ハ通常訴訟手續ニ依リ權利ヲ防禦スルコトヲ得ルモノナリ。爲替訴訟トハ商法ノ爲替手形約束手形、小切手ニ因ル請求ノ訴訟手續ニシテ大概證書訴訟ニ同ジ。

第五、公示催告手續

公示催告

證書及爲替訴訟

公示催告手續トハ相手方分明ナラザルトキ、之レヲシテ其ノ請求又ハ權利ノ届出ヲ爲サシムルタメ、一定ノ公示方法ニ依リテ、裁判所ガ其ノ届出ヲ督促スルノ手續ナリ。例ヘバ甲債權者ガ乙債務者ノ全財産ヲ差押ヘ、之レヲ競賣ニ付セントスルトキ、裁判所ガ甲債權者ノ申立ニ因リ、官報ノ廣告ヲ以テ他ノ不分明ナル債權者ノ配當加入ノ届出ヲ督促スルガ如シ。

第九章 國際法

第一節 總論

一、國際法ノ意義

國際法トハ國際團體ヲ組織スル各國家ノ承認ニ依リテ成立スル國家間ノ之ニ關スル法ヲ云フ。國際團體トハ國際法ノ適用セラル、國家ガ相集マリテ組織スル國家ノ團體ヲ云フ。而シテ國際團體ノ組織ニ加入セザル國家ハ、國際法ノ適用支配ヲ受ケザルモノトス。國內法ハ國家ニ依リテ強行セラル、ト雖モ、國際法ニハ之レヲ強行スベキ優勝ナル權力ノ存在ヲ缺クト云フノ事實ハ、國際法ニ關シ注意スベキ一ノ要點ナリ。然レドモ全ク制裁ナキニ非ラズ、國際法規ニ違反シタ

ルタメ賠償金ヲ支拂ヒ、又局外中立義務ニ違反シタル船舶ガ捕獲セラレ、ガ如キハ、皆制裁タルヲ失ハザルナリ。次ニ國際法ハ國家間ノ行爲ニ關スル規則ナルヲ以テ、個人及ビ國民ハ直接ニハ其ノ支配ヲ受ケルコトナキモノトス。

二、國際法ノ淵源

國際法ノ淵源トハ各國ガ或國際法規ノ存在ニ同意スル形式ナリ。淵源トナルベキ重ナルモノ左ノ如シ。

第一、慣習

- (一) 國際事件ノ歴史
- (二) 學者ノ著書
- (三) 各國ノ國法：中立規則捕獲犯罪人引渡、外交官領事制度等
- (四) 仲裁裁判ノ判決
- (五) 外交書

第二條約

- 條約中國國際法ノ原則ヲ確定シ又ハ創設スルモノ
- (一) 一七八〇年ノ武裝中立同盟ノ宣言 (局外中立法規)

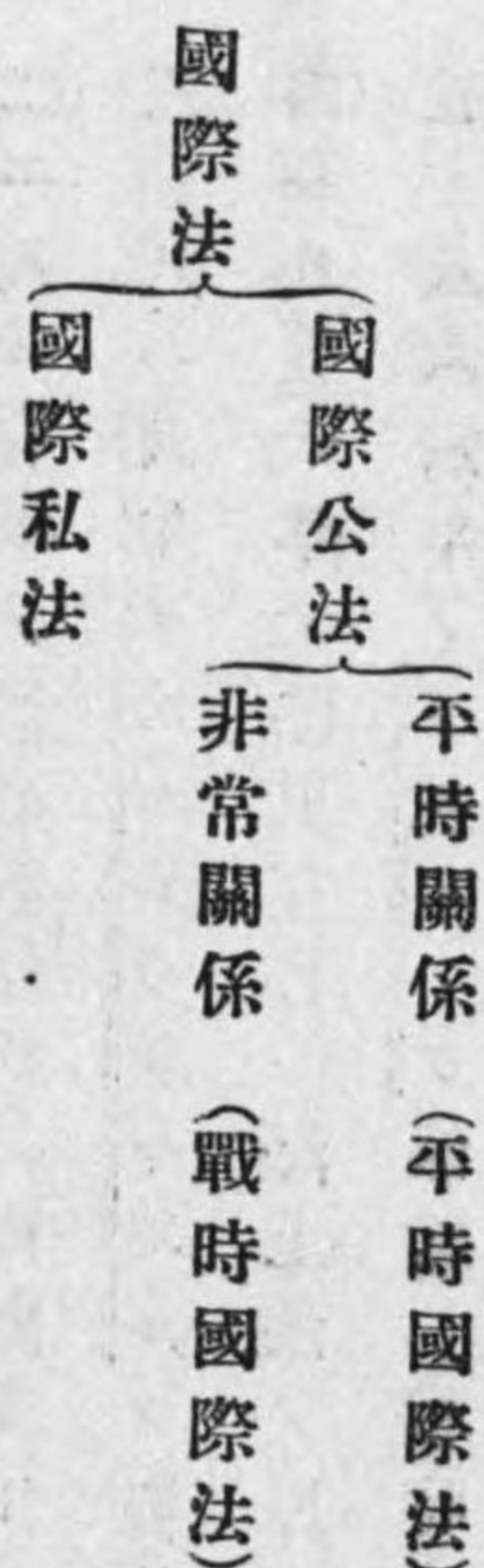
- (二) 一八一五年ノ維也納條約 (國際河川)
- (三) 一八一八年ノエキスラ、シヤヘルノ條約 (公使ノ階級)
- (四) 一八五六年ノ巴里宣言 (海上法ノ原則)
- (五) 一八六四年ノジュネーヴ條約 (戰時病傷者ノ待遇)
- (六) 一八六八年ノ聖彼得堡ノ宣言 (武裝ノ制限)
- (七) 一八八五年ノ伯林一般議定書 (コンゴ、ニール、ゲル河及奴隸商業等)
- (八) 一八九九年ノ海牙條約及宣言 (仲裁々判及戰爭法規等)

三、國際法ノ分類

國際法ヲ分チテ國際公法及ビ國際私法ノ二種トスルコト、宛モ國內法ヲ公私ノ二法ニ分ツト同シ。是レ方今歐洲大陸諸國ニ於ケル學者ノ通説ナリ。此ノ説ニヨレバ、凡ソ國家間ノ法律關係ハ二種ニ大別スルコトヲ得。即チ國家ノ公益ニ關スル國家間ノ法律關係ヲ規定スルモノハ國際公法ニシテ、國家ノ私益即チ其ノ國民ノ利益ニ關スル、國家間ノ法律關係ヲ規定スルモノハ國際私法ナリト云フニアリ。

近時右ノ説ニ對シテ異論ヲ唱フル學者アリ。曰ク國際私法ハ國內法ニシテ國

際法ニ非ラズ、何トナレバ他國ノ法律ハ國內ニ於テハ一箇ノ事實ニシテ、何等ノ效力ヲ有セズ。唯各國相互ノ利益ニ基ヅキ、一定ノ事件ニ關シテハ他國ノ法律ニ從フコトアルモ、是レ畢章國內法ノ規定ヲ以テ其ノ效力ヲ認メタルニヨルモノニシテ、國內法ヲ外ニシテ別ニ據ルベキノ國際私法アルニ非ラズト。此事實ニ理アリ。現ニ我が法例ノ如キハ、專ラ此ノ目的ノ爲メニ定メラレタリト云フコトヲ得。然レドモ若シ更ニ觀察點ヲ異ニシテ考フレバ、國際私法ハ國際法タルコトヲ妨グズ。蓋シ二國以上ノ人民間ノ關係ニ於テ、各其ノ國法ヲ異ニシ實際其ノ適用ニ苦ム場合ニ其ノ孰レヲ適用スベキカラ定ムルハ、主トシテ各國共通ノ慣例ト條理トニ基ヅクベキモノニシテ、自ラ一定ノ準據法ナキヲ得ズ。國際私法ノ由リテ生ズル所ハ茲ニ在リ。故ニ本書ハ通説ニ從ヒ左ノ如ク分類シ、此ノ順ニヨリテ國際法ノ大要ヲ説明セントス。(單ニ國際法トハ國際公法ヲ指ス語ナリ)



第二節 國際公法 (International Law)

一、國家基本權

國家ハ國際公法上ノ主體ナリ。國家基本權トハ國家ガ國際公法上、當然享有スベキノ權利ニシテ、特別ノ條約若クハ習慣ニ依リテ之ヲ享有スルモノニ非ズ。但特別ノ條約若クハ習慣ハ、却テ此ノ權利ヲ制限スルコト往々ニシテアリ。然レトキハ其ノ國家ハ國際公法上ノ主體トシテ不完全ノモノト爲ル。國家基本權ハ又國際原始權トモ稱ス。其ノ種類左ノ如シ。

第一、獨立權

獨立權トハ其ノ内治及ビ外交ニ於テ、他國ノ牽制ヲ受ケズシテ不羈獨立ナル權利ヲ有スルヲ云フ。國家ハ此ノ權利ヲ有スルガ爲メニ、内ニ立法司法行政ノ諸權ヲ行使シ、外ニ使臣ノ授受條約ノ締結又ハ宣戰媾和等ノ權ヲ有ス。而シテ内部ニ對スルモノヲ自主權ト稱シ、外部ニ對スルモノヲ獨立權ト云フ。通常國家ハ皆此ノ獨立權ヲ有スルヲ原則トス。此ノ原則ノ例外トシテ、局外中立國、被保護國、附庸國等ハ、獨立權ノ制限ヲ受クルモノナリ。

第二、自衛權

自衛權トハ國家ガ各自其ノ存立ヲ維持スルノ權利ニシテ、國家ハ其ノ存立ヲ害セントスル一切ノ事實ニ對シテ、極力之レヲ除去スルコトヲ得ルモノナリ。即チ國家ハ自衛ノ必要ヲ理由トシテ、他國ノ内治外交ニ干涉シ、威力ヲ以テ一切ノ要求ヲ強ヒ、或ハ他國ノ領土ニ兵ヲ進メ、或ハ公海上他國ノ船舶ヲ拿捕シ、其ノ他必要ナル範圍ニ於テ如何ナル緊急手段モ之レヲ執ルコトヲ得ベシ。是等ノ行爲タル本來他國ノ獨立權ト相容レザル所ナリト雖モ、唯其ノ自衛權ヲ理由トスル場合ニ限り正當ナリ。我ガ國ガ露國ト戰ヒ或ハ韓國ニ兵ヲ容ル、モ、皆是レ自衛ノ必要ニ出デタルモノナリ。國際法學者曰ク一國ノ自衛權ハ他國ノ獨立權ニ優先スト。自衛權ハ條約ニ因リテ制限セラル、トアリ。一八五六年ノ巴里條約ニヨリ、露國ガ黑海ニ軍艦ヲ浮ベ、又其ノ沿岸ニ城塞ヲ築クコトヲ禁ゼラレタルガ如キハ著名ノ例トス。

第三、平等權

平等權トハ各自獨立權ヲ有スル國家ノ相互間、國際法上一様平等ナルヲ云フ。例ヘバ國際團體内ニ在リテ各國各一個ノ表決權ヲ有シ、或ハ各國ガ外交

上ニ於テ自國國語ヲ使用シ、或ハ帝王ノ號ヲ稱シ、又禮式儀式ニ對シテ對等ナルガ如キ皆是レ平等權ノ發現ナリ。故ニ此ノ權利ハ國家ガ外交上ノ實際ニ有スル勢力、又ハ國土ノ大小、實力ノ強弱等ニ妨ゲラル、コトナキモノトス。

第四、榮譽權

國家ハ互ニ他國ノ獨立權ヲ尊重セザルベカラズ、故ニ國家ハ他國ニ對シ自國ノ品位ヲ維持シ相當ノ尊敬ヲ受クルノ權利ヲ有ス。例ヘバ國家ノ元首若クハ使臣ガ外國ニ在リテ一定ノ特權ヲ有シ、又他國ノ政府若クハ國民ヲシテ自國ノ國號、國旗、軍艦旗、紋章等ニ對シ、侮辱ヲ加フルコトナカラシムルガ如キハ皆此ノ榮譽權ノ效果ナリ。

第五、交通權

各國家相集マリテ國際團體ヲ組織スル以上ハ、相互交通ノ必要アリ。一ノ國家ガ苟モ國際團體ニ於テ、權利ノ主體トシテ承認セラル、以上ハ、自由交通ノ權利ヲ有シ、又同時ニ其ノ義務ヲ負ハザルベカラズ。故ニ國家ハ相互ニ交通ノ要求ヲ拒絕スルコトヲ得ズ。又第三國ハ其ノ交通ヲ廢止シ若クハ妨礙スルコトヲ得ズ。而シテ國際交通權ハ之レヲ大別スルトキハ、各國政府ガ公

務上相互ニ交通スルノ權利ト、各國々民ヲシテ相互ニ交通セシムルノ權利トスルコトヲ得。前者ノ關係ハ主トシテ國際慣習ニ基ヅキテ定マリ、後者ノ關係ハ主トシテ通商條約ニヨリテ定マルモノナリ。

二、條約

第一條約ノ意義

條約トハ國際法上ノ效果ヲ目的トスル國家間ノ合意(約束)ヲ云フ。此ノ意義ヲ左ニ分析シテ説明スベシ。

- (一)當事者トシテ二箇以上ノ國アルコトヲ要シ、而モ其ノ當事國ハ國際法上ノ能力ヲ有セザルベカラズ。故ニ被保護國又ハ附庸國ハ自ラ他國ト條約ヲ結ブコトヲ得ズシテ、保護國又ハ宗主國ニ於テ之レガ爲ニ代リテ條約ヲ締結スルモノトス。
- (二)一定ノ目的アリテ且其ノ目的ハ國際法ノ效果ヲ生ズルモノナルコトヲ要ス。例ヘバ通商航海ニ關シ、又ハ領土割讓ニ關シテ結約セントスルガ如シ。而シテ其ノ目的ハ國際法ノ原則ニ違反スル事項、又ハ不能ノ事項ヲ目的トスルコトヲ得ズ。

- (三)合意即チ當事國家ノ意思ノ合致アルコトヲ要ス。而シテ合意ハ任意ニシテ且自由ナルコトヲ要ス。
- (四)現今一般ノ慣例上必ラズ文書ヲ以テ認ム。但シ文體及ビ用語ニハ定規ナシ。

第二條約ノ拘束力

條約成立スルトキハ其ノ當事國ハ當然之レニ拘束セラル、モノトス。即チ各當事國ハ互ニ其ノ條約ノ規定ヲ實行スベキ義務ヲ有ス。而シテ其ノ條約ガ若シ當事國ノ憲法又ハ法律ニ牴觸スルトキハ、當事國ハ其ノ憲法又ハ法律ヲ改正スルノ義務アリ。又新ニ法令ノ制定ヲ要スルトキハ、之レヲ制定スルノ義務アリ。若シ夫レ條約ガ國內ニ於テ法規タルノ效力ヲ有スルカ、將々別ニ法令ノ形式ヲ採ルコトヲ要スルカノ問題ハ、國內法ニヨリテ之レヲ決セザルベカラズ。我ガ國ニ於テハ條約ハ、條約トシテ法規タルノ效力ヲ有ス。

第三條約ノ締結

條約ヲ締結スルノ序左ノ如シ。

- (一)當事國ニ於テ各一人又ハ數人ノ全權委員ヲ選定シ、授クルニ條約文ヲ議決

條約成立期

スルノ權ヲ以テス。

(二) 全權委員會見シタルトキハ互ニ其ノ全權狀ヲ審査シ、缺點ナキコトヲ確メタル後商議ヲ開始ス。

(三) 商議終結シタルトキハ條約書ヲ作り、全權委員各自之レニ署名調印シ、更ニ各本國ノ元首ノ批准又ハ議會ノ協贊ヲ經タル後、其ノ批准書ヲ交換ス。

我が國ニ於テハ條約締結權ハ天皇ニ專屬シ、他ノ國家機關ノ參與ヲ要セザルモノトス。廣ク條約書ト稱スル中ニハ協議ノ結果ヲ證明スル文書タル議定及ビ決意ヲ表示スル宣言書ヲ包含スルモノトス。又條約書ハ覺書又ハ取極書等ノ名ヲ用キルコトアリ。其ノ形式異ルモ效力ハ同ジキモノナリ。

第四條約成立ノ時期

條約ハ議定ノ時成立スルカ、批准ノ時成立スルカ、批准書交換ノ時成立スルカノ問題アリ。我が國ニ於テハ批准ノ時成立シ、其ノ時ヨリ始メテ效力ヲ生ズルモノトス。其ノ批准書ノ交換ガ條約ノ成立及ビ效力ノ發生ニ必要ナラズトスルハ、學說ノ一致スル所ナリ。

批准ハ全權委員狀ヲ有スル代表者ノ締結セル條約ノ案文ニヨリ、其ノ國家

條約ノ種類

永久條約ト一時條約ト

對等條約ト不對等條約ト

ノ主權者ガ相手方ノ國家ニ對シ、條約締結ノ意思ヲ確定スル行爲ナリ。批准ヲナスハ君主國ニ於テハ君主ニシテ、民主國ニ於テハ大統領ナリ。而シテ批准ヲナスニ當リ、議會ノ協贊ヲ要スル國ト要セザル國トアリ。

第五條約ノ種類

條約ノ種類ハ學者ニヨリ各異ナル說ヲ述ブ。左ニ重ナル種類ヲ舉グベシ。

(一) 永久條約ト一時條約ト

條約ノ期間永久ナルモノヲ永久條約ト云ヒ、一時的ナルヲ一時條約ト云フ。例ヘバ日清媾和條約ハ永久條約ニシテ、日英同盟條約ハ一時條約ナリ。

(二) 對等條約ト不對等條約ト

對等條約トハ締約國間ニ於テ、同等又ハ同一ナル事項ヲ、互ニ相手國ニ對シテ爲スコトヲ約束シタルモノニシテ、其ノ條約ノ關係上相互ノ地位ガ同等ト認メラレタルモノヲ云フ。之レニ反シテ其ノ條約ノ關係上締約國相互ノ地位ガ不同等ナル條約ヲ不對等條約ト云フ。現時國際條約上對等條約ナルヤ否ヤヲ區別スル標準ハ、主トシテ領事裁判權ノ有無ニヨル。例ヘ

政治的條約
社會的條約

通商條約
航海條約

媾和條約
修好條約

バ現今我が國ト歐米諸國トノ間ニ締結シタル條約ハ凡テ對等條約ニシテ、
我が國ト清國及ビ暹羅國トノ條約ハ不對等條約ナリ。

(三) 政治的條約ト社會的條約
政治的條約トハ同盟條約媾和條約割讓條約ノ如キモノヲ云ヒ、社會的條約トハ通商航海條約犯罪人引渡條約ノ如キヲ云フ。

(四) 通商條約ト航海條約
通商條約トハ其ノ國民間ノ商業ニ關スル條約ニシテ、列國間ノ交通通商上必要ナルモノナリ。其ノ内容ハ商品ノ輸出入運送課稅免稅等ノ事項ナリ。航海條約トハ航海ニ關シタル規定ニシテ、各締約國ノ商船ガ相手國ノ領海及ビ港灣内ニ航海若クハ碇泊スル場合ニ關スル事項、又ハ商品ノ陸上積荷ニ關スル事項、其ノ他沿海貿易沿海漁業水先案内等ニ關スル條約ナリ。

(五) 媾和條約ト修好條約
交戰國其ノ戰爭ヲ終了シテ、平和ノ狀態ヲ回復スルコトヲ規定シタル條約ヲ媾和條約ト云ヒ、各國家ガ互ニ友誼ヲ保チ平和的ノ國交ヲ爲シ、相互ノ

條約ノ消滅

第六條約ノ消滅

利益ヲ増進センコトヲ約束セル條約ヲ修好條約ト云フ。

條約消滅ノ原因左ノ如シ。

- (一) 履行ノ終了：例ハ國土割讓條約ニヨリ割讓ノ手續ヲ終リタルガ如シ。
- (二) 條件ノ發生：條件ノ成就及ビ不成就ニヨリテ消滅ス。
- (三) 期間ノ滿了：條約有效期間ノ滿了ニヨリ消滅ス。延期更新ノ場合ヲ生ズ。
- (四) 解除權ノ行使：締約國ノ一方ガ條約ニ違背スルトキ他ノ一方モ廢棄ス。
- (五) 雙方ノ合意：締約國雙方ノ合意ヲ以テ條約ヲ廢止ス。
- (六) 戰爭ノ開始：締約國間一切ノ平時關係ヲ解除スルガ故ニ條約モ消滅ス。

第七、最惠國條款

最惠國條款トハ一國ガ他國ニ對シ、現在又ハ將來ニ於テ第三國ニ許與スベキ利益ノ全部又ハ一部ニ均霑セシムベキコトヲ約スル條款ナリ。而シテ茲ニ所謂第三國ハ即チ最惠國ナリ。近來各國ノ條約中最惠國條款ヲ包含スルモノ多シ。例ハ通商條約ノ類ハ大概之レヲ採用スルニ至レリ。

最惠國條款ノ性質ハ停止條件附ノ合意ナリ。故ニ條約國ノ一方ガ若シ第